

栃木県次期プランに関する市町村長意向調査

報 告 書

平成26年8月

栃 木 県

# 目 次

## 第1章 調査結果の概要

1 調査の目的 .....	1
2 調査項目 .....	1
3 調査の実施方法 .....	1

## 第2章 意向調査の結果

1 “とちぎ”の現状評価と今後の行政の取組のあり方	
(1) “とちぎ”の現状評価【満足度・不満度】 .....	2
①満足度 .....	6
②不満度 .....	9
(2) 今後の行政の取組のあり方 .....	12
①重要度 .....	15
(3) 県民意向調査との比較 .....	19
(4) 住民と行政の役割分担のあり方 .....	24
(5) 今後の市町村の役割 .....	35
(6) 満足度・重要度・役割分担の相関	
①満足度と重要度の相関 .....	41
②重要度・役割分担の相関 .....	43
③満足度・役割分担の相関 .....	45
2 「人口減少問題」について	
(1) 今後の人口動態の推移について	
①人口の推移について .....	46
②自然動態の推移について .....	49
③社会動態の推移について .....	51
(2) 「人口減少問題」への今後の対策	
①少子化対策として有効と考えているもの .....	53
②人口流出防止対策として有効と考えているもの .....	56
③人口減少に歯止めがかからない場合に生じる、 行政運営上の課題 .....	59
(3) 自由意見 .....	62

3 今後の重点推進項目について	
(1) 今後重点的に推進していくべき項目 .....	65
(2) 今後重点的に推進していくべき項目の具体的内容等 .....	68
4 市町村の特色ある地域づくりについて	
(1) 特色ある地域づくりの核として活かしたいもの .....	74
(2) 経年変化 .....	76
(3) 特色ある地域づくりの核として活かしたいものの具体的内容 .....	77
5 望ましい「“とちぎ”の姿」について	
(1) 望ましい「“とちぎ”の姿」 .....	81
(2) 経年変化 .....	86
(3) 自由意見 .....	87
6 次期プランへの意見・要望 .....	88
<b>「参考資料」</b>	
○市町村長アンケート調査票 .....	91

# 「栃木県の次期プランに関する市町村意向調査」

## 第1章 調査結果の概要

### 1 調査の目的

この調査は、栃木県次期プラン策定に当たり、今後の本県の目指すべき将来像や“とちぎ”の現状についての評価及び各市町村において重点的に推進していく項目などについて、市町村長の意向や要望を把握し、次期プランに反映させることを目的に実施したものである。

### 2 調査項目

- |    |                         |
|----|-------------------------|
| 問1 | “とちぎ”の現状評価と今後の行政の取組のあり方 |
| 問2 | 「人口減少問題」について            |
| 問3 | 今後の重点推進項目について           |
| 問4 | 特色ある地域づくりについて           |
| 問5 | 望ましい「“とちぎ”の姿」について       |
| 問6 | 次期プランへの意見・要望            |

※問1と問5は、本年2月に実施した県民意向調査（5,000人対象）と同じ項目である。

### 3 調査の実施方法

この調査は、県内全市町村長あて、本年6月に郵送により実施したものである。

## 第2章 意向調査の結果

### 1 “とちぎ”の現状評価と今後の行政の取組のあり方

#### (1) “とちぎ”の現状評価【満足度・不満度】

##### 【 結果概要 】

市・町別で見ると、市は「37 身近にできる環境保全活動」及び「39 環境にやさしいエネルギーの地産地消の挑戦」の満足度が高く、「18 地域で安心できる医療の確保」の不満度が高い。町は、「2 【子ども世代】生きる力をはぐくむ」の満足度が高く、「34 住み続けたい、住んでみたい地域づくり」の不満度が高い。  
 「34 住み続けたい、住んでみたい地域づくり」は、市・町共に不満度の上位に挙げられているが、その割合は町が約91.0%に対し、市は50.0%と開きがある。

##### 【 調査内容 】

行政の取組だけでなく民間等の活動も含めて、市町村長が、“とちぎ”の現状をどう評価しているかを把握するため、「新とちぎ元気プラン」の施策体系に基づく47項目について、次の区分により選択。

【現状評価の程度】  
 5 充実している                      4 比較的充実している              3 どちらともいえない  
 2 やや不十分である              1 不十分である

【満足度】 . . . 「充実している」「比較的充実している」と回答した割合の合計

【不満度】 . . . 「やや不十分である」「不十分である」と回答した割合の合計

##### 【 調査結果(上位抜粋) 】

###### ・市町全体(25市町)

【満足度】の高い項目	回答数	%	【不満度】の高い項目	回答数	%
14 学校及び学校周辺における安全の確保	12	48.0	34 住み続けたい、住んでみたい地域づくり	17	68.0
37 身近にできる環境保全活動の推進	12	48.0	46 身近な社会資本と生活基盤の整備	14	56.0
39 環境にやさしいエネルギーの地産地消の挑戦	12	48.0	18 地域で安心できる医療の確保	13	52.0
2 【子ども世代】生きる力をはぐくむ	11	44.0	6 【若者～大人世代】多様な能力を活かす	12	48.0
25 高齢者の交通事故抑止	11	44.0	22 地域の移動手段の確保	12	48.0
30 力強い農業の推進	11	44.0	29 戦略的な企業誘致の推進	12	48.0
			32 魅力あふれる観光地づくり	12	48.0

・市全体(14市)

【満足度】の高い項目	回答数	%	【不満足】の高い項目	回答数	%
37 身近にできる環境保全活動の推進	8	57.1	18 地域で安心できる医療の確保	8	57.1
39 環境にやさしいエネルギーの地産地消の挑戦	8	57.1	32 魅力あふれる観光地づくり	7	50.0
14 学校及び学校周辺における安全の確保	7	50.0	34 住み続けたい、住んでみたい地域づくり	7	50.0
45 原子力災害対策	7	50.0	44 災害に強い地域づくり	7	50.0
			46 身近な社会資本と生活基盤の整備	7	50.0

・町全体(11町)

【満足度】の高い項目	回答数	%	【不満足】の高い項目	回答数	%
2 【子ども世代】生きる力をはぐくむ	6	54.5	34 住み続けたい、住んでみたい地域づくり	10	90.9
14 学校及び学校周辺における安全の確保	5	45.5	6 【若者～大人世代】多様な能力を活かす	8	72.7
25 高齢者の交通事故抑止	5	45.5	46 身近な社会資本と生活基盤の整備	7	63.6
30 力強い農業の推進	5	45.5	9 スポーツによる健やかな人づくりと世代間交流の促進	6	54.5
33 戦略的な誘客の推進	5	45.5	22 地域の移動手段の確保	6	54.5
			27 本県の強みを活かした産業の振興	6	54.5
			29 戦略的な企業誘致の推進	6	54.5
			35 交流と連携によるにぎわいのある地域づくり	6	54.5

## (2) 経年変化（満足度）

### 【 結果概要 】

「37 身近にできる環境保全活動の推進」、「39 環境にやさしいエネルギーの地産地消の挑戦」は、前回(平成21年)の42位から今回1位へと、満足度が大きくあがった。  
 今回の調査では、半数以上の市町村が満足と回答した項目はなかった。

### 【 調査内容 】

前回(平成21年)実施した調査と比較し、経年変化を見た。  
 なお、項目が前回調査と一致しないため、取組が類似している項目と比較した。

### 【 調査結果 】

< 今回調査結果 >

順位	項目	回答数	%	前回順位
1	14 学校及び学校周辺における安全の確保	12	48.0%	16
	37 身近にできる環境保全活動の推進	12	48.0%	42
	39 環境にやさしいエネルギーの地産地消の挑戦	12	48.0%	42
4	2 【子ども世代】 生きる力をはぐくむ	11	44.0%	5
	25 高齢者の交通事故抑止	11	44.0%	16
	30 力強い農業の推進	11	44.0%	6
7	24 犯罪が発生しにくい地域づくり	9	36.0%	16
	33 戦略的な誘客の推進	9	36.0%	12
	42 とちぎの豊かな自然環境の保全	9	36.0%	16
	43 生物多様性の確保	9	36.0%	-
	45 原子力災害対策	9	36.0%	-
12	8 地域文化を通じた心豊かな人づくりと世代間交流の促進	8	32.0%	12
	11 保育サービスの充実	8	32.0%	12
	17 長寿社会における健康づくりの推進	8	32.0%	16
	29 戦略的な企業誘致の推進	8	32.0%	23
16	5 【子育て世代】 子育て力をはぐくむ	7	28.0%	12
	10 地域における子育ての支援	7	28.0%	12
	21 住民の助け合いによる防犯・防災の促進	7	28.0%	16
	23 消費生活における安全・安心の確保	7	28.0%	34
	36 環境を守る人材の育成	7	28.0%	42
21	1 【子ども世代】 成長の基礎をはぐくむ	6	24.0%	5
	9 スポーツによる健やかな人づくりと世代間交流の促進	6	24.0%	6
	12 子どもを守りはぐくむ体制づくり	6	24.0%	12
	15 地域における支え合いの推進	6	24.0%	42
	18 地域で安心できる医療の確保	6	24.0%	30
	27 本県の強みを活かした産業の振興	6	24.0%	47
	31 フードバレーとちぎの推進	6	24.0%	23
	38 暮らしにおける低炭素社会に向けた取組の推進	6	24.0%	42
	41 持続的発展が可能な循環型社会の形成促進	6	24.0%	47
30	26 被害者等支援の推進	5	20.0%	16
	32 魅力あふれる観光地づくり	5	20.0%	12
	34 住み続けたい、住んでみたい地域づくり	5	20.0%	36
33	16 障害者が地域で暮らせる体制づくり	4	16.0%	23
	35 交流と連携によるにぎわいのある地域づくり	4	16.0%	36
	46 身近な社会資本と生活基盤の整備	4	16.0%	2
36	4 【大人世代】 挑戦する心をはぐくむ	3	12.0%	36
	7 【シルバー世代】 知恵と能力を活かす	3	12.0%	6
	22 地域の移動手段の確保	3	12.0%	42
	28 挑戦し、成長する企業の創出	3	12.0%	36
	47 雇用対策	3	12.0%	50
41	3 【若者世代】 自立する力をはぐくむ	2	8.0%	30
	13 仕事と子育ての両立支援	2	8.0%	12
	19 総合的な自殺対策の推進	2	8.0%	-
	20 住民による地域コミュニティの再生	2	8.0%	23
	44 災害に強い地域づくり	2	8.0%	30
46	40 環境関連産業の振興による環境先進県とちぎづくり	1	4.0%	36
47	6 【若者～大人世代】 多様な能力を活かす	0	0.0%	42

※前回順位の「-」は、比較できる類似項目がないことを示す。

< 前回(H21)調査結果 >

順位	項目	回答数	%
1	27 安全で安定した水の供給	21	70.0%
2	30 体系的な道路網の整備	15	50.0%
3	7 生涯学習の推進	13	43.3%
4	35 憩いと安らぎの公園や水辺空間づくり	12	40.0%
5	1 学ぶ力をはぐくむ教育の充実	11	36.7%
6	2 心の教育の推進	10	33.3%
	3 健康な体づくりと学校安全教育の充実	10	33.3%
	9 県民総スポーツの推進	10	33.3%
	13 高齢者の自立支援と生きがいづくりの推進	10	33.3%
	19 多様なニーズに対応できる強い農業の確立	10	33.3%
	28 生活排水処理施設の整備・普及	10	33.3%
12	8 県民文化の振興	9	30.0%
	12 安心して子どもを産み育てることができる環境づくり	9	30.0%
	36 魅力ある“観光とちぎ”づくり	9	30.0%
	44 環境を支える森林づくり	9	30.0%
16	4 個性を生かす特色ある教育の充実	8	26.7%
	16 健康づくりと疾病予防対策の推進	8	26.7%
	21 人と環境にやさしい農業の展開	8	26.7%
	34 美しい景観とみどりづくり	8	26.7%
	39 情報ネットワーク社会の推進	8	26.7%
	45 豊かな自然環境の保全とふれあい活動の推進	8	26.7%
	46 安全で安心なまちづくりの推進	8	26.7%
23	6 青少年を取り巻く環境の整備	7	23.3%
	10 人権尊重の社会づくり	7	23.3%
	14 障害者の自立支援と豊かな地域生活の実現	7	23.3%
	20 農業を支える基盤づくり	7	23.3%
	25 成長性に富む企業の立地・定着促進	7	23.3%
	33 いきいきとした農山村づくり	7	23.3%
	49 防災・危機管理対策の充実	7	23.3%
30	5 自立した青少年の育成	6	20.0%
	17 安心で良質な医療の確保	6	20.0%
	40 良好な地域環境の保全	6	20.0%
	50 防災基盤の整備	6	20.0%
34	47 総合的な交通安全対策の推進	5	16.7%
	48 安心できる消費生活の実現	5	16.7%
36	11 男女共同参画社会の実現	4	13.3%
	18 食品の安全と生活衛生の確保	4	13.3%
	23 地域経済を牽引する産業の振興	4	13.3%
	31 個性の輝く地域づくり	4	13.3%
40	32 活気あふれるまちづくり	3	10.0%
	37 国際化の推進	3	10.0%
42	15 地域の保健・福祉を支える基盤づくり	2	6.7%
	29 公共交通ネットワークの整備	2	6.7%
	38 社会貢献活動の促進	2	6.7%
	41 3R（発生抑制、再使用、再生利用）の推進	2	6.7%
	43 地球温暖化防止をはじめとした環境保全活動の推進	2	6.7%
47	22 活力ある林業・木材産業の振興	1	3.3%
	24 地域に根ざした産業の振興	1	3.3%
	42 廃棄物処理対策の推進	1	3.3%
50	26 産業人材の育成と円滑な就労の促進	0	0.0%

## (2) 経年変化（不満度）

### 【 結果概要 】

今回、前回(平成21年)とも、「18 地域で安心できる医療の確保」「22 地域の移動手段の確保」「47 雇用対策」などの不満度が高かった。

前回と比べ、「32 魅力あふれる観光地づくり」「33 戦略的な誘客の推進」「44 災害に強い地域づくり」の不満度が大きくあがった。

### 【 調査内容 】

前回(平成21年)実施した調査と比較し、経年変化を見た。

なお、項目が前回調査と一致しないため、取組が類似している項目と比較した。

### 【 調査結果 】

#### <今回調査結果>

順位	項目	回答数	%	前回順位
1	34 住み続けたい、住んでみたい地域づくり	17	68.0%	15
2	46 身近な社会資本と生活基盤の整備	14	56.0%	18
3	18 地域で安心できる医療の確保	13	52.0%	1
4	6 【若者～大人世代】多様な能力を活かす	12	48.0%	9
	22 地域の移動手段の確保	12	48.0%	9
	29 戦略的な企業誘致の推進	12	48.0%	27
6	32 魅力あふれる観光地づくり	12	48.0%	43
	16 障害者が地域で暮らせる体制づくり	11	44.0%	15
	44 災害に強い地域づくり	11	44.0%	31
8	47 雇用対策	11	44.0%	6
	13 仕事と子育ての両立支援	10	40.0%	11
	33 戦略的な誘客の推進	10	40.0%	43
11	35 交流と連携によるにぎわいのある地域づくり	10	40.0%	15
	9 スポーツによる健やかな人づくりと世代間交流の促進	9	36.0%	27
	12 子どもを守りはぐくむ体制づくり	9	36.0%	11
14	27 本県の強みを活かした産業の振興	9	36.0%	3
	28 挑戦し、成長する企業の創出	9	36.0%	21
	31 フードバレーとちぎの推進	9	36.0%	15
	4 【大人世代】挑戦する心をはぐくむ	8	32.0%	35
19	30 力強い農業の推進	8	32.0%	21
	3 【若者世代】自立する力をはぐくむ	7	28.0%	21
21	5 【子育て世代】子育て力をはぐくむ	7	28.0%	11
	8 地域文化を通じた心豊かな人づくりと世代間交流の促進	7	28.0%	31
	10 地域における子育ての支援	7	28.0%	11
	17 長寿社会における健康づくりの推進	7	28.0%	35
	20 住民による地域コミュニティの再生	7	28.0%	6
	26 被害者等支援の推進	7	28.0%	18
	40 環境関連産業の振興による環境先進県とちぎづくり	7	28.0%	21
	41 持続的発展が可能な循環型社会の形成促進	7	28.0%	4
	19 総合的な自殺対策の推進	6	24.0%	-
	30	21 住民の助け合いによる防犯・防災の促進	6	24.0%
38 暮らしにおける低炭素社会に向けた取組の推進		6	24.0%	2
43 生物多様性の確保		6	24.0%	-
34	1 【子ども世代】成長の基礎をはぐくむ	5	20.0%	27
	2 【子ども世代】生きる力をはぐくむ	5	20.0%	27
	7 【シルバー世代】知恵と能力を活かす	5	20.0%	11
	11 保育サービスの充実	5	20.0%	11
	37 身近にできる環境保全活動の推進	5	20.0%	2
	39 環境にやさしいエネルギーの地産地消の挑戦	5	20.0%	2
41	45 原子力災害対策	5	20.0%	-
	15 地域における支え合いの推進	4	16.0%	11
	36 環境を守る人材の育成	4	16.0%	2
44	42 とちぎの豊かな自然環境の保全	4	16.0%	46
	23 消費生活における安全・安心の確保	3	12.0%	35
	14 学校及び学校周辺における安全の確保	2	8.0%	18
45	24 犯罪が発生しにくい地域づくり	2	8.0%	18
	25 高齢者の交通事故抑止	2	8.0%	18

※前回順位の「-」は、比較できる類似項目がないことを示す。

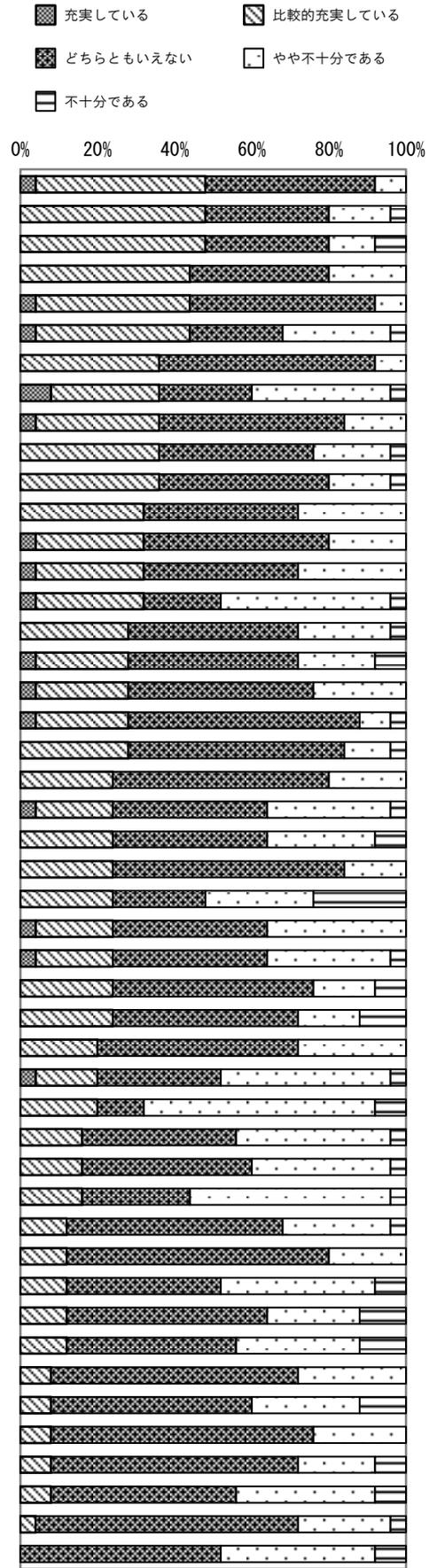
#### <前回(H21)調査結果>

順位	項目	回答数	%
1	17 安心で良質な医療の確保	20	66.7%
2	43 地球温暖化防止をはじめとした環境保全活動の推進	19	63.3%
3	24 地域に根ざした産業の振興	18	60.0%
4	22 活力ある林業・木材産業の振興	16	53.3%
	42 廃棄物処理対策の推進	16	53.3%
6	33 いきいきとした農山村づくり	14	46.7%
	41 3R（発生抑制、再使用、再生利用）の推進	14	46.7%
9	26 産業人材の育成と円滑な就労の促進	14	46.7%
	29 公共交通ネットワークの整備	13	43.3%
11	38 社会貢献活動の促進	13	43.3%
	13 高齢者の自立支援と生きがいがつくりの推進	12	40.0%
12	12 安心して子どもを生み育てることができる環境づくり	12	40.0%
	32 活気あふれるまちづくり	12	40.0%
	15 地域の保健・福祉を支える基盤づくり	12	40.0%
15	14 障害者の自立支援と豊かな地域生活の実現	11	36.7%
	20 農業を支える基盤づくり	11	36.7%
	31 個性の輝く地域づくり	11	36.7%
18	30 体系的な道路網の整備	10	33.3%
	39 情報ネットワーク社会の推進	10	33.3%
	46 安全で安心なまちづくりの推進	10	33.3%
21	19 多様なニーズに対応できる強い農業の確立	9	30.0%
	44 環境を支える森林づくり	9	30.0%
	34 美しい景観とみどりづくり	9	30.0%
	5 自立した青少年の育成	9	30.0%
	47 総合的な交通安全対策の推進	9	30.0%
27	23 地域経済を牽引する産業の振興	9	30.0%
	1 学ぶ力をはぐくむ教育の充実	8	26.7%
	9 県民総スポーツの推進	8	26.7%
31	25 成長性に富む企業の立地・定着促進	8	26.7%
	37 国際化の推進	8	26.7%
	35 憩いと安らぎの公園や水辺空間づくり	7	23.3%
35	28 生活排水処理施設の整備・普及	7	23.3%
	8 県民文化の振興	7	23.3%
	50 防災基盤の整備	7	23.3%
43	2 心の教育の推進	6	20.0%
	4 個性を生かす特色ある教育の充実	6	20.0%
	16 健康づくりと疾病予防対策の推進	6	20.0%
	21 人と環境にやさしい農業の展開	6	20.0%
	6 青少年を取り巻く環境の整備	6	20.0%
	49 防災・危機管理対策の充実	6	20.0%
44	48 安心できる消費生活の実現	6	20.0%
	11 男女共同参画社会の実現	6	20.0%
	36 魅力ある“観光とちぎ”づくり	5	16.7%
46	3 健康な体づくりと学校安全教育的の充実	4	13.3%
	40 良好な地域環境の保全	4	13.3%
48	45 豊かな自然環境の保全とふれあい活動の推進	3	10.0%
	18 食品の安全と生活衛生の確保	3	10.0%
50	27 安全で安定した水の供給	2	6.7%
	10 人権尊重の社会づくり	2	6.7%
	7 生涯学習の推進	1	3.3%

①満足度(市町全体、25市町)

(n=25)

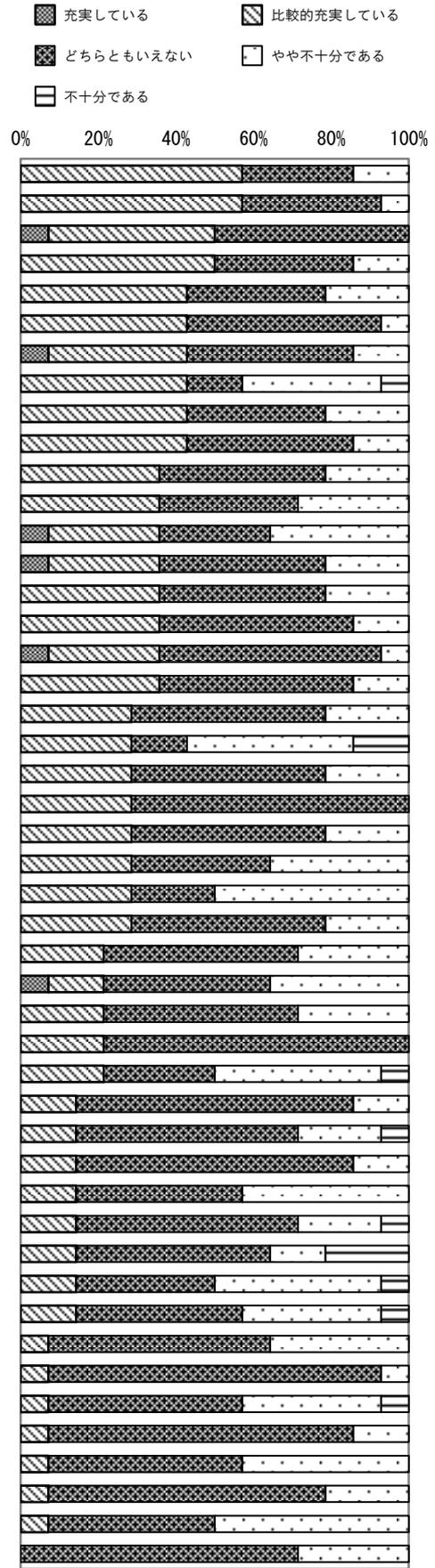
項目	回答数	%
14 学校及び学校周辺における安全の確保	12	48.0%
37 身近にできる環境保全活動の推進	12	48.0%
39 環境にやさしいエネルギーの地産地消の挑戦	12	48.0%
2 【子ども世代】生きる力をはぐくむ	11	44.0%
25 高齢者の交通事故抑止	11	44.0%
30 力強い農業の推進	11	44.0%
24 犯罪が発生しにくい地域づくり	9	36.0%
33 戦略的な誘客の推進	9	36.0%
42 とちぎの豊かな自然環境の保全	9	36.0%
43 生物多様性の確保	9	36.0%
45 原子力災害対策	9	36.0%
8 地域文化を通じた心豊かな人づくりと世代間交流の促進	8	32.0%
11 保育サービスの充実	8	32.0%
17 長寿社会における健康づくりの推進	8	32.0%
29 戦略的な企業誘致の推進	8	32.0%
5 【子育て世代】子育て力をはぐくむ	7	28.0%
10 地域における子育ての支援	7	28.0%
21 住民の助け合いによる防犯・防災の促進	7	28.0%
23 消費生活における安全・安心の確保	7	28.0%
36 環境を守る人材の育成	7	28.0%
1 【子ども世代】成長の基礎をはぐくむ	6	24.0%
9 スポーツによる健やかな人づくりと世代間交流の促進	6	24.0%
12 子どもを守りはぐくむ体制づくり	6	24.0%
15 地域における支え合いの推進	6	24.0%
18 地域で安心できる医療の確保	6	24.0%
27 本県の強みを活かした産業の振興	6	24.0%
31 フードバレーとちぎの推進	6	24.0%
38 暮らしにおける低炭素社会に向けた取組の推進	6	24.0%
41 持続的発展が可能な循環型社会の形成促進	6	24.0%
26 被害者等支援の推進	5	20.0%
32 魅力あふれる観光地づくり	5	20.0%
34 住み続けたい、住んでみたい地域づくり	5	20.0%
16 障害者が地域で暮らせる体制づくり	4	16.0%
35 交流と連携によるにぎわいのある地域づくり	4	16.0%
46 身近な社会資本と生活基盤の整備	4	16.0%
4 【大人世代】挑戦する心をはぐくむ	3	12.0%
7 【シルバー世代】知恵と能力を活かす	3	12.0%
22 地域の移動手段の確保	3	12.0%
28 挑戦し、成長する企業の創出	3	12.0%
47 雇用対策	3	12.0%
3 【若者世代】自立する力をはぐくむ	2	8.0%
13 仕事と子育ての両立支援	2	8.0%
19 総合的な自殺対策の推進	2	8.0%
20 住民による地域コミュニティの再生	2	8.0%
44 災害に強い地域づくり	2	8.0%
40 環境関連産業の振興による環境先進県とちぎづくり	1	4.0%
6 【若者～大人世代】多様な能力を活かす	0	0.0%



①満足度(市全体、14市)

(n=14)

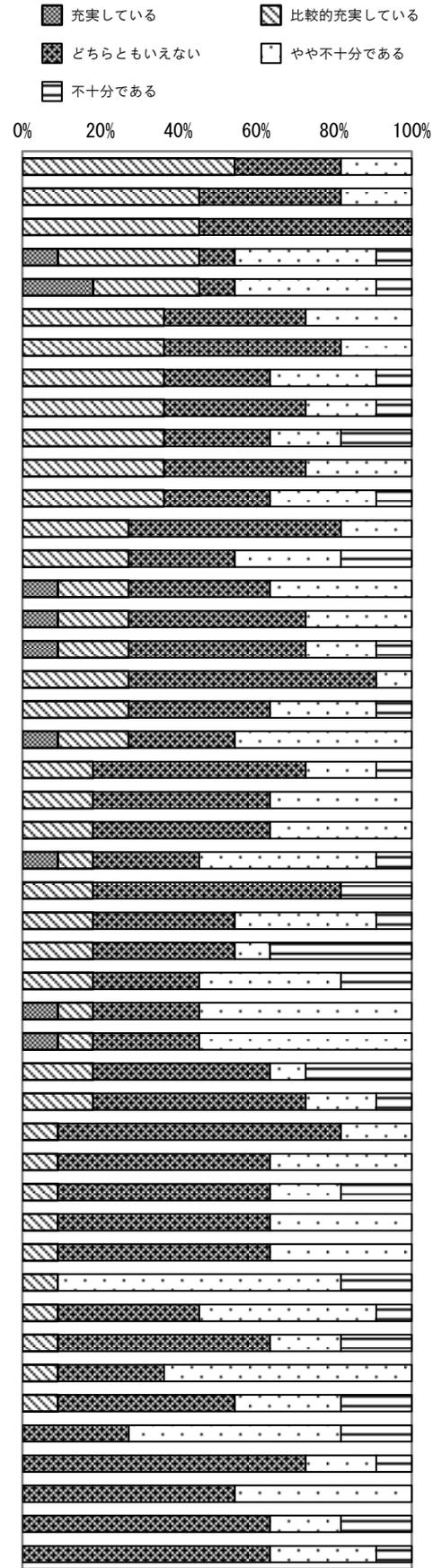
項目	回答数	%
37 身近にできる環境保全活動の推進	8	57.1%
39 環境にやさしいエネルギーの地産地消の挑戦	8	57.1%
14 学校及び学校周辺における安全の確保	7	50.0%
45 原子力災害対策	7	50.0%
8 地域文化を通じた心豊かな人づくりと世代間交流の促進	6	42.9%
24 犯罪が発生しにくい地域づくり	6	42.9%
25 高齢者の交通事故抑止	6	42.9%
29 戦略的な企業誘致の推進	6	42.9%
30 力強い農業の推進	6	42.9%
38 暮らしにおける低炭素社会に向けた取組の推進	6	42.9%
2 【子ども世代】生きる力をはぐくむ	5	35.7%
5 【子育て世代】子育て力をはぐくむ	5	35.7%
10 地域における子育ての支援	5	35.7%
11 保育サービスの充実	5	35.7%
17 長寿社会における健康づくりの推進	5	35.7%
26 被害者等支援の推進	5	35.7%
42 とちぎの豊かな自然環境の保全	5	35.7%
43 生物多様性の確保	5	35.7%
9 スポーツによる健やかな人づくりと世代間交流の促進	4	28.6%
18 地域で安心できる医療の確保	4	28.6%
21 住民の助け合いによる防犯・防災の促進	4	28.6%
23 消費生活における安全・安心の確保	4	28.6%
27 本県の強みを活かした産業の振興	4	28.6%
33 戦略的な誘客の推進	4	28.6%
34 住み続けたい、住んでみたい地域づくり	4	28.6%
41 持続的発展が可能な循環型社会の形成促進	4	28.6%
12 子どもを守りはぐくむ体制づくり	3	21.4%
31 フードバレーとちぎの推進	3	21.4%
35 交流と連携によるにぎわいのある地域づくり	3	21.4%
36 環境を守る人材の育成	3	21.4%
46 身近な社会資本と生活基盤の整備	3	21.4%
1 【子ども世代】成長の基礎をはぐくむ	2	14.3%
4 【大人世代】挑戦する心をはぐくむ	2	14.3%
15 地域における支え合いの推進	2	14.3%
16 障害者が地域で暮らせる体制づくり	2	14.3%
20 住民による地域コミュニティの再生	2	14.3%
28 挑戦し、成長する企業の創出	2	14.3%
32 魅力あふれる観光地づくり	2	14.3%
47 雇用対策	2	14.3%
3 【若者世代】自立する力をはぐくむ	1	7.1%
7 【シルバー世代】知恵と能力を活かす	1	7.1%
13 仕事と子育ての両立支援	1	7.1%
19 総合的な自殺対策の推進	1	7.1%
22 地域の移動手段的確保	1	7.1%
40 環境関連産業の振興による環境先進県とちぎづくり	1	7.1%
44 災害に強い地域づくり	1	7.1%
6 【若者～大人世代】多様な能力を活かす	0	0.0%



①満足度(町全体、11町)

(n=11)

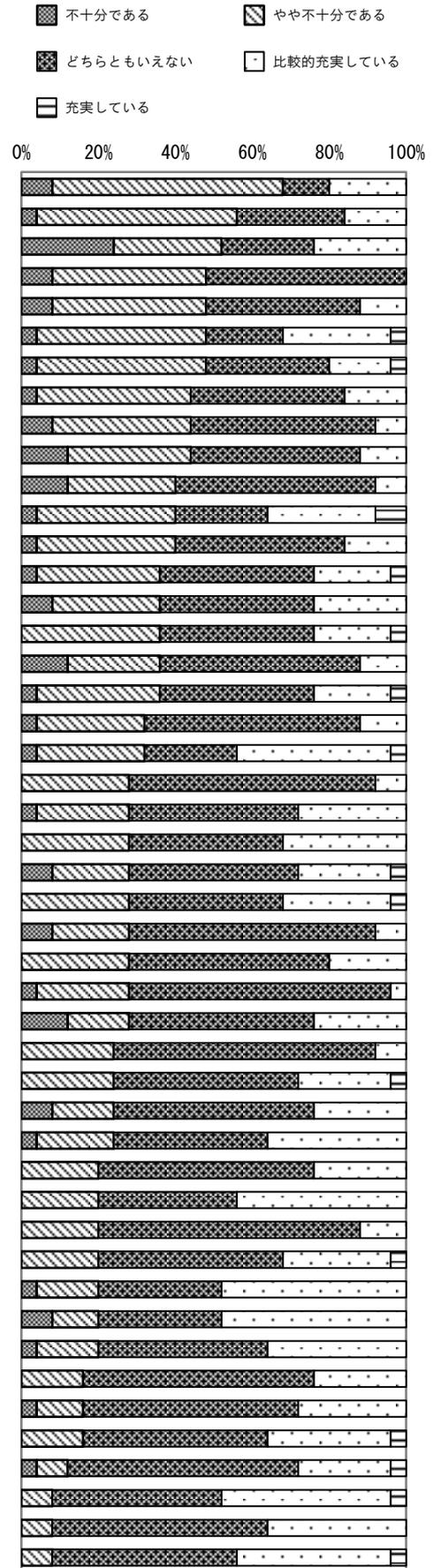
項目	回答数	%
2 【子ども世代】生きる力をはぐくむ	6	54.5%
14 学校及び学校周辺における安全の確保	5	45.5%
25 高齢者の交通事故抑止	5	45.5%
30 力強い農業の推進	5	45.5%
33 戦略的な誘客の推進	5	45.5%
1 【子ども世代】成長の基礎をはぐくむ	4	36.4%
15 地域における支え合いの推進	4	36.4%
36 環境を守る人材の育成	4	36.4%
37 身近にできる環境保全活動の推進	4	36.4%
39 環境にやさしいエネルギーの地産地消の挑戦	4	36.4%
42 とちぎの豊かな自然環境の保全	4	36.4%
43 生物多様性の確保	4	36.4%
11 保育サービスの充実	3	27.3%
12 子どもを守りはぐくむ体制づくり	3	27.3%
17 長寿社会における健康づくりの推進	3	27.3%
21 住民の助け合いによる防犯・防災の促進	3	27.3%
23 消費生活における安全・安心の確保	3	27.3%
24 犯罪が発生しにくい地域づくり	3	27.3%
31 フードバレーとちぎの推進	3	27.3%
32 魅力あふれる観光地づくり	3	27.3%
5 【子育て世代】子育て力をはぐくむ	2	18.2%
7 【シルバー世代】知恵と能力を活かす	2	18.2%
8 地域文化を通じた心豊かな人づくりと世代間交流の促進	2	18.2%
9 スポーツによる健やかな人づくりと世代間交流の促進	2	18.2%
10 地域における子育ての支援	2	18.2%
16 障害者が地域で暮らせる体制づくり	2	18.2%
18 地域で安心できる医療の確保	2	18.2%
22 地域の移動手段の確保	2	18.2%
27 本県の強みを活かした産業の振興	2	18.2%
29 戦略的な企業誘致の推進	2	18.2%
41 持続的発展が可能な循環型社会の形成促進	2	18.2%
45 原子力災害対策	2	18.2%
3 【若者世代】自立する力をはぐくむ	1	9.1%
4 【大人世代】挑戦する心をはぐくむ	1	9.1%
13 仕事と子育ての両立支援	1	9.1%
19 総合的な自殺対策の推進	1	9.1%
28 挑戦し、成長する企業の創出	1	9.1%
34 住み続けたい、住んでみたい地域づくり	1	9.1%
35 交流と連携によるにぎわいのある地域づくり	1	9.1%
44 災害に強い地域づくり	1	9.1%
46 身近な社会資本と生活基盤の整備	1	9.1%
47 雇用対策	1	9.1%
6 【若者～大人世代】多様な能力を活かす	0	0.0%
20 住民による地域コミュニティの再生	0	0.0%
26 被害者等支援の推進	0	0.0%
38 暮らしにおける低炭素社会に向けた取組の推進	0	0.0%
40 環境関連産業の振興による環境先進県とちぎづくり	0	0.0%



## ②不満度(市町全体、25市町)

(n=25)

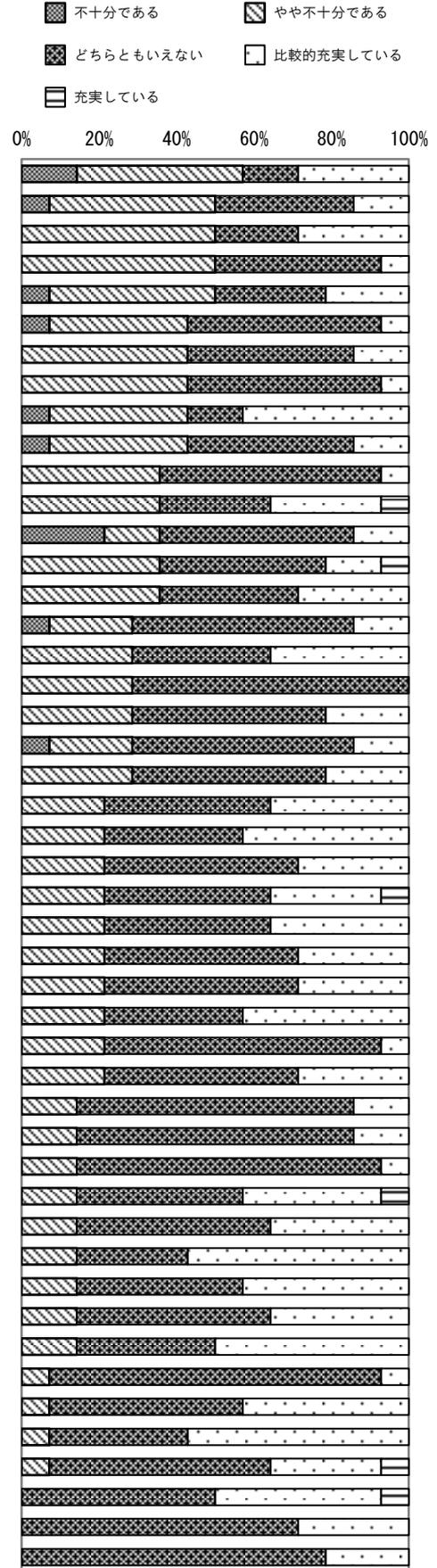
項目	回答数	%
34 住み続けたい、住んでみたい地域づくり	17	68.0%
46 身近な社会資本と生活基盤の整備	14	56.0%
18 地域で安心できる医療の確保	13	52.0%
6 【若者～大人世代】多様な能力を活かす	12	48.0%
22 地域の移動手段の確保	12	48.0%
29 戦略的な企業誘致の推進	12	48.0%
32 魅力あふれる観光地づくり	12	48.0%
16 障害者が地域で暮らせる体制づくり	11	44.0%
44 災害に強い地域づくり	11	44.0%
47 雇用対策	11	44.0%
13 仕事と子育ての両立支援	10	40.0%
33 戦略的な誘客の推進	10	40.0%
35 交流と連携によるにぎわいのある地域づくり	10	40.0%
9 スポーツによる健やかな人づくりと世代間交流の促進	9	36.0%
12 子どもを守りはぐくむ体制づくり	9	36.0%
27 本県の強みを活かした産業の振興	9	36.0%
28 挑戦し、成長する企業の創出	9	36.0%
31 フードバレーとちぎの推進	9	36.0%
4 【大人世代】挑戦する心をはぐくむ	8	32.0%
30 力強い農業の推進	8	32.0%
3 【若者世代】自立する力をはぐくむ	7	28.0%
5 【子育て世代】子育て力をはぐくむ	7	28.0%
8 地域文化を通じた心豊かな人づくりと世代間交流の促進	7	28.0%
10 地域における子育ての支援	7	28.0%
17 長寿社会における健康づくりの推進	7	28.0%
20 住民による地域コミュニティの再生	7	28.0%
26 被害者等支援の推進	7	28.0%
40 環境関連産業の振興による環境先進県とちぎづくり	7	28.0%
41 持続的発展が可能な循環型社会の形成促進	7	28.0%
19 総合的な自殺対策の推進	6	24.0%
21 住民の助け合いによる防犯・防災の促進	6	24.0%
38 暮らしにおける低炭素社会に向けた取組の推進	6	24.0%
43 生物多様性の確保	6	24.0%
1 【子ども世代】成長の基礎をはぐくむ	5	20.0%
2 【子ども世代】生きる力をはぐくむ	5	20.0%
7 【シルバー世代】知恵と能力を活かす	5	20.0%
11 保育サービスの充実	5	20.0%
37 身近にできる環境保全活動の推進	5	20.0%
39 環境にやさしいエネルギーの地産地消の挑戦	5	20.0%
45 原子力災害対策	5	20.0%
15 地域における支え合いの推進	4	16.0%
36 環境を守る人材の育成	4	16.0%
42 とちぎの豊かな自然環境の保全	4	16.0%
23 消費生活における安全・安心の確保	3	12.0%
14 学校及び学校周辺における安全の確保	2	8.0%
24 犯罪が発生しにくい地域づくり	2	8.0%
25 高齢者の交通事故抑止	2	8.0%



## ②不満足(市全体、14市)

(n=14)

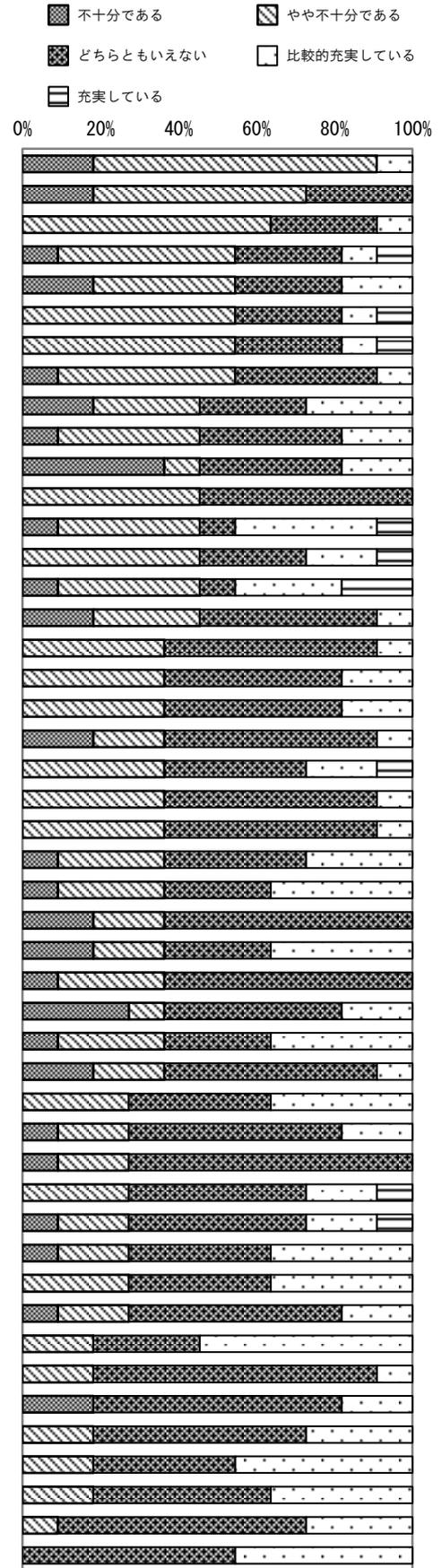
項目	回答数	%
18 地域で安心できる医療の確保	8	57.1%
32 魅力あふれる観光地づくり	7	50.0%
34 住み続けたい、住んでみたい地域づくり	7	50.0%
44 災害に強い地域づくり	7	50.0%
46 身近な社会資本と生活基盤の整備	7	50.0%
13 仕事と子育ての両立支援	6	42.9%
16 障害者が地域で暮らせる体制づくり	6	42.9%
22 地域の移動手手段の確保	6	42.9%
29 戦略的な企業誘致の推進	6	42.9%
47 雇用対策	6	42.9%
3 【若者世代】自立する力をはぐくむ	5	35.7%
10 地域における子育ての支援	5	35.7%
28 挑戦し、成長する企業の創出	5	35.7%
31 フードバレーとちぎの推進	5	35.7%
33 戦略的な誘客の推進	5	35.7%
4 【大人世代】挑戦する心をはぐくむ	4	28.6%
5 【子育て世代】子育て力をはぐくむ	4	28.6%
6 【若者～大人世代】多様な能力を活かす	4	28.6%
12 子どもを守りはぐくむ体制づくり	4	28.6%
20 住民による地域コミュニティの再生	4	28.6%
35 交流と連携によるにぎわいのある地域づくり	4	28.6%
2 【子ども世代】生きる力をはぐくむ	3	21.4%
8 地域文化を通じた心豊かな人づくりと世代間交流の促進	3	21.4%
9 スポーツによる健やかな人づくりと世代間交流の促進	3	21.4%
11 保育サービスの充実	3	21.4%
17 長寿社会における健康づくりの推進	3	21.4%
21 住民の助け合いによる防犯・防災の促進	3	21.4%
27 本県の強みを活かした産業の振興	3	21.4%
30 力強い農業の推進	3	21.4%
40 環境関連産業の振興による環境先進県とちぎづくり	3	21.4%
41 持続的発展が可能な循環型社会の形成促進	3	21.4%
1 【子ども世代】成長の基礎をはぐくむ	2	14.3%
15 地域における支え合いの推進	2	14.3%
19 総合的な自殺対策の推進	2	14.3%
25 高齢者の交通事故抑止	2	14.3%
26 被害者等支援の推進	2	14.3%
37 身近にできる環境保全活動の推進	2	14.3%
38 暮らしにおける低炭素社会に向けた取組の推進	2	14.3%
43 生物多様性の確保	2	14.3%
45 原子力災害対策	2	14.3%
7 【シルバー世代】知恵と能力を活かす	1	7.1%
24 犯罪が発生しにくい地域づくり	1	7.1%
39 環境にやさしいエネルギーの地産地消の挑戦	1	7.1%
42 とちぎの豊かな自然環境の保全	1	7.1%
14 学校及び学校周辺における安全の確保	0	0.0%
23 消費生活における安全・安心の確保	0	0.0%
36 環境を守る人材の育成	0	0.0%



## ②不満度(町全体、11町)

(n=11)

項目	回答数	%
34 住み続けたい、住んでみたい地域づくり	10	90.9%
6 【若者～大人世代】多様な能力を活かす	8	72.7%
46 身近な社会資本と生活基盤の整備	7	63.6%
9 スポーツによる健やかな人づくりと世代間交流の促進	6	54.5%
22 地域の移動手手段の確保	6	54.5%
27 本県の強みを活かした産業の振興	6	54.5%
29 戦略的な企業誘致の推進	6	54.5%
35 交流と連携によるにぎわいのある地域づくり	6	54.5%
12 子どもを守りはぐくむ体制づくり	5	45.5%
16 障害者が地域で暮らせる体制づくり	5	45.5%
18 地域で安心できる医療の確保	5	45.5%
26 被害者等支援の推進	5	45.5%
30 力強い農業の推進	5	45.5%
32 魅力あふれる観光地づくり	5	45.5%
33 戦略的な誘客の推進	5	45.5%
47 雇用対策	5	45.5%
4 【大人世代】挑戦する心をはぐくむ	4	36.4%
7 【シルバー世代】知恵と能力を活かす	4	36.4%
8 地域文化を通じた心豊かな人づくりと世代間交流の促進	4	36.4%
13 仕事と子育ての両立支援	4	36.4%
17 長寿社会における健康づくりの推進	4	36.4%
19 総合的な自殺対策の推進	4	36.4%
28 挑戦し、成長する企業の創出	4	36.4%
31 フードバレーとちぎの推進	4	36.4%
36 環境を守る人材の育成	4	36.4%
38 暮らしにおける低炭素社会に向けた取組の推進	4	36.4%
39 環境にやさしいエネルギーの地産地消の挑戦	4	36.4%
40 環境関連産業の振興による環境先進県とちぎづくり	4	36.4%
41 持続的発展が可能な循環型社会の形成促進	4	36.4%
43 生物多様性の確保	4	36.4%
44 災害に強い地域づくり	4	36.4%
1 【子ども世代】成長の基礎をはぐくむ	3	27.3%
5 【子育て世代】子育て力をはぐくむ	3	27.3%
20 住民による地域コミュニティの再生	3	27.3%
21 住民の助け合いによる防犯・防災の促進	3	27.3%
23 消費生活における安全・安心の確保	3	27.3%
37 身近にできる環境保全活動の推進	3	27.3%
42 とちぎの豊かな自然環境の保全	3	27.3%
45 原子力災害対策	3	27.3%
2 【子ども世代】生きる力をはぐくむ	2	18.2%
3 【若者世代】自立する力をはぐくむ	2	18.2%
10 地域における子育ての支援	2	18.2%
11 保育サービスの充実	2	18.2%
14 学校及び学校周辺における安全の確保	2	18.2%
15 地域における支え合いの推進	2	18.2%
24 犯罪が発生しにくい地域づくり	1	9.1%
25 高齢者の交通事故抑止	0	0.0%



## (2) 今後の行政の取組のあり方

### 【 結果概要 】

全体では、「1【子ども世代】成長の基礎をはぐくむ」、「28 挑戦し、成長する企業の創出」、「29 戦略的な企業誘致の推進」が上位に挙げられた。  
市・町別で見ると、市・町で特に大きな違いは見られなかった。

### 【 調査内容 】

今後の行政の取組のあり方に対する、市町村長の認識を把握するため、47の項目を、次の区分により選択。

#### 【行政の取組のあり方の程度】

- 4 特に重点的に取組む      3 現状以上に取組む      2 現状程度に取組む  
1 現状以下でよい

【重要度】 . . . 「特に重点的に取組む」「現状以上に取組む」と回答した割合の合計

### 【 調査結果(上位抜粋) 】

#### ・市町全体(25市町)

【重要度】の高い項目	回答数	%
1 【子ども世代】成長の基礎をはぐくむ	24	96.0
28 挑戦し、成長する企業の創出	24	96.0
29 戦略的な企業誘致の推進	24	96.0
7 【シルバー世代】知恵と能力を活かす	23	92.0
18 地域で安心できる医療の確保	23	92.0
35 交流と連携によるにぎわいのある地域づくり	23	92.0
44 災害に強い地域づくり	23	92.0
46 身近な社会資本と生活基盤の整備	23	92.0

・市全体(14市)

【重要度】の高い項目	回答数	%
28 挑戦し、成長する企業の創出	14	100.0
1 【子ども世代】成長の基礎をはぐくむ	13	92.9
2 【子ども世代】生きる力をはぐくむ	13	92.9
6 【若者～大人世代】多様な能力を活かす	13	92.9
7 【シルバー世代】知恵と能力を活かす	13	92.9
9 スポーツによる健やかな人づくりと世代間交流の促進	13	92.9
13 仕事と子育ての両立支援	13	92.9
15 地域における支え合いの推進	13	92.9
16 障害者が地域で暮らせる体制づくり	13	92.9
27 本県の強みを活かした産業の振興	13	92.9
29 戦略的な企業誘致の推進	13	92.9
47 雇用対策	13	92.9

・町全体(11町)

【重要度】の高い項目	回答数	%
1【子ども世代】成長の基礎をはぐくむ	11	100.0
18 地域で安心できる医療の確保	11	100.0
29 戦略的な企業誘致の推進	11	100.0
35 交流と連携によるにぎわいのある地域づくり	11	100.0
44 災害に強い地域づくり	11	100.0
46 身近な社会資本と生活基盤の整備	11	100.0
5【子育て世代】子育て力をはぐくむ	10	90.9
7【シルバー世代】知恵と能力を活かす	10	90.9
10 地域における子育ての支援	10	90.9
19 総合的な自殺対策の推進	10	90.9
22 地域の移動手段の確保	10	90.9
28 挑戦し、成長する企業の創出	10	90.9
30 力強い農業の推進	10	90.9
31 フードバレーとちぎの推進	10	90.9
34 住み続けたい、住んでみたい地域づくり	10	90.9

## (2)経年変化（重要度）

### 【 結果概要 】

今回、前回(平成21年)ともに、「1【子ども世代】成長の基礎をはぐくむ」が1位であった。  
 今回は、前回(平成21年)と比べ「7【シルバー世代】知恵と能力をいかす」「28 挑戦し、成長する企業の創出」「29 戦略的な企業誘致の推進」「35 交流と連携によるにぎわいのある地域づくり」「44 災害に強い地域づくり」「46 身近な社会資本と生活基盤の整備」などが高かった。  
 「産業」、「高齢者の就労」、「地域づくり」、「防災」などを重視する傾向。

### 【 調査内容 】

前回(平成21年)実施した調査と比較し、経年変化を見た。  
 なお、項目が前回調査と一致しないため、取組が類似している項目と比較した。

### 【 調査結果 】

#### <今回調査結果>

順位	項目	回答数	%	前回順位	
1	1【子ども世代】成長の基礎をはぐくむ	24	96.0%	1	
	28 挑戦し、成長する企業の創出	24	96.0%	11	
	29 戦略的な企業誘致の推進	24	96.0%	11	
4	7【シルバー世代】知恵と能力を活かす	23	92.0%	11	
	18 地域で安心できる医療の確保	23	92.0%	4	
	35 交流と連携によるにぎわいのある地域づくり	23	92.0%	17	
	44 災害に強い地域づくり	23	92.0%	37	
	46 身近な社会資本と生活基盤の整備	23	92.0%	43	
	9	2【子ども世代】生きる力をはぐくむ	22	88.0%	1
9	6【若者～大人世代】多様な能力を活かす	22	88.0%	17	
	9 スポーツによる健やかな人づくりと世代間交流の促進	22	88.0%	34	
	10 地域における子育ての支援	22	88.0%	1	
	13 仕事と子育ての両立支援	22	88.0%	1	
	15 地域における支え合いの推進	22	88.0%	8	
	16 障害者が地域で暮らせる体制づくり	22	88.0%	17	
	22 地域の移動手段の確保	22	88.0%	17	
	27 本県の強みを活かした産業の振興	22	88.0%	7	
	30 力強い農業の推進	22	88.0%	9	
	31 フードバレーとちぎの推進	22	88.0%	23	
	47 雇用対策	22	88.0%	30	
	21	5【子育て世代】子育て力をはぐくむ	21	84.0%	1
		17 長寿社会における健康づくりの推進	21	84.0%	30
32 魅力あふれる観光地づくり		21	84.0%	23	
34 住み続けたい、住んでみたい地域づくり		21	84.0%	17	
25		3【若者世代】自立する力をはぐくむ	20	80.0%	30
25	11 保育サービスの充実	20	80.0%	1	
	12 子どもを守りはぐくむ体制づくり	20	80.0%	1	
	19 総合的な自殺対策の推進	20	80.0%	-	
	20 住民による地域コミュニティの再生	20	80.0%	11	
	33 戦略的な誘客の推進	20	80.0%	23	
	31	21 住民の助け合いによる防犯・防災の促進	19	76.0%	15
26 被害者等支援の推進		19	76.0%	15	
33	14 学校及び学校周辺における安全の確保	18	72.0%	15	
	40 環境関連産業の振興による環境先進県とちぎづくり	18	72.0%	11	
35	4【大人世代】挑戦する心をはぐくむ	17	68.0%	39	
	8 地域文化を通じた心豊かな人づくりと世代間交流の促進	17	68.0%	45	
	38 暮らしにおける低炭素社会に向けた取組の推進	17	68.0%	4	
	43 生物多様性の確保	17	68.0%	-	
39	23 消費生活における安全・安心の確保	16	64.0%	17	
	24 犯罪が発生しにくい地域づくり	16	64.0%	15	
	36 環境を守る人材の育成	16	64.0%	4	
	39 環境にやさしいエネルギーの地産地消の挑戦	16	64.0%	4	
43	25 高齢者の交通事故抑止	15	60.0%	15	
	41 持続的発展が可能な循環型社会の形成促進	15	60.0%	37	
	42 とちぎの豊かな自然環境の保全	15	60.0%	50	
46	37 身近にできる環境保全活動の推進	11	44.0%	4	
47	45 原子力災害対策	10	40.0%	-	

※前回順位の「-」は、比較できる類似項目がないことを示す。

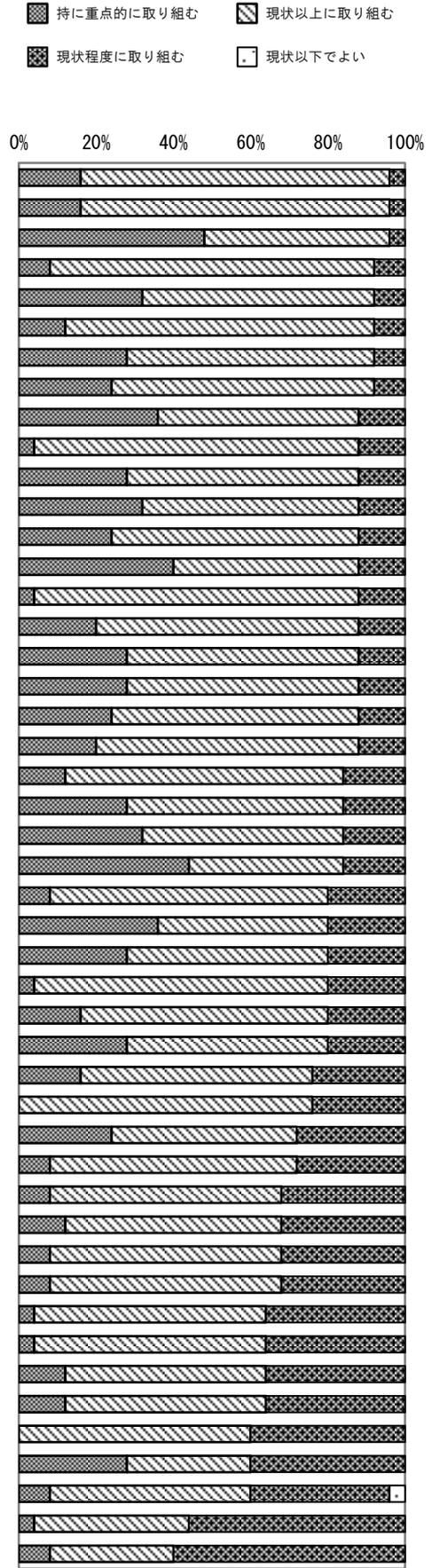
#### <前回(H21)調査結果>

順位	項目	回答数	%	
1	1 学力をはぐくむ教育の充実	29	96.7%	
	12 安心して子どもを生み育てることができる環境づくり	29	96.7%	
	41 3R（発生抑制、再使用、再生利用）の推進	29	96.7%	
4	17 安心で良質な医療の確保	28	93.3%	
	42 廃棄物処理対策の推進	28	93.3%	
	43 地球温暖化防止をはじめとした環境保全活動の推進	28	93.3%	
7	24 地域に根ざした産業の振興	27	90.0%	
8	15 地域の保健・福祉を支える基盤づくり	26	86.7%	
9	2 心の教育の推進	25	83.3%	
	19 多様なニーズに対応できる強い農業の確立	25	83.3%	
11	13 高齢者の自立支援と生きがいづくりの推進	24	80.0%	
	23 地域経済を牽引する産業の振興	24	80.0%	
	25 成長性に富む企業の立地・定着促進	24	80.0%	
	33 いきいきとした農山村づくり	24	80.0%	
15	3 健康な体づくりと学校安全教育の充実	23	76.7%	
	46 安全で安心なまちづくりの推進	23	76.7%	
17	14 障害者の自立支援と豊かな地域生活の実現	22	73.3%	
	29 公共交通ネットワークの整備	22	73.3%	
	31 個性の輝く地域づくり	22	73.3%	
	32 活気あふれるまちづくり	22	73.3%	
	38 社会貢献活動の促進	22	73.3%	
	48 安心して暮らす消費生活の実現	22	73.3%	
23	20 農業を支える基盤づくり	21	70.0%	
	21 人と環境にやさしい農業の展開	21	70.0%	
	34 美しい景観とみどりづくり	21	70.0%	
	36 魅力ある“観光とちぎ”づくり	21	70.0%	
	47 総合的な交通安全対策の推進	21	70.0%	
	39 情報ネットワーク社会の推進	21	70.0%	
	49 防災・危機管理対策の充実	21	70.0%	
	30	5 自立した青少年の育成	20	66.7%
	16	健康づくりと疾病予防対策の推進	20	66.7%
		26 産業人材の育成と円滑な就労の促進	20	66.7%
33	6 青少年を取り巻く環境の整備	19	63.3%	
34	4 個性を生かす特色ある教育の充実	18	60.0%	
	9 県民総スポーツの推進	18	60.0%	
	28 生活排水処理施設の整備・普及	18	60.0%	
37	22 活力ある林業・木材産業の振興	17	56.7%	
	50 防災基盤の整備	17	56.7%	
39	11 男女共同参画社会の実現	16	53.3%	
	40 良好な地域環境の保全	16	53.3%	
41	10 食品の安全と生活衛生の確保	15	50.0%	
	35 憩いと安らぎの公園や水辺空間づくり	15	50.0%	
43	30 体系的な道路網の整備	14	46.7%	
	44 環境を支える森林づくり	14	46.7%	
45	8 県民文化の振興	13	43.3%	
	37 国際化の推進	13	43.3%	
47	10 人権尊重の社会づくり	12	40.0%	
48	7 生涯学習の推進	11	36.7%	
	27 安全で安定した水の供給	11	36.7%	
50	45 豊かな自然環境の保全とふれあい活動の推進	10	33.3%	

①重要度(市町全体、25市町)

(n=25)

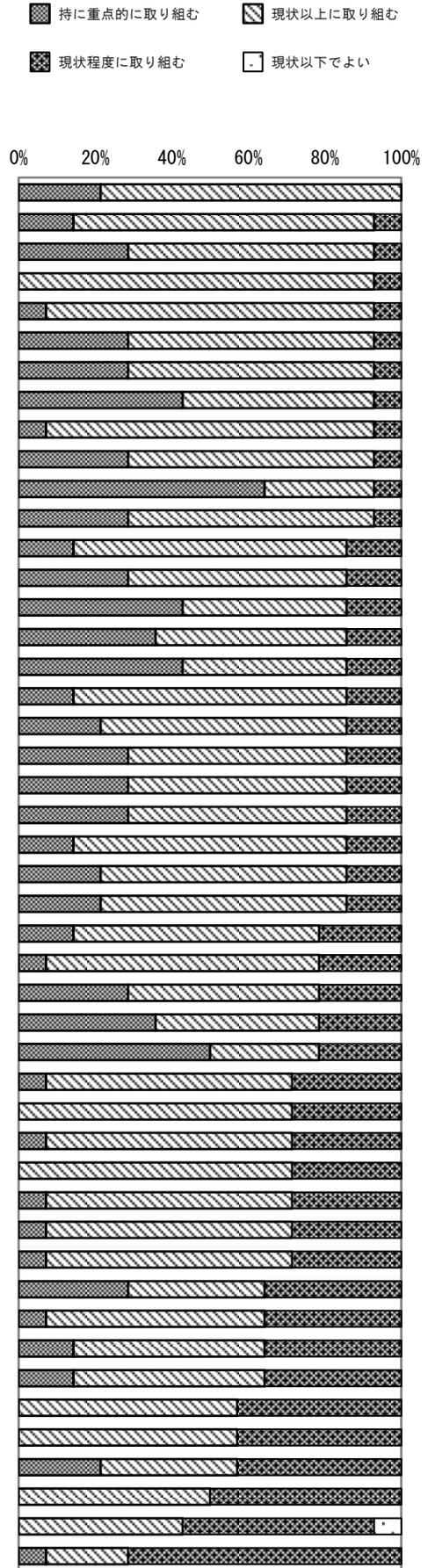
項目	回答数	%
1 【子ども世代】成長の基礎をはぐくむ	24	96.0%
28 挑戦し、成長する企業の創出	24	96.0%
29 戦略的な企業誘致の推進	24	96.0%
7 【シルバー世代】知恵と能力を活かす	23	92.0%
18 地域で安心できる医療の確保	23	92.0%
35 交流と連携によるにぎわいのある地域づくり	23	92.0%
44 災害に強い地域づくり	23	92.0%
46 身近な社会資本と生活基盤の整備	23	92.0%
2 【子ども世代】生きる力をはぐくむ	22	88.0%
6 【若者～大人世代】多様な能力を活かす	22	88.0%
9 スポーツによる健やかな人づくりと世代間交流の促進	22	88.0%
10 地域における子育ての支援	22	88.0%
13 仕事と子育ての両立支援	22	88.0%
15 地域における支え合いの推進	22	88.0%
16 障害者が地域で暮らせる体制づくり	22	88.0%
22 地域の移動手段の確保	22	88.0%
27 本県の強みを活かした産業の振興	22	88.0%
30 力強い農業の推進	22	88.0%
31 フードバレーとちぎの推進	22	88.0%
47 雇用対策	22	88.0%
5 【子育て世代】子育て力をはぐくむ	21	84.0%
17 長寿社会における健康づくりの推進	21	84.0%
32 魅力あふれる観光地づくり	21	84.0%
34 住み続けたい、住んでみたい地域づくり	21	84.0%
3 【若者世代】自立する力をはぐくむ	20	80.0%
11 保育サービスの充実	20	80.0%
12 子どもを守りはぐくむ体制づくり	20	80.0%
19 総合的な自殺対策の推進	20	80.0%
20 住民による地域コミュニティの再生	20	80.0%
33 戦略的な誘客の推進	20	80.0%
21 住民の助け合いによる防犯・防災の促進	19	76.0%
26 被害者等支援の推進	19	76.0%
14 学校及び学校周辺における安全の確保	18	72.0%
40 環境関連産業の振興による環境先進県とちぎづくり	18	72.0%
4 【大人世代】挑戦する心をはぐくむ	17	68.0%
8 地域文化を通じた心豊かな人づくりと世代間交流の促進	17	68.0%
38 暮らしにおける低炭素社会に向けた取組の推進	17	68.0%
43 生物多様性の確保	17	68.0%
23 消費生活における安全・安心の確保	16	64.0%
24 犯罪が発生しにくい地域づくり	16	64.0%
36 環境を守る人材の育成	16	64.0%
39 環境にやさしいエネルギーの地産地消の挑戦	16	64.0%
25 高齢者の交通事故抑止	15	60.0%
41 持続的発展が可能な循環型社会の形成促進	15	60.0%
42 とちぎの豊かな自然環境の保全	15	60.0%
37 身近にできる環境保全活動の推進	11	44.0%
45 原子力災害対策	10	40.0%



①重要度(市全体、14市)

(n=14)

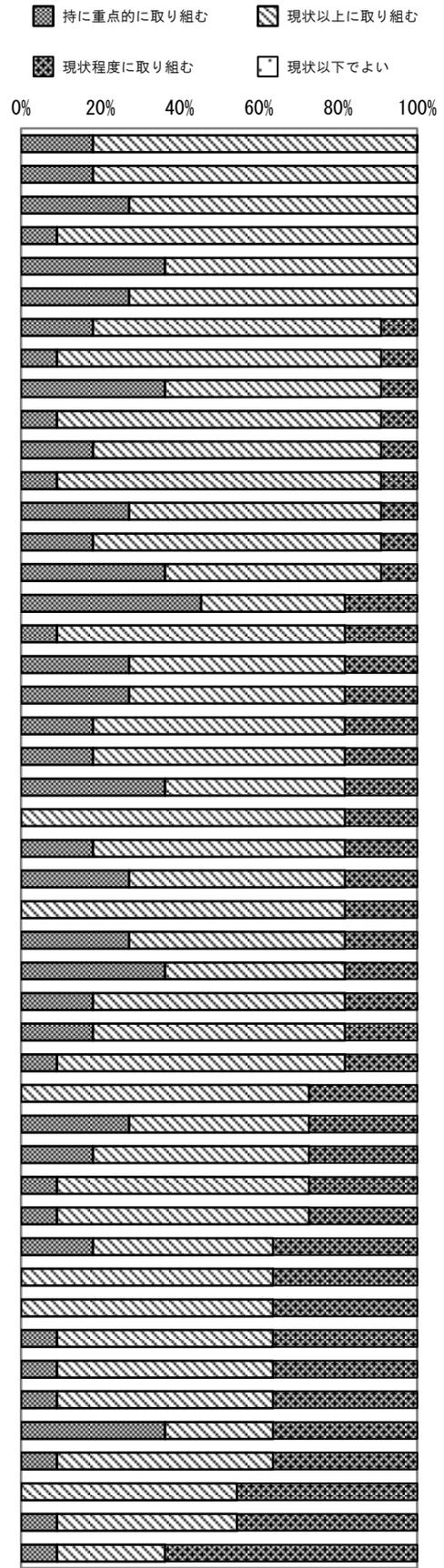
項目	回答数	%
28 挑戦し、成長する企業の創出	14	100.0%
1 【子ども世代】成長の基礎をはぐくむ	13	92.9%
2 【子ども世代】生きる力をはぐくむ	13	92.9%
6 【若者～大人世代】多様な能力を活かす	13	92.9%
7 【シルバー世代】知恵と能力を活かす	13	92.9%
9 スポーツによる健やかな人づくりと世代間交流の促進	13	92.9%
13 仕事と子育ての両立支援	13	92.9%
15 地域における支え合いの推進	13	92.9%
16 障害者が地域で暮らせる体制づくり	13	92.9%
27 本県の強みを活かした産業の振興	13	92.9%
29 戦略的な企業誘致の推進	13	92.9%
47 雇用対策	13	92.9%
3 【若者世代】自立する力をはぐくむ	12	85.7%
10 地域における子育ての支援	12	85.7%
11 保育サービスの充実	12	85.7%
17 長寿社会における健康づくりの推進	12	85.7%
18 地域で安心できる医療の確保	12	85.7%
20 住民による地域コミュニティの再生	12	85.7%
22 地域の移動手段の確保	12	85.7%
30 力強い農業の推進	12	85.7%
31 フードバレーとちぎの推進	12	85.7%
32 魅力あふれる観光地づくり	12	85.7%
35 交流と連携によるにぎわいのある地域づくり	12	85.7%
44 災害に強い地域づくり	12	85.7%
46 身近な社会資本と生活基盤の整備	12	85.7%
4 【大人世代】挑戦する心をはぐくむ	11	78.6%
5 【子育て世代】子育て力をはぐくむ	11	78.6%
12 子どもを守りはぐくむ体制づくり	11	78.6%
33 戦略的な誘客の推進	11	78.6%
34 住み続けたい、住んでみたい地域づくり	11	78.6%
8 地域文化を通じた心豊かな人づくりと世代間交流の促進	10	71.4%
19 総合的な自殺対策の推進	10	71.4%
21 住民の助け合いによる防犯・防災の促進	10	71.4%
26 被害者等支援の推進	10	71.4%
38 暮らしにおける低炭素社会に向けた取組の推進	10	71.4%
40 環境関連産業の振興による環境先進県とちぎづくり	10	71.4%
43 生物多様性の確保	10	71.4%
14 学校及び学校周辺における安全の確保	9	64.3%
24 犯罪が発生しにくい地域づくり	9	64.3%
36 環境を守る人材の育成	9	64.3%
39 環境にやさしいエネルギーの地産地消の挑戦	9	64.3%
23 消費生活における安全・安心の確保	8	57.1%
25 高齢者の交通事故抑止	8	57.1%
41 持続的発展が可能な循環型社会の形成促進	8	57.1%
37 身近にできる環境保全活動の推進	7	50.0%
42 とちぎの豊かな自然環境の保全	6	42.9%
45 原子力災害対策	4	28.6%



①重要度(町全体、11町)

(n=11)

項目	回答数	%
1 【子ども世代】成長の基礎をはぐくむ	11	100.0%
18 地域で安心できる医療の確保	11	100.0%
29 戦略的な企業誘致の推進	11	100.0%
35 交流と連携によるにぎわいのある地域づくり	11	100.0%
44 災害に強い地域づくり	11	100.0%
46 身近な社会資本と生活基盤の整備	11	100.0%
5 【子育て世代】子育て力をはぐくむ	10	90.9%
7 【シルバー世代】知恵と能力を活かす	10	90.9%
10 地域における子育ての支援	10	90.9%
19 総合的な自殺対策の推進	10	90.9%
22 地域の移手段の確保	10	90.9%
28 挑戦し、成長する企業の創出	10	90.9%
30 力強い農業の推進	10	90.9%
31 フードバレーとちぎの推進	10	90.9%
34 住み続けたい、住んでみたい地域づくり	10	90.9%
2 【子ども世代】生きる力をはぐくむ	9	81.8%
6 【若者～大人世代】多様な能力を活かす	9	81.8%
9 スポーツによる健やかな人づくりと世代間交流の促進	9	81.8%
12 子どもを守りはぐくむ体制づくり	9	81.8%
13 仕事と子育ての両立支援	9	81.8%
14 学校及び学校周辺における安全の確保	9	81.8%
15 地域における支え合いの推進	9	81.8%
16 障害者が地域で暮らせる体制づくり	9	81.8%
17 長寿社会における健康づくりの推進	9	81.8%
21 住民の助け合いによる防犯・防災の促進	9	81.8%
26 被害者等支援の推進	9	81.8%
27 本県の強みを活かした産業の振興	9	81.8%
32 魅力あふれる観光地づくり	9	81.8%
33 戦略的な誘客の推進	9	81.8%
42 とちぎの豊かな自然環境の保全	9	81.8%
47 雇用対策	9	81.8%
3 【若者世代】自立する力をはぐくむ	8	72.7%
11 保育サービスの充実	8	72.7%
20 住民による地域コミュニティの再生	8	72.7%
23 消費生活における安全・安心の確保	8	72.7%
40 環境関連産業の振興による環境先進県とちぎづくり	8	72.7%
8 地域文化を通じた心豊かな人づくりと世代間交流の促進	7	63.6%
24 犯罪が発生しにくい地域づくり	7	63.6%
25 高齢者の交通事故抑止	7	63.6%
36 環境を守る人材の育成	7	63.6%
38 暮らしにおける低炭素社会に向けた取組の推進	7	63.6%
39 環境にやさしいエネルギーの地産地消の挑戦	7	63.6%
41 持続的発展が可能な循環型社会の形成促進	7	63.6%
43 生物多様性の確保	7	63.6%
4 【大人世代】挑戦する心をはぐくむ	6	54.5%
45 原子力災害対策	6	54.5%
37 身近にできる環境保全活動の推進	4	36.4%



### (3) 県民意向調査との比較

#### ○ 「満足度」の比較

#### 【 結果概要 】

市町村長と県民ともに満足度が高い項目は、「14 学校及び学校周辺における安全の確保」、「37 身近にできる環境保全活動の推進」、「30 力強い農業の推進」であった。

#### 【 調査内容 】

設問が、平成25年度に実施した県民意向調査と同様の内容であるため、比較を行った。

#### 【 調査結果(上位抜粋) 】

##### ・満足度の比較

市町村長意向調査	%	県民意向調査	%
14 学校及び学校周辺における安全の確保	48.0	14 学校及び学校周辺における安全の確保	30.6
37 身近にできる環境保全活動の推進	48.0	1 【子ども世代】成長の基礎をはぐくむ	26.8
39 環境にやさしいエネルギーの地産地消の挑戦	48.0	37 身近にできる環境保全活動の推進	26.8
2 【子ども世代】生きる力をはぐくむ	44.0	17 長寿社会における健康づくりの推進	26.3
25 高齢者の交通事故抑止	44.0	18 地域で安心できる医療の確保	24.2
30 力強い農業の推進	44.0	10 地域における子育ての支援	20.8
		30 力強い農業の推進	20.2

## ○「不満度」の比較

### 【 結果概要 】

市町村長と県民ともに不満度が高い項目は、「18 地域で安心できる医療の確保」、「22 地域の移動手段の確保」であった。

### 【 調査結果(上位抜粋) 】

#### ・不満度の比較

市町村長意向調査	%	県民意向調査	%
34 住み続けたい、住んでみたい地域づくり	68.0	22 地域の移動手段の確保	34.7
46 身近な社会資本と生活基盤の整備	56.0	47 雇用対策	32.9
18 地域で安心できる医療の確保	52.0	13 仕事と子育ての両立支援	27.8
6 【若者～大人世代】多様な能力を活かす	48.0	4 【大人世代】挑戦する心をはぐくむ	26.8
22 地域の移動手段の確保	48.0	45 原子力災害対策	26.0
29 戦略的な企業誘致の推進	48.0	18 地域で安心できる医療の確保	22.6
32 魅力あふれる観光地づくり	48.0	39 環境にやさしいエネルギーの地産地消の挑戦	22.0

## ○「重要度」の比較

### 【 結果概要 】

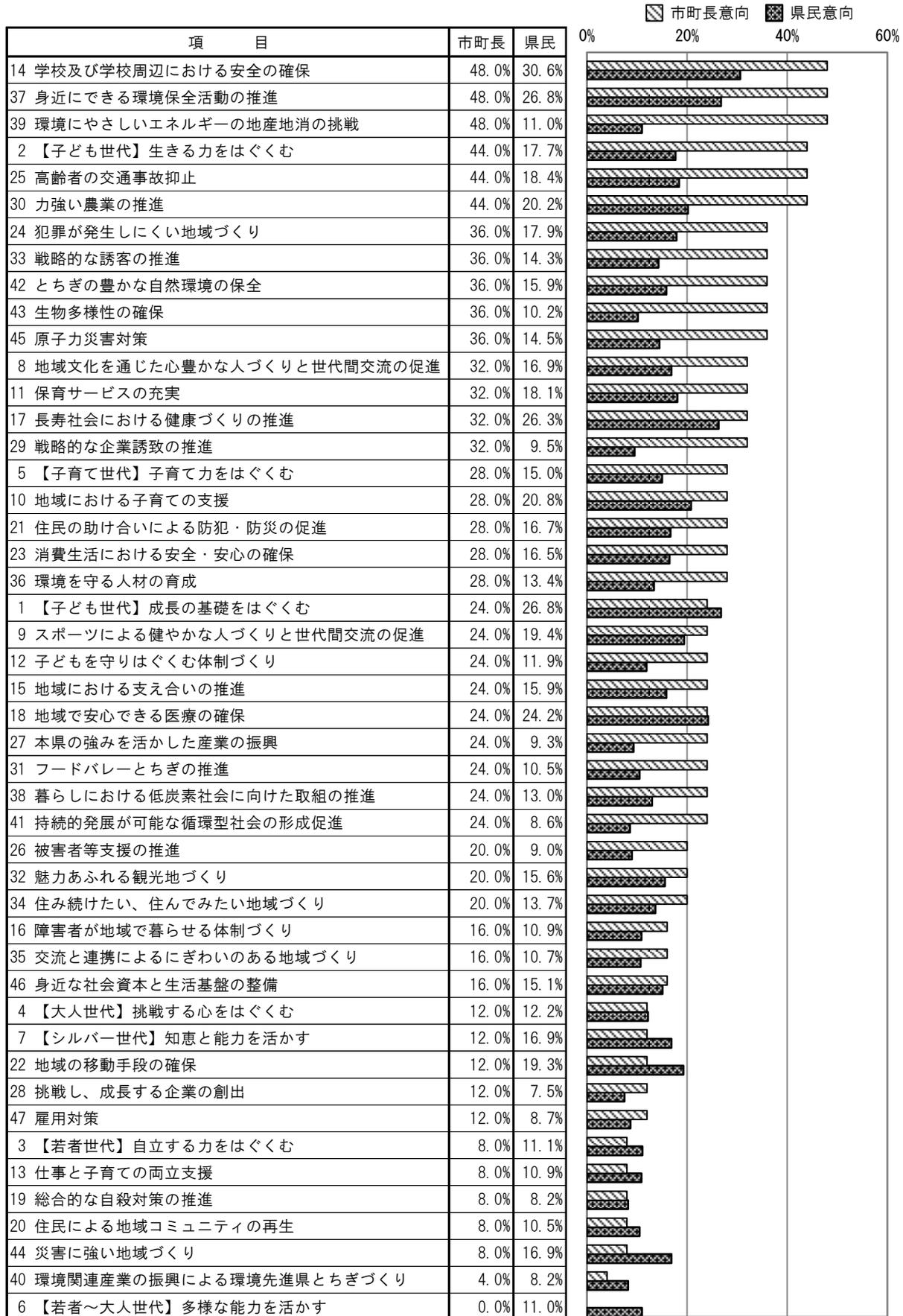
市町村長と県民ともに重要度が高い項目は、「18 地域で安心できる医療の確保」、「44 災害に強い地域づくり」であった。  
「18 地域で安心できる医療の確保」は、重要度以外で不満度でも上位に挙げられており、県民の関心の高い項目と言える。

### 【 調査結果(上位抜粋) 】

#### ・重要度の比較

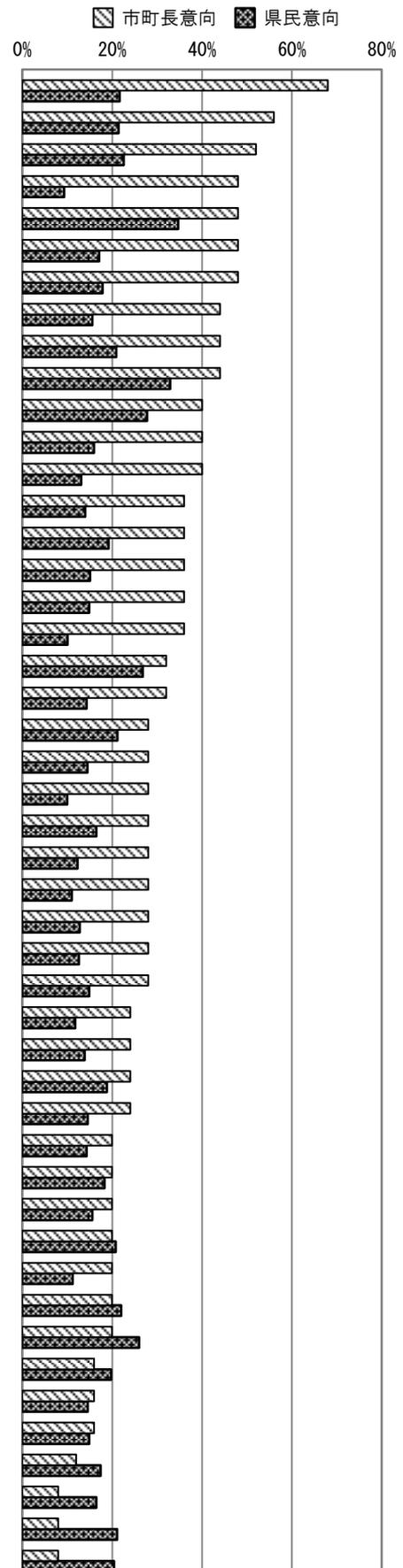
市町村長意向調査	%	県民意向調査	%
1 【子ども世代】成長の基礎をはぐくむ	96.0	18 地域で安心できる医療の確保	86.9
28 挑戦し、成長する企業の創出	96.0	24 犯罪が発生しにくい地域づくり	85.5
29 戦略的な企業誘致の推進	96.0	44 災害に強い地域づくり	83.6
7 【シルバー世代】知恵と能力を活かす	92.0	2 【子ども世代】生きる力をはぐくむ	80.0
18 地域で安心できる医療の確保	92.0	47 雇用対策	79.4
35 交流と連携によるにぎわいのある地域づくり	92.0	25 高齢者の交通事故抑止	78.1
44 災害に強い地域づくり	92.0	15 地域における支え合いの推進	77.9
46 身近な社会資本と生活基盤の整備	92.0		

○県民意向調査との比較（満足度）



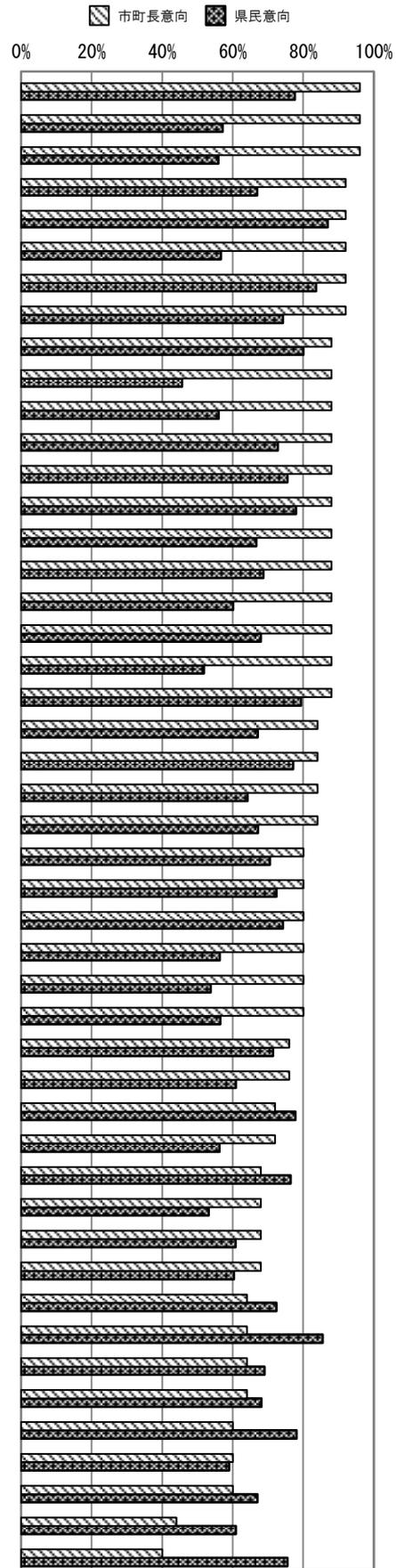
○県民意向調査との比較（不満度）

項目	市町長	県民
34 住み続けたい、住んでみたい地域づくり	68.0%	21.7%
46 身近な社会資本と生活基盤の整備	56.0%	21.4%
18 地域で安心できる医療の確保	52.0%	22.6%
6 【若者～大人世代】多様な能力を活かす	48.0%	9.3%
22 地域の移動手段の確保	48.0%	34.7%
29 戦略的な企業誘致の推進	48.0%	17.1%
32 魅力あふれる観光地づくり	48.0%	17.9%
16 障害者が地域で暮らせる体制づくり	44.0%	15.6%
44 災害に強い地域づくり	44.0%	20.9%
47 雇用対策	44.0%	32.9%
13 仕事と子育ての両立支援	40.0%	27.8%
33 戦略的な誘客の推進	40.0%	16.0%
35 交流と連携によるにぎわいのある地域づくり	40.0%	13.1%
9 スポーツによる健やかな人づくりと世代間交流の促進	36.0%	14.0%
12 子どもを守りはぐくむ体制づくり	36.0%	19.2%
27 本県の強みを活かした産業の振興	36.0%	15.1%
28 挑戦し、成長する企業の創出	36.0%	14.9%
31 フードバレーとちぎの推進	36.0%	10.1%
4 【大人世代】挑戦する心をはぐくむ	32.0%	26.8%
30 力強い農業の推進	32.0%	14.3%
3 【若者世代】自立する力をはぐくむ	28.0%	21.2%
5 【子育て世代】子育て力をはぐくむ	28.0%	14.5%
8 地域文化を通じた心豊かな人づくりと世代間交流の促進	28.0%	10.0%
10 地域における子育ての支援	28.0%	16.5%
17 長寿社会における健康づくりの推進	28.0%	12.3%
20 住民による地域コミュニティの再生	28.0%	11.0%
26 被害者等支援の推進	28.0%	12.8%
40 環境関連産業の振興による環境先進県とちぎづくり	28.0%	12.6%
41 持続的発展が可能な循環型社会の形成促進	28.0%	14.9%
19 総合的な自殺対策の推進	24.0%	11.8%
21 住民の助け合いによる防犯・防災の促進	24.0%	13.9%
38 暮らしにおける低炭素社会に向けた取組の推進	24.0%	18.8%
43 生物多様性の確保	24.0%	14.6%
1 【子ども世代】成長の基礎をはぐくむ	20.0%	14.3%
2 【子ども世代】生きる力をはぐくむ	20.0%	18.3%
7 【シルバー世代】知恵と能力を活かす	20.0%	15.6%
11 保育サービスの充実	20.0%	20.8%
37 身近にできる環境保全活動の推進	20.0%	11.2%
39 環境にやさしいエネルギーの地産地消の挑戦	20.0%	22.0%
45 原子力災害対策	20.0%	26.0%
15 地域における支え合いの推進	16.0%	19.8%
36 環境を守る人材の育成	16.0%	14.6%
42 とちぎの豊かな自然環境の保全	16.0%	14.9%
23 消費生活における安全・安心の確保	12.0%	17.4%
14 学校及び学校周辺における安全の確保	8.0%	16.5%
24 犯罪が発生しにくい地域づくり	8.0%	21.1%
25 高齢者の交通事故抑止	8.0%	20.4%



○県民意向調査との比較（重要度）

項目	市町長	県民
1 【子ども世代】成長の基礎をはぐくむ	96.0%	77.6%
28 挑戦し、成長する企業の創出	96.0%	57.1%
29 戦略的な企業誘致の推進	96.0%	55.9%
7 【シルバー世代】知恵と能力を活かす	92.0%	66.9%
18 地域で安心できる医療の確保	92.0%	86.9%
35 交流と連携によるにぎわいのある地域づくり	92.0%	56.6%
44 災害に強い地域づくり	92.0%	83.6%
46 身近な社会資本と生活基盤の整備	92.0%	74.2%
2 【子ども世代】生きる力をはぐくむ	88.0%	80.0%
6 【若者～大人世代】多様な能力を活かす	88.0%	45.6%
9 スポーツによる健やかな人づくりと世代間交流の促進	88.0%	56.0%
10 地域における子育ての支援	88.0%	72.8%
13 仕事と子育ての両立支援	88.0%	75.5%
15 地域における支え合いの推進	88.0%	77.9%
16 障害者が地域で暮らせる体制づくり	88.0%	66.7%
22 地域の移動手段の確保	88.0%	68.7%
27 本県の強みを活かした産業の振興	88.0%	60.1%
30 力強い農業の推進	88.0%	68.0%
31 フードバレーとちぎの推進	88.0%	51.8%
47 雇用対策	88.0%	79.4%
5 【子育て世代】子育て力をはぐくむ	84.0%	67.1%
17 長寿社会における健康づくりの推進	84.0%	77.1%
32 魅力あふれる観光地づくり	84.0%	64.2%
34 住み続けたい、住んでみたい地域づくり	84.0%	67.2%
3 【若者世代】自立する力をはぐくむ	80.0%	70.5%
11 保育サービスの充実	80.0%	72.4%
12 子どもを守りはぐくむ体制づくり	80.0%	74.2%
19 総合的な自殺対策の推進	80.0%	56.3%
20 住民による地域コミュニティの再生	80.0%	53.7%
33 戦略的な誘客の推進	80.0%	56.5%
21 住民の助け合いによる防犯・防災の促進	76.0%	71.4%
26 被害者等支援の推進	76.0%	60.9%
14 学校及び学校周辺における安全の確保	72.0%	77.8%
40 環境関連産業の振興による環境先進県とちぎづくり	72.0%	56.2%
4 【大人世代】挑戦する心をはぐくむ	68.0%	76.4%
8 地域文化を通じた心豊かな人づくりと世代間交流の促進	68.0%	53.2%
38 暮らしにおける低炭素社会に向けた取組の推進	68.0%	60.8%
43 生物多様性の確保	68.0%	60.3%
23 消費生活における安全・安心の確保	64.0%	72.4%
24 犯罪が発生しにくい地域づくり	64.0%	85.5%
36 環境を守る人材の育成	64.0%	69.0%
39 環境にやさしいエネルギーの地産地消の挑戦	64.0%	68.1%
25 高齢者の交通事故抑止	60.0%	78.1%
41 持続的発展が可能な循環型社会の形成促進	60.0%	59.0%
42 とちぎの豊かな自然環境の保全	60.0%	67.0%
37 身近にできる環境保全活動の推進	44.0%	60.9%
45 原子力災害対策	40.0%	75.5%



#### (4) 住民と行政の役割分担のあり方

##### 【 結果概要 】

市・町ともに高い項目は、下記のとおり。

- ①行政が中心となって取り組むべき……「46 身近な社会資本と生活基盤の整備」  
「29 戦略的な企業誘致の推進」  
「45 原子力災害対策」
- ②住民と行政がより密接に連携し取り組むべき  
……「34 住み続けたい、住んでみたい地域づくり」  
「42 とちぎの豊かな自然環境の保全」
- ③住民が主体的に取り組むべき……「20 住民による地域コミュニティの再生」  
「21住民の助け合いによる防犯・防災の促進」

##### 【 調査内容 】

今後、県民（個人、企業、各種団体などの民間全般）と行政の役割分担はどうあるべきかを把握したものである。

47の項目を、「行政が中心となって取り組むべき」、「住民と行政がより密接に連携し取り組むべき」、「住民が主体的に取り組むべき」の中から選択。

##### 【 調査結果(上位抜粋) 】

###### ・市町全体(25市町)

行政が中心となって取り組むべき	回答数	%	住民と行政がより密接に連携し取り組むべき	回答数	%	住民が主体的に取り組むべき	回答数	%
46 身近な社会資本と生活基盤の整備	21	84.0	34 住み続けたい、住んでみたい地域づくり	24	96.0	21 住民の助け合いによる防犯・防災の促進	7	28.0
29 戦略的な企業誘致の推進	19	76.0	42 とちぎの豊かな自然環境の保全	24	96.0	20 住民による地域コミュニティの再生	5	20.0
45 原子力災害対策	19	76.0	3 【若者世代】自立する力をはぐくむ	23	92.0	6 【若者～大人世代】多様な能力を活かす	2	8.0
44 災害に強い地域づくり	17	68.0	15 地域における支え合いの推進	23	92.0	24 犯罪が発生しにくい地域づくり	2	8.0
11 保育サービスの充実	16	64.0	32 魅力あふれる観光地づくり	23	92.0	28 挑戦し、成長する企業の創出	2	8.0
22 地域の移動手段の確保	16	64.0	35 交流と連携によるにぎわいのある地域づくり	23	92.0	31 フードバレーとちぎの推進	2	8.0
18 地域で安心できる医療の確保	15	60.0				37 身近にできる環境保全活動の推進	2	8.0

・市全体(14市)

行政が中心となって取り組むべき	回答数	%	住民と行政がより密接に連携し取り組むべき	回答数	%	住民が主体的に取り組むべき	回答数	%
29 戦略的な企業誘致の推進	12	85.7	6 【若者～大人世代】多様な能力を活かす	14	100.0	20 住民による地域コミュニティの再生	3	21.4
45 原子力災害対策	11	78.6	32 魅力あふれる観光地づくり	14	100.0	21 住民の助け合いによる防犯・防災の促進	3	21.4
1 【子ども世代】成長の基礎をはぐくむ	10	71.4	34 住み続けたい、住んでみたい地域づくり	14	100.0	24 犯罪が発生しにくい地域づくり	2	14.3
44 災害に強い地域づくり	10	71.4	7 【シルバー世代】知恵と能力を活かす	13	92.9			
46 身近な社会資本と生活基盤の整備	10	71.4	8 地域文化を通じた心豊かな人づくりと世代間交流の促	13	92.9			
11 保育サービスの充実	9	64.3	16 障害者が地域で暮らせる体制づくり	13	92.9			
22 地域の移動手段の確保	9	64.3	37 身近にできる環境保全活動の推進	13	92.9			
			39 環境にやさしいエネルギーの地産地消の挑戦	13	92.9			
			41 持続的発展が可能な循環型社会の形成促進	13	92.9			
			42 とちぎの豊かな自然環境の保全	13	92.9			

・町全体(11町)

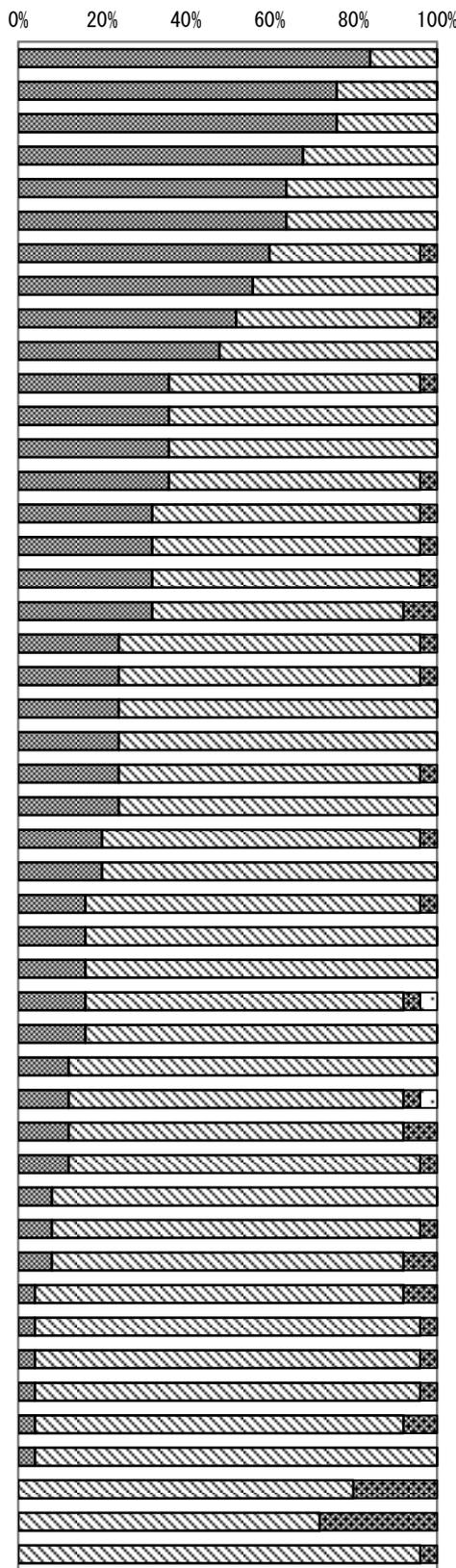
行政が中心となって取り組むべき	回答数	%	住民と行政がより密接に連携し取り組むべき	回答数	%	住民が主体的に取り組むべき	回答数	%
46 身近な社会資本と生活基盤の整備	11	100.0	3 【若者世代】自立する力をはぐくむ	11	100.0	21 住民の助け合いによる防犯・防災の促進	4	36.4
45 原子力災害対策	8	72.7	15 地域における支え合いの推進	11	100.0	6 【若者～大人世代】多様な能力を活かす	2	18.2
11 保育サービスの充実	7	63.6	35 交流と連携によるにぎわいのある地域づくり	11	100.0	20 住民による地域コミュニティの再生	2	18.2
18 地域で安心できる医療の確保	7	63.6	42 とちぎの豊かな自然環境の保全	11	100.0			
22 地域の移動手段の確保	7	63.6	30 力強い農業の推進	10	90.9			
26 被害者等支援の推進	7	63.6	34 住み続けたい、住んでみたい地域づくり	10	90.9			
29 戦略的な企業誘致の推進	7	63.6						
44 災害に強い地域づくり	7	63.6						

○ 「行政が中心となって取り組むべき」を回答した割合順  
(市町全体、25市町)

(n=25)

項目	回答数	%
46 身近な社会資本と生活基盤の整備	21	84.0%
29 戦略的な企業誘致の推進	19	76.0%
45 原子力災害対策	19	76.0%
44 災害に強い地域づくり	17	68.0%
11 保育サービスの充実	16	64.0%
22 地域の移動手手段の確保	16	64.0%
18 地域で安心できる医療の確保	15	60.0%
1 【子ども世代】成長の基礎をはぐくむ	14	56.0%
47 雇用対策	13	52.0%
26 被害者等支援の推進	12	48.0%
4 【大人世代】挑戦する心をはぐくむ	9	36.0%
12 子どもを守りはぐくむ体制づくり	9	36.0%
23 消費生活における安全・安心の確保	9	36.0%
40 環境関連産業の振興による環境先進県とちぎづくり	9	36.0%
2 【子ども世代】生きる力をはぐくむ	8	32.0%
10 地域における子育ての支援	8	32.0%
19 総合的な自殺対策の推進	8	32.0%
28 挑戦し、成長する企業の創出	8	32.0%
5 【子育て世代】子育て力をはぐくむ	6	24.0%
9 スポーツによる健やかな人づくりと世代間交流の促進	6	24.0%
14 学校及び学校周辺における安全の確保	6	24.0%
16 障害者が地域で暮らせる体制づくり	6	24.0%
27 本県の強みを活かした産業の振興	6	24.0%
41 持続的発展が可能な循環型社会の形成促進	6	24.0%
38 暮らしにおける低炭素社会に向けた取組の推進	5	20.0%
43 生物多様性の確保	5	20.0%
13 仕事と子育ての両立支援	4	16.0%
17 長寿社会における健康づくりの推進	4	16.0%
30 力強い農業の推進	4	16.0%
36 環境を守る人材の育成	4	16.0%
39 環境にやさしいエネルギーの地産地消の挑戦	4	16.0%
8 地域文化を通じた心豊かな人づくりと世代間交流の促進	3	12.0%
25 高齢者の交通事故抑止	3	12.0%
31 フードバレーとちぎの推進	3	12.0%
33 戦略的な誘客の推進	3	12.0%
3 【若者世代】自立する力をはぐくむ	2	8.0%
7 【シルバー世代】知恵と能力を活かす	2	8.0%
24 犯罪が発生しにくい地域づくり	2	8.0%
6 【若者～大人世代】多様な能力を活かす	1	4.0%
15 地域における支え合いの推進	1	4.0%
32 魅力あふれる観光地づくり	1	4.0%
35 交流と連携によるにぎわいのある地域づくり	1	4.0%
37 身近にできる環境保全活動の推進	1	4.0%
42 とちぎの豊かな自然環境の保全	1	4.0%
20 住民による地域コミュニティの再生	0	0.0%
21 住民の助け合いによる防犯・防災の促進	0	0.0%
34 住み続けたい、住んでみたい地域づくり	0	0.0%

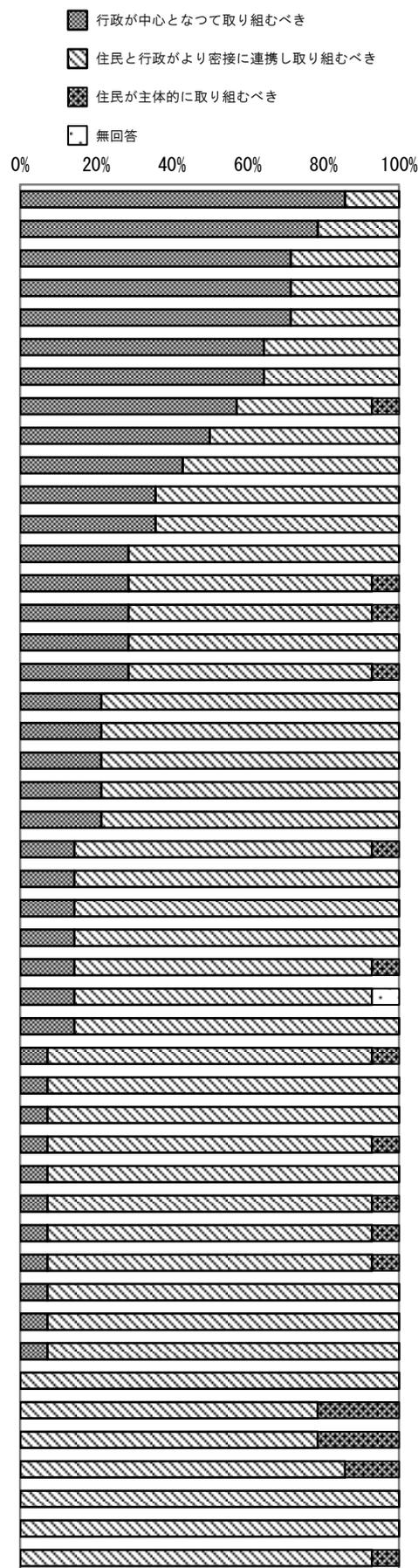
-  行政が中心となって取り組むべき
-  住民と行政がより密接に連携し取り組むべき
-  住民が主体的に取り組むべき
-  無回答



○「行政が中心となって取り組むべき」を回答した割合順  
(市全体、14市)

(n=14)

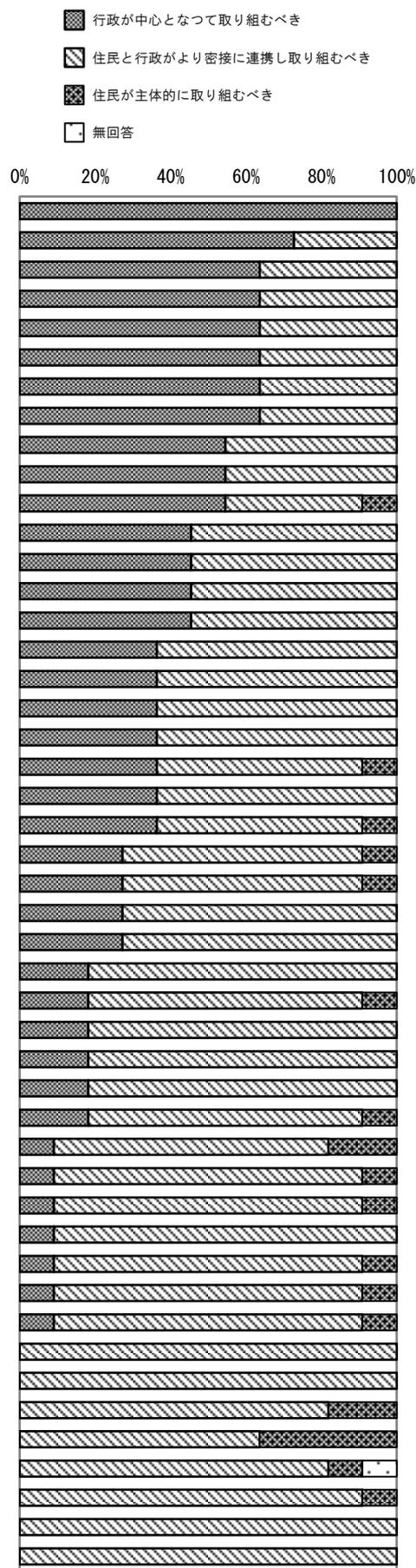
項目	回答数	%
29 戦略的な企業誘致の推進	12	85.7%
45 原子力災害対策	11	78.6%
1 【子ども世代】成長の基礎をはぐくむ	10	71.4%
44 災害に強い地域づくり	10	71.4%
46 身近な社会資本と生活基盤の整備	10	71.4%
11 保育サービスの充実	9	64.3%
22 地域の移動手手段の確保	9	64.3%
18 地域で安心できる医療の確保	8	57.1%
47 雇用対策	7	50.0%
4 【大人世代】挑戦する心をはぐくむ	6	42.9%
26 被害者等支援の推進	5	35.7%
40 環境関連産業の振興による環境先進県とちぎづくり	5	35.7%
9 スポーツによる健やかな人づくりと世代間交流の促進	4	28.6%
10 地域における子育ての支援	4	28.6%
19 総合的な自殺対策の推進	4	28.6%
23 消費生活における安全・安心の確保	4	28.6%
28 挑戦し、成長する企業の創出	4	28.6%
12 子どもを守りはぐくむ体制づくり	3	21.4%
13 仕事と子育ての両立支援	3	21.4%
25 高齢者の交通事故抑止	3	21.4%
27 本県の強みを活かした産業の振興	3	21.4%
30 力強い農業の推進	3	21.4%
2 【子ども世代】生きる力をはぐくむ	2	14.3%
3 【若者世代】自立する力をはぐくむ	2	14.3%
14 学校及び学校周辺における安全の確保	2	14.3%
17 長寿社会における健康づくりの推進	2	14.3%
31 フードバレーとちぎの推進	2	14.3%
36 環境を守る人材の育成	2	14.3%
43 生物多様性の確保	2	14.3%
5 【子育て世代】子育て力をはぐくむ	1	7.1%
7 【シルバー世代】知恵と能力を活かす	1	7.1%
8 地域文化を通じた心豊かな人づくりと世代間交流の促進	1	7.1%
15 地域における支え合いの推進	1	7.1%
16 障害者が地域で暮らせる体制づくり	1	7.1%
33 戦略的な誘客の推進	1	7.1%
35 交流と連携によるにぎわいのある地域づくり	1	7.1%
38 暮らしにおける低炭素社会に向けた取組の推進	1	7.1%
39 環境にやさしいエネルギーの地産地消の挑戦	1	7.1%
41 持続的発展が可能な循環型社会の形成促進	1	7.1%
42 とちぎの豊かな自然環境の保全	1	7.1%
6 【若者～大人世代】多様な能力を活かす	0	0.0%
20 住民による地域コミュニティの再生	0	0.0%
21 住民の助け合いによる防犯・防災の促進	0	0.0%
24 犯罪が発生しにくい地域づくり	0	0.0%
32 魅力あふれる観光地づくり	0	0.0%
34 住み続けたい、住んでみたい地域づくり	0	0.0%
37 身近にできる環境保全活動の推進	0	0.0%



○「行政が中心となって取り組むべき」を回答した割合順  
(町全体、11町)

(n=11)

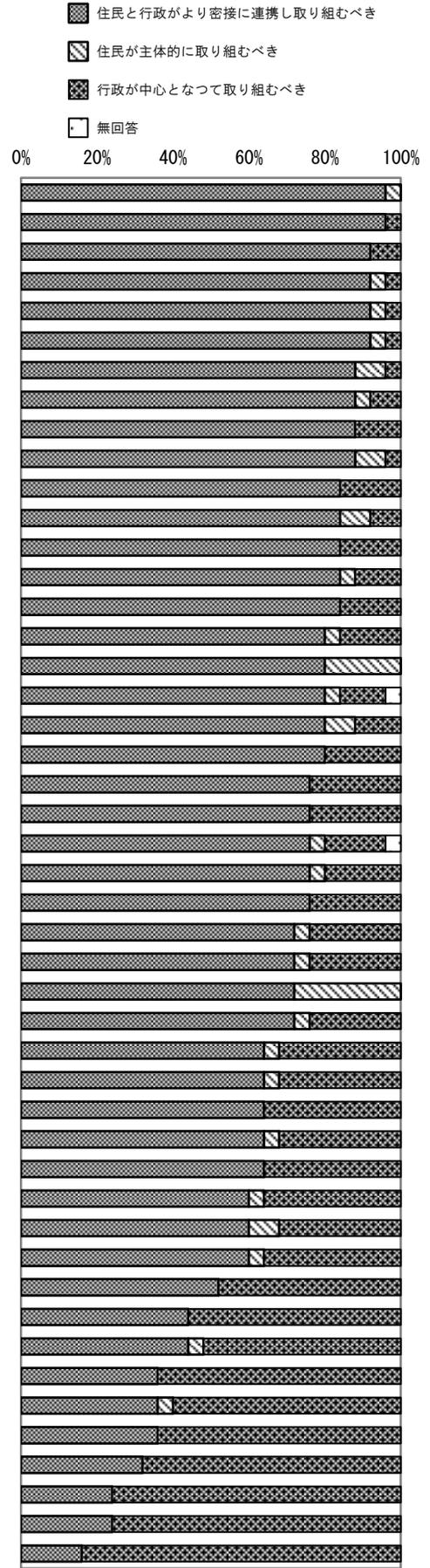
項目	回答数	%
46 身近な社会資本と生活基盤の整備	11	100.0%
45 原子力災害対策	8	72.7%
11 保育サービスの充実	7	63.6%
18 地域で安心できる医療の確保	7	63.6%
22 地域の移動手段の確保	7	63.6%
26 被害者等支援の推進	7	63.6%
29 戦略的な企業誘致の推進	7	63.6%
44 災害に強い地域づくり	7	63.6%
2 【子ども世代】生きる力をはぐくむ	6	54.5%
12 子どもを守りはぐくむ体制づくり	6	54.5%
47 雇用対策	6	54.5%
5 【子育て世代】子育て力をはぐくむ	5	45.5%
16 障害者が地域で暮らせる体制づくり	5	45.5%
23 消費生活における安全・安心の確保	5	45.5%
41 持続的発展が可能な循環型社会の形成促進	5	45.5%
1 【子ども世代】成長の基礎をはぐくむ	4	36.4%
10 地域における子育ての支援	4	36.4%
14 学校及び学校周辺における安全の確保	4	36.4%
19 総合的な自殺対策の推進	4	36.4%
28 挑戦し、成長する企業の創出	4	36.4%
38 暮らしにおける低炭素社会に向けた取組の推進	4	36.4%
40 環境関連産業の振興による環境先進県とちぎづくり	4	36.4%
4 【大人世代】挑戦する心をはぐくむ	3	27.3%
27 本県の強みを活かした産業の振興	3	27.3%
39 環境にやさしいエネルギーの地産地消の挑戦	3	27.3%
43 生物多様性の確保	3	27.3%
8 地域文化を通じた心豊かな人づくりと世代間交流の促進	2	18.2%
9 スポーツによる健やかな人づくりと世代間交流の促進	2	18.2%
17 長寿社会における健康づくりの推進	2	18.2%
24 犯罪が発生しにくい地域づくり	2	18.2%
33 戦略的な誘客の推進	2	18.2%
36 環境を守る人材の育成	2	18.2%
6 【若者～大人世代】多様な能力を活かす	1	9.1%
7 【シルバー世代】知恵と能力を活かす	1	9.1%
13 仕事と子育ての両立支援	1	9.1%
30 力強い農業の推進	1	9.1%
31 フードバレーとちぎの推進	1	9.1%
32 魅力あふれる観光地づくり	1	9.1%
37 身近にできる環境保全活動の推進	1	9.1%
3 【若者世代】自立する力をはぐくむ	0	0.0%
15 地域における支え合いの推進	0	0.0%
20 住民による地域コミュニティの再生	0	0.0%
21 住民の助け合いによる防犯・防災の促進	0	0.0%
25 高齢者の交通事故抑止	0	0.0%
34 住み続けたい、住んでみたい地域づくり	0	0.0%
35 交流と連携によるにぎわいのある地域づくり	0	0.0%
42 とちぎの豊かな自然環境の保全	0	0.0%



○「住民と行政がより密接に連携し取り組むべき」を回答した割合順（市町全体、25市町）

(n=25)

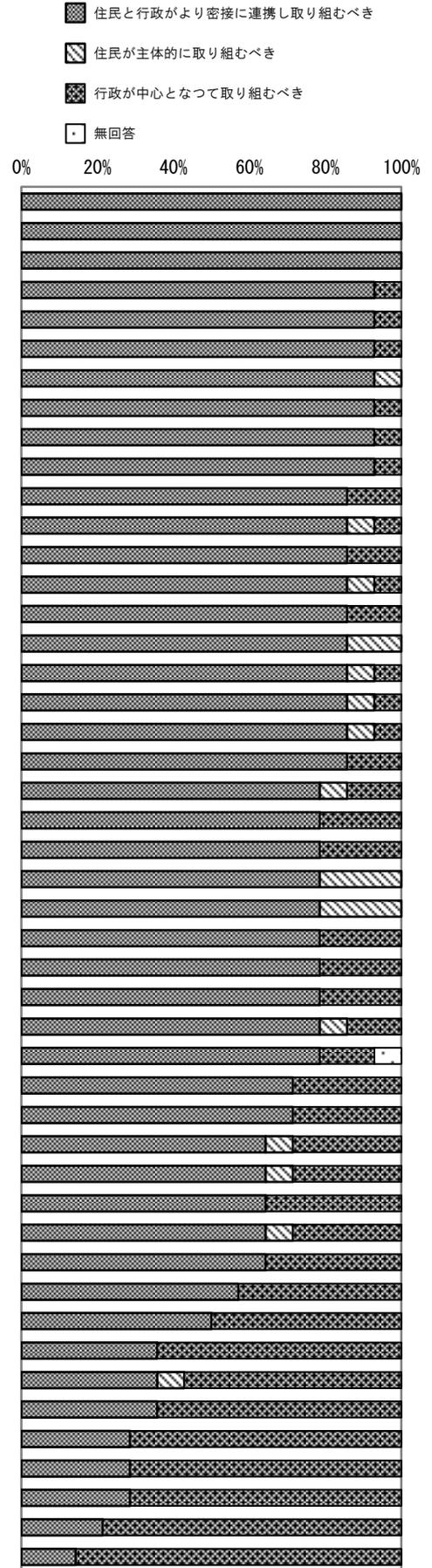
項目	回答数	%
34 住み続けたい、住んでみたい地域づくり	24	96.0%
42 とちぎの豊かな自然環境の保全	24	96.0%
3 【若者世代】自立する力をはぐくむ	23	92.0%
15 地域における支え合いの推進	23	92.0%
32 魅力あふれる観光地づくり	23	92.0%
35 交流と連携によるにぎわいのある地域づくり	23	92.0%
6 【若者～大人世代】多様な能力を活かす	22	88.0%
7 【シルバー世代】知恵と能力を活かす	22	88.0%
8 地域文化を通じた心豊かな人づくりと世代間交流の促進	22	88.0%
37 身近にできる環境保全活動の推進	22	88.0%
17 長寿社会における健康づくりの推進	21	84.0%
24 犯罪が発生しにくい地域づくり	21	84.0%
30 力強い農業の推進	21	84.0%
33 戦略的な誘客の推進	21	84.0%
39 環境にやさしいエネルギーの地産地消の挑戦	21	84.0%
13 仕事と子育ての両立支援	20	80.0%
20 住民による地域コミュニティの再生	20	80.0%
25 高齢者の交通事故抑止	20	83.3%
31 フードバレーとちぎの推進	20	80.0%
43 生物多様性の確保	20	80.0%
14 学校及び学校周辺における安全の確保	19	76.0%
16 障害者が地域で暮らせる体制づくり	19	76.0%
36 環境を守る人材の育成	19	79.2%
38 暮らしにおける低炭素社会に向けた取組の推進	19	76.0%
41 持続的発展が可能な循環型社会の形成促進	19	76.0%
5 【子育て世代】子育て力をはぐくむ	18	72.0%
9 スポーツによる健やかな人づくりと世代間交流の促進	18	72.0%
21 住民の助け合いによる防犯・防災の促進	18	72.0%
27 本県の強みを活かした産業の振興	18	72.0%
2 【子ども世代】生きる力をはぐくむ	16	64.0%
10 地域における子育ての支援	16	64.0%
12 子どもを守りはぐくむ体制づくり	16	64.0%
19 総合的な自殺対策の推進	16	64.0%
23 消費生活における安全・安心の確保	16	64.0%
4 【大人世代】挑戦する心をはぐくむ	15	60.0%
28 挑戦し、成長する企業の創出	15	60.0%
40 環境関連産業の振興による環境先進県とちぎづくり	15	60.0%
26 被害者等支援の推進	13	52.0%
1 【子ども世代】成長の基礎をはぐくむ	11	44.0%
47 雇用対策	11	44.0%
11 保育サービスの充実	9	36.0%
18 地域で安心できる医療の確保	9	36.0%
22 地域の移動手段の確保	9	36.0%
44 災害に強い地域づくり	8	32.0%
29 戦略的な企業誘致の推進	6	24.0%
45 原子力災害対策	6	24.0%
46 身近な社会資本と生活基盤の整備	4	16.0%



○「住民と行政がより密接に連携し取り組むべき」を回答した割合順（市全体、14市）

(n=14)

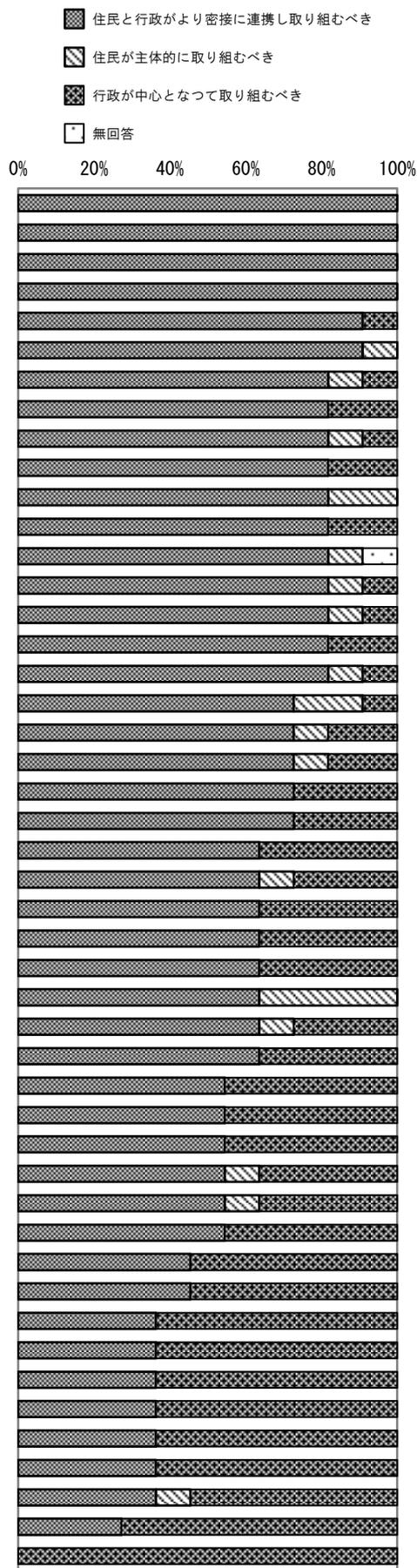
項目	回答数	%
6 【若者～大人世代】多様な能力を活かす	14	100.0%
32 魅力あふれる観光地づくり	14	100.0%
34 住み続けたい、住んでみたい地域づくり	14	100.0%
7 【シルバー世代】知恵と能力を活かす	13	92.9%
8 地域文化を通じた心豊かな人づくりと世代間交流の促進	13	92.9%
16 障害者が地域で暮らせる体制づくり	13	92.9%
37 身近にできる環境保全活動の推進	13	92.9%
39 環境にやさしいエネルギーの地産地消の挑戦	13	92.9%
41 持続的発展が可能な循環型社会の形成促進	13	92.9%
42 とちぎの豊かな自然環境の保全	13	92.9%
3 【若者世代】自立する力をはぐくむ	12	85.7%
5 【子育て世代】子育て力をはぐくむ	12	85.7%
14 学校及び学校周辺における安全の確保	12	85.7%
15 地域における支え合いの推進	12	85.7%
17 長寿社会における健康づくりの推進	12	85.7%
24 犯罪が発生しにくい地域づくり	12	85.7%
33 戦略的な誘客の推進	12	85.7%
35 交流と連携によるにぎわいのある地域づくり	12	85.7%
38 暮らしにおける低炭素社会に向けた取組の推進	12	85.7%
43 生物多様性の確保	12	85.7%
2 【子ども世代】生きる力をはぐくむ	11	78.6%
12 子どもを守りはぐくむ体制づくり	11	78.6%
13 仕事と子育ての両立支援	11	78.6%
20 住民による地域コミュニティの再生	11	78.6%
21 住民の助け合いによる防犯・防災の促進	11	78.6%
25 高齢者の交通事故抑止	11	78.6%
27 本県の強みを活かした産業の振興	11	78.6%
30 力強い農業の推進	11	78.6%
31 フードバレーとちぎの推進	11	78.6%
36 環境を守る人材の育成	11	78.6%
9 スポーツによる健やかな人づくりと世代間交流の促進	10	71.4%
23 消費生活における安全・安心の確保	10	71.4%
10 地域における子育ての支援	9	64.3%
19 総合的な自殺対策の推進	9	64.3%
26 被害者等支援の推進	9	64.3%
28 挑戦し、成長する企業の創出	9	64.3%
40 環境関連産業の振興による環境先進県とちぎづくり	9	64.3%
4 【大人世代】挑戦する心をはぐくむ	8	57.1%
47 雇用対策	7	50.0%
11 保育サービスの充実	5	35.7%
18 地域で安心できる医療の確保	5	35.7%
22 地域の移動手段の確保	5	35.7%
1 【子ども世代】成長の基礎をはぐくむ	4	28.6%
44 災害に強い地域づくり	4	28.6%
46 身近な社会資本と生活基盤の整備	4	28.6%
45 原子力災害対策	3	21.4%
29 戦略的な企業誘致の推進	2	14.3%



○「住民と行政がより密接に連携し取り組むべき」を回答した割合順（町全体、11町）

(n=11)

項目	回答数	%
3 【若者世代】自立する力をはぐくむ	11	100.0%
15 地域における支え合いの推進	11	100.0%
35 交流と連携によるにぎわいのある地域づくり	11	100.0%
42 とちぎの豊かな自然環境の保全	11	100.0%
30 力強い農業の推進	10	90.9%
34 住み続けたい、住んでみたい地域づくり	10	90.9%
7 【シルバー世代】知恵と能力を活かす	9	81.8%
8 地域文化を通じた心豊かな人づくりと世代間交流の促進	9	81.8%
13 仕事と子育ての両立支援	9	81.8%
17 長寿社会における健康づくりの推進	9	81.8%
20 住民による地域コミュニティの再生	9	81.8%
24 犯罪が発生しにくい地域づくり	9	81.8%
25 高齢者の交通事故抑止	9	81.8%
31 フードバレーとちぎの推進	9	81.8%
32 魅力あふれる観光地づくり	9	81.8%
33 戦略的な誘客の推進	9	81.8%
37 身近にできる環境保全活動の推進	9	81.8%
6 【若者～大人世代】多様な能力を活かす	8	72.7%
9 スポーツによる健やかな人づくりと世代間交流の促進	8	72.7%
36 環境を守る人材の育成	8	72.7%
39 環境にやさしいエネルギーの地産地消の挑戦	8	72.7%
43 生物多様性の確保	8	72.7%
1 【子ども世代】成長の基礎をはぐくむ	7	63.6%
4 【大人世代】挑戦する心をはぐくむ	7	63.6%
10 地域における子育ての支援	7	63.6%
14 学校及び学校周辺における安全の確保	7	63.6%
19 総合的な自殺対策の推進	7	63.6%
21 住民の助け合いによる防犯・防災の促進	7	63.6%
27 本県の強みを活かした産業の振興	7	63.6%
38 暮らしにおける低炭素社会に向けた取組の推進	7	63.6%
5 【子育て世代】子育て力をはぐくむ	6	54.5%
16 障害者が地域で暮らせる体制づくり	6	54.5%
23 消費生活における安全・安心の確保	6	54.5%
28 挑戦し、成長する企業の創出	6	54.5%
40 環境関連産業の振興による環境先進県とちぎづくり	6	54.5%
41 持続的発展が可能な循環型社会の形成促進	6	54.5%
2 【子ども世代】生きる力をはぐくむ	5	45.5%
12 子どもを守りはぐくむ体制づくり	5	45.5%
11 保育サービスの充実	4	36.4%
18 地域で安心できる医療の確保	4	36.4%
22 地域の移手段の確保	4	36.4%
26 被害者等支援の推進	4	36.4%
29 戦略的な企業誘致の推進	4	36.4%
44 災害に強い地域づくり	4	36.4%
47 雇用対策	4	36.4%
45 原子力災害対策	3	27.3%
46 身近な社会資本と生活基盤の整備	0	0.0%

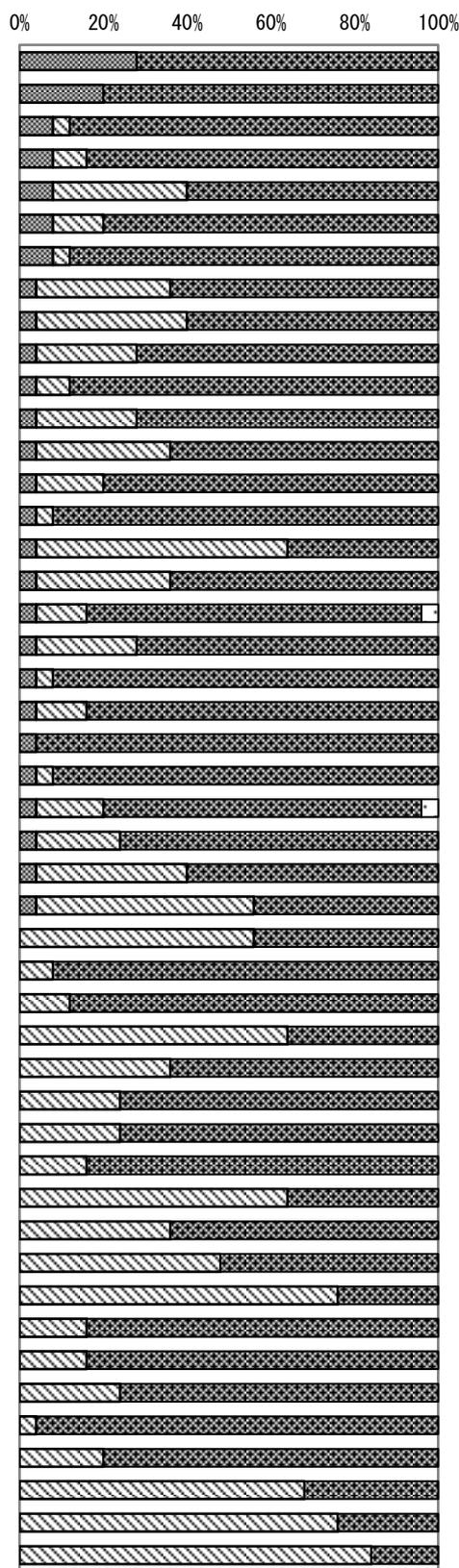


○ 「住民が主体的に取り組むべき」を回答した割合順  
(市町全体、25市町)

(n=25)

項目	回答数	%
21 住民の助け合いによる防犯・防災の促進	7	28.0%
20 住民による地域コミュニティの再生	5	20.0%
6 【若者～大人世代】多様な能力を活かす	2	8.0%
24 犯罪が発生しにくい地域づくり	2	8.0%
28 挑戦し、成長する企業の創出	2	8.0%
31 フードバレーとちぎの推進	2	8.0%
37 身近にできる環境保全活動の推進	2	8.0%
2 【子ども世代】生きる力をはぐくむ	1	4.0%
4 【大人世代】挑戦する心をはぐくむ	1	4.0%
5 【子育て世代】子育て力をはぐくむ	1	4.0%
7 【シルバー世代】知恵と能力を活かす	1	4.0%
9 スポーツによる健やかな人づくりと世代間交流の促進	1	4.0%
10 地域における子育ての支援	1	4.0%
13 仕事と子育ての両立支援	1	4.0%
15 地域における支え合いの推進	1	4.0%
18 地域で安心できる医療の確保	1	4.0%
19 総合的な自殺対策の推進	1	4.0%
25 高齢者の交通事故抑止	1	4.0%
27 本県の強みを活かした産業の振興	1	4.0%
32 魅力あふれる観光地づくり	1	4.0%
33 戦略的な誘客の推進	1	4.0%
34 住み続けたい、住んでみたい地域づくり	1	4.0%
35 交流と連携によるにぎわいのある地域づくり	1	4.0%
36 環境を守る人材の育成	1	4.0%
38 暮らしにおける低炭素社会に向けた取組の推進	1	4.0%
40 環境関連産業の振興による環境先進県とちぎづくり	1	4.0%
47 雇用対策	1	4.0%
1 【子ども世代】成長の基礎をはぐくむ	0	0.0%
3 【若者世代】自立する力をはぐくむ	0	0.0%
8 地域文化を通じた心豊かな人づくりと世代間交流の促進	0	0.0%
11 保育サービスの充実	0	0.0%
12 子どもを守りはぐくむ体制づくり	0	0.0%
14 学校及び学校周辺における安全の確保	0	0.0%
16 障害者が地域で暮らせる体制づくり	0	0.0%
17 長寿社会における健康づくりの推進	0	0.0%
22 地域の移動手段の確保	0	0.0%
23 消費生活における安全・安心の確保	0	0.0%
26 被害者等支援の推進	0	0.0%
29 戦略的な企業誘致の推進	0	0.0%
30 力強い農業の推進	0	0.0%
39 環境にやさしいエネルギーの地産地消の挑戦	0	0.0%
41 持続的発展が可能な循環型社会の形成促進	0	0.0%
42 とちぎの豊かな自然環境の保全	0	0.0%
43 生物多様性の確保	0	0.0%
44 災害に強い地域づくり	0	0.0%
45 原子力災害対策	0	0.0%
46 身近な社会資本と生活基盤の整備	0	0.0%

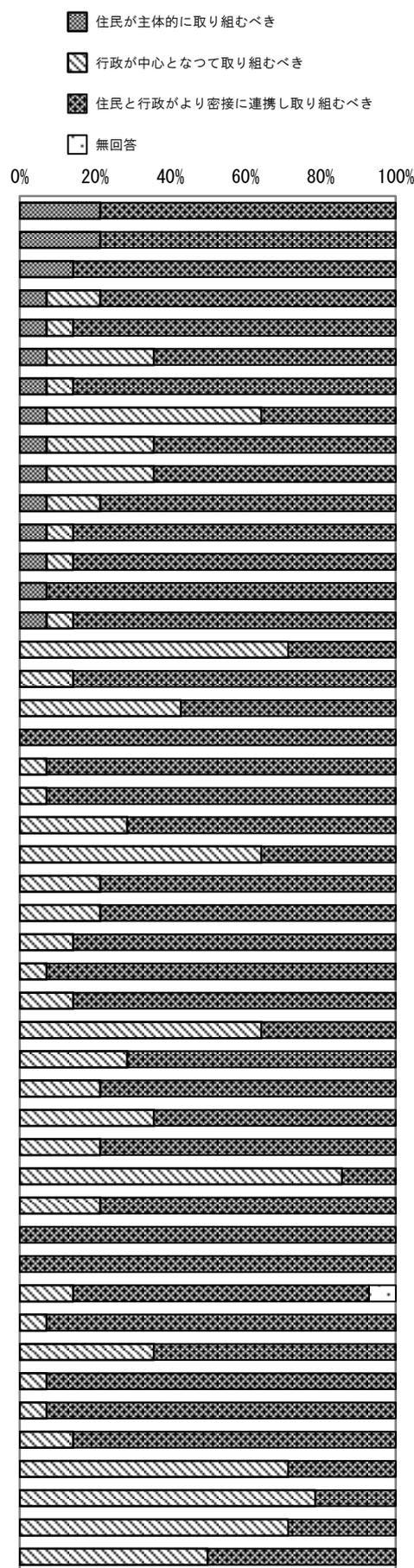
- 住民が主体的に取り組むべき
- 行政が中心となって取り組むべき
- 住民と行政がより密接に連携し取り組むべき
- 無回答



○ 「住民が主体的に取り組むべき」を回答した割合順  
(市全体、14市)

(n=14)

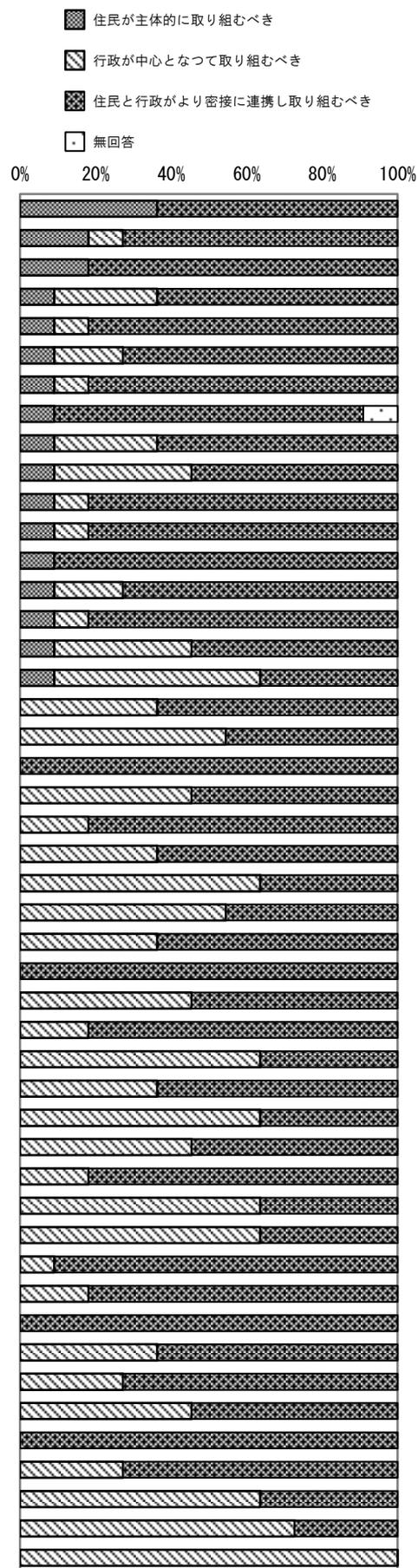
項目	回答数	%
20 住民による地域コミュニティの再生	3	21.4%
21 住民の助け合いによる防犯・防災の促進	3	21.4%
24 犯罪が発生しにくい地域づくり	2	14.3%
2 【子ども世代】生きる力をはぐくむ	1	7.1%
5 【子育て世代】子育て力をはぐくむ	1	7.1%
10 地域における子育ての支援	1	7.1%
15 地域における支え合いの推進	1	7.1%
18 地域で安心できる医療の確保	1	7.1%
19 総合的な自殺対策の推進	1	7.1%
28 挑戦し、成長する企業の創出	1	7.1%
31 フードバレーとちぎの推進	1	7.1%
33 戦略的な誘客の推進	1	7.1%
35 交流と連携によるにぎわいのある地域づくり	1	7.1%
37 身近にできる環境保全活動の推進	1	7.1%
38 暮らしにおける低炭素社会に向けた取組の推進	1	7.1%
1 【子ども世代】成長の基礎をはぐくむ	0	0.0%
3 【若者世代】自立する力をはぐくむ	0	0.0%
4 【大人世代】挑戦する心をはぐくむ	0	0.0%
6 【若者～大人世代】多様な能力を活かす	0	0.0%
7 【シルバー世代】知恵と能力を活かす	0	0.0%
8 地域文化を通じた心豊かな人づくりと世代間交流の促進	0	0.0%
9 スポーツによる健やかな人づくりと世代間交流の促進	0	0.0%
11 保育サービスの充実	0	0.0%
12 子どもを守りはぐくむ体制づくり	0	0.0%
13 仕事と子育ての両立支援	0	0.0%
14 学校及び学校周辺における安全の確保	0	0.0%
16 障害者が地域で暮らせる体制づくり	0	0.0%
17 長寿社会における健康づくりの推進	0	0.0%
22 地域の移動手段の確保	0	0.0%
23 消費生活における安全・安心の確保	0	0.0%
25 高齢者の交通事故抑止	0	0.0%
26 被害者等支援の推進	0	0.0%
27 本県の強みを活かした産業の振興	0	0.0%
29 戦略的な企業誘致の推進	0	0.0%
30 力強い農業の推進	0	0.0%
32 魅力あふれる観光地づくり	0	0.0%
34 住み続けたい、住んでみたい地域づくり	0	0.0%
36 環境を守る人材の育成	0	0.0%
39 環境にやさしいエネルギーの地産地消の挑戦	0	0.0%
40 環境関連産業の振興による環境先進県とちぎづくり	0	0.0%
41 持続的発展が可能な循環型社会の形成促進	0	0.0%
42 とちぎの豊かな自然環境の保全	0	0.0%
43 生物多様性の確保	0	0.0%
44 災害に強い地域づくり	0	0.0%
45 原子力災害対策	0	0.0%
46 身近な社会資本と生活基盤の整備	0	0.0%
47 雇用対策	0	0.0%



○ 「住民が主体的に取り組むべき」を回答した割合順  
(町全体、11町)

(n=11)

項目	回答数	%
21 住民の助け合いによる防犯・防災の促進	4	36.4%
6 【若者～大人世代】多様な能力を活かす	2	18.2%
20 住民による地域コミュニティの再生	2	18.2%
4 【大人世代】挑戦する心をはぐくむ	1	9.1%
7 【シルバー世代】知恵と能力を活かす	1	9.1%
9 スポーツによる健やかな人づくりと世代間交流の促進	1	9.1%
13 仕事と子育ての両立支援	1	9.1%
25 高齢者の交通事故抑止	1	9.1%
27 本県の強みを活かした産業の振興	1	9.1%
28 挑戦し、成長する企業の創出	1	9.1%
31 フードバレーとちぎの推進	1	9.1%
32 魅力あふれる観光地づくり	1	9.1%
34 住み続けたい、住んでみたい地域づくり	1	9.1%
36 環境を守る人材の育成	1	9.1%
37 身近にできる環境保全活動の推進	1	9.1%
40 環境関連産業の振興による環境先進県とちぎづくり	1	9.1%
47 雇用対策	1	9.1%
1 【子ども世代】成長の基礎をはぐくむ	0	0.0%
2 【子ども世代】生きる力をはぐくむ	0	0.0%
3 【若者世代】自立する力をはぐくむ	0	0.0%
5 【子育て世代】子育て力をはぐくむ	0	0.0%
8 地域文化を通じた心豊かな人づくりと世代間交流の促進	0	0.0%
10 地域における子育ての支援	0	0.0%
11 保育サービスの充実	0	0.0%
12 子どもを守りはぐくむ体制づくり	0	0.0%
14 学校及び学校周辺における安全の確保	0	0.0%
15 地域における支え合いの推進	0	0.0%
16 障害者が地域で暮らせる体制づくり	0	0.0%
17 長寿社会における健康づくりの推進	0	0.0%
18 地域で安心できる医療の確保	0	0.0%
19 総合的な自殺対策の推進	0	0.0%
22 地域の移手段の確保	0	0.0%
23 消費生活における安全・安心の確保	0	0.0%
24 犯罪が発生しにくい地域づくり	0	0.0%
26 被害者等支援の推進	0	0.0%
29 戦略的な企業誘致の推進	0	0.0%
30 力強い農業の推進	0	0.0%
33 戦略的な誘客の推進	0	0.0%
35 交流と連携によるにぎわいのある地域づくり	0	0.0%
38 暮らしにおける低炭素社会に向けた取組の推進	0	0.0%
39 環境にやさしいエネルギーの地産地消の挑戦	0	0.0%
41 持続的発展が可能な循環型社会の形成促進	0	0.0%
42 とちぎの豊かな自然環境の保全	0	0.0%
43 生物多様性の確保	0	0.0%
44 災害に強い地域づくり	0	0.0%
45 原子力災害対策	0	0.0%
46 身近な社会資本と生活基盤の整備	0	0.0%



## (5) 今後の市町村の役割

### 【 結果概要 】

「市町村の役割が大きくなる」と多く回答された項目は、下表のとおりである。  
市町間での大きな違いはなかった。  
特徴としては、市町ともに子育て・福祉・健康等の項目が上位に挙げられており、市町の役割が高くなるとの共通認識を持っていることがわかる。

### 【 調査内容 】

今後の市町村の役割が大きくなるであろう項目についての意識を把握するものである。  
47の項目ごとに、市町村の役割が、現状以上に高くなるものを選択。

### 【 調査結果(上位抜粋) 】

#### ・市町全体(25市町)

市町村の役割が、現状以上に高くなる項目	回答数	%
15 地域における支え合いの推進	14	56.0
2 【子ども世代】生きる力をはぐくむ	13	52.0
10 地域における子育ての支援	13	52.0
11 保育サービスの充実	13	52.0
17 長寿社会における健康づくりの推進	13	52.0
1 【子ども世代】成長の基礎をはぐくむ	11	44.0
5 【子育て世代】子育て力をはぐくむ	11	44.0
22 地域の移動手段の確保	10	40.0
34 住み続けたい、住んでみたい地域づくり	10	40.0
44 災害に強い地域づくり	10	40.0

・市全体(14市)

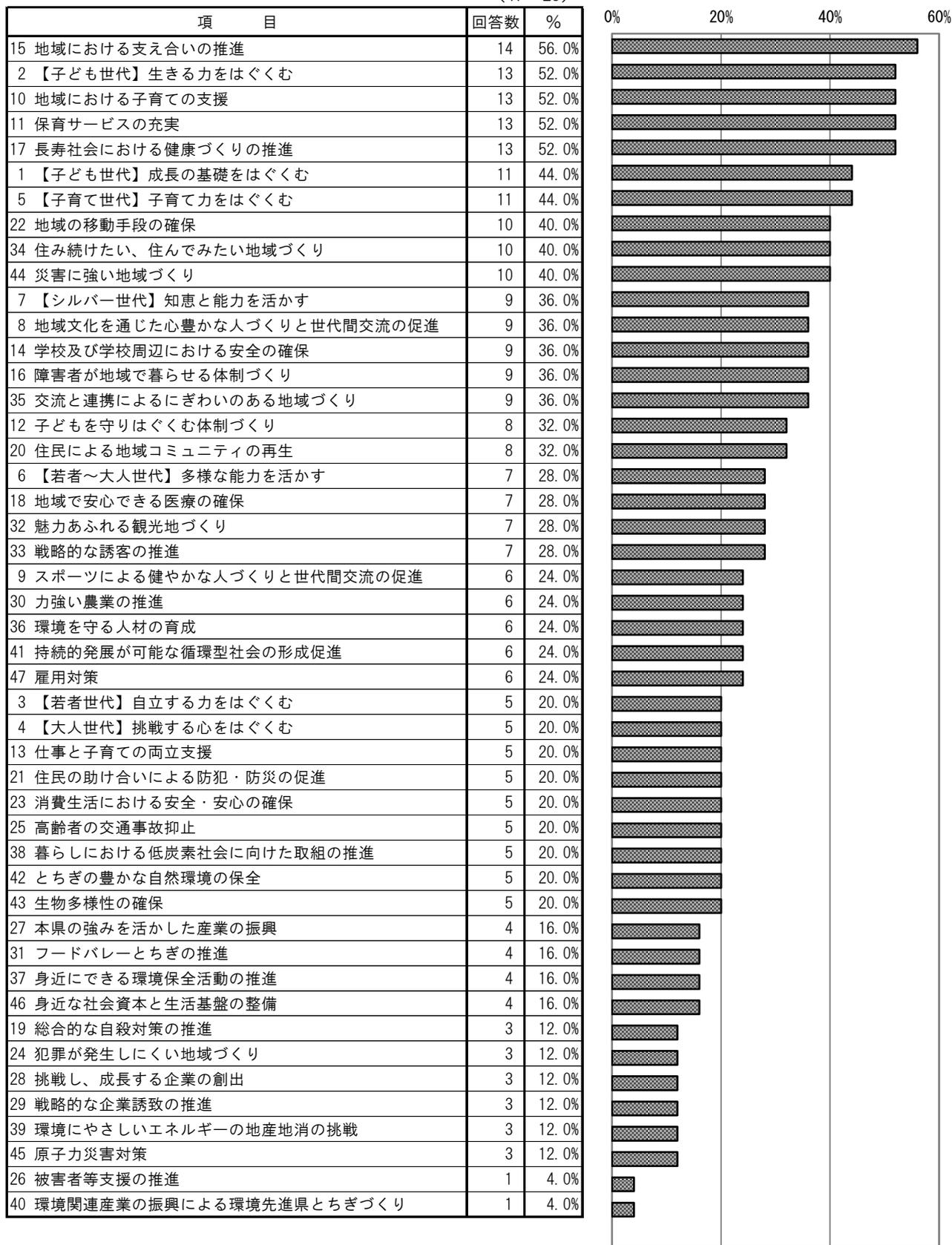
市町の役割が、現状以上に高くなる項目	(回答数 %)	
15 地域における支え合いの推進	8	57.1
17 長寿社会における健康づくりの推進	8	57.1
10 地域における子育ての支援	7	50.0
2 【子ども世代】生きる力をはぐくむ	6	42.9
8 地域文化を通じた心豊かな人づくりと世代間交流の促進	6	42.9
11 保育サービスの充実	6	42.9
16 障害者が地域で暮らせる体制づくり	6	42.9

・町全体(11町)

市町の役割が、現状以上に高くなる項目	(回答数 %)	
2 【子ども世代】生きる力をはぐくむ	7	63.6
11 保育サービスの充実	7	63.6
1 【子ども世代】成長の基礎をはぐくむ	6	54.5
5 【子育て世代】子育て力をはぐくむ	6	54.5
10 地域における子育ての支援	6	54.5
15 地域における支え合いの推進	6	54.5
12 子どもを守りはぐくむ体制づくり	5	45.5
17 長寿社会における健康づくりの推進	5	45.5
22 地域の移動手段の確保	5	45.5
34 住み続けたい、住んでみたい地域づくり	5	45.5
44 災害に強い地域づくり	5	45.5

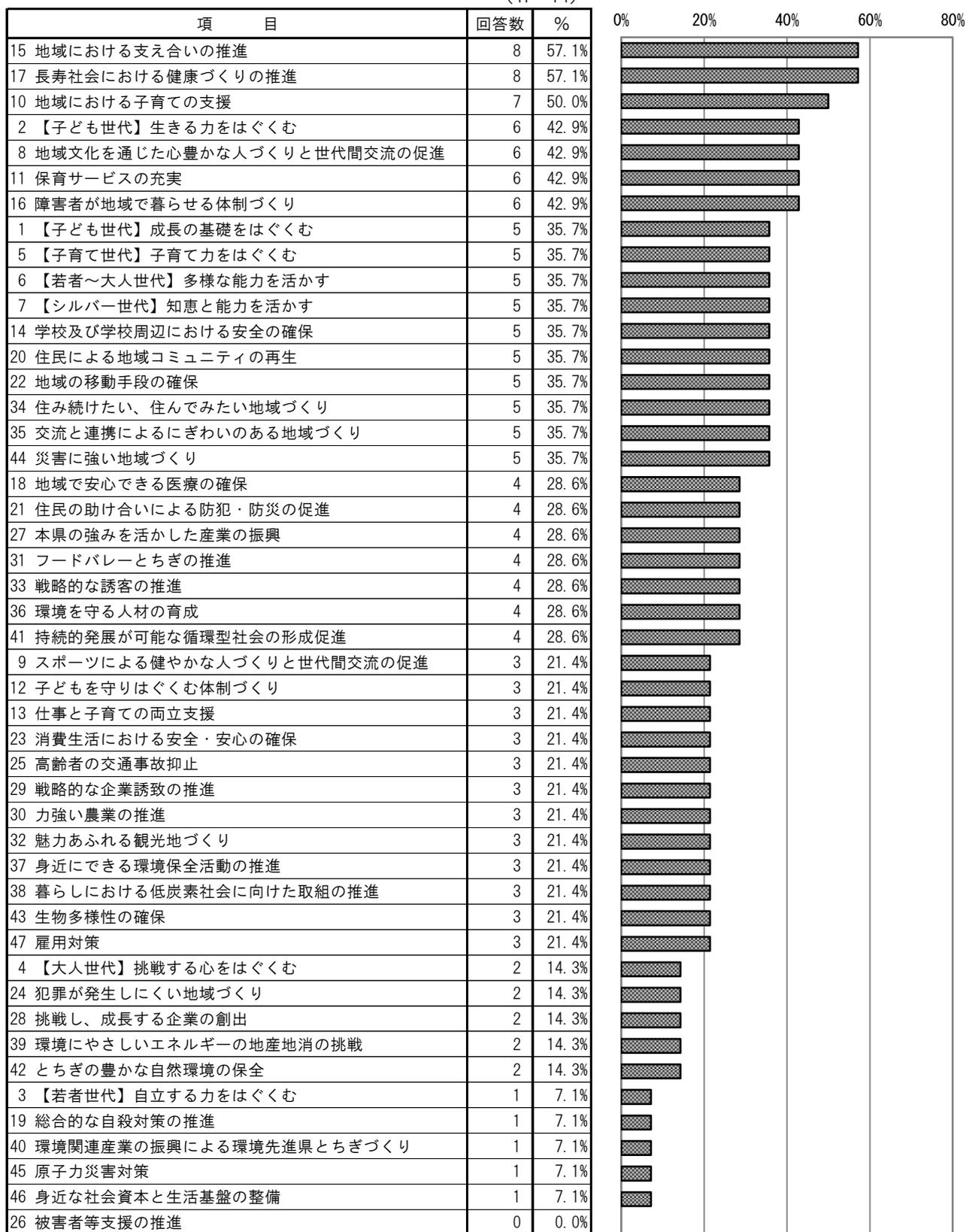
○「市町村の役割がこれまで以上に大きくなると考えているもの」（市町全体、25市町）

(n=25)



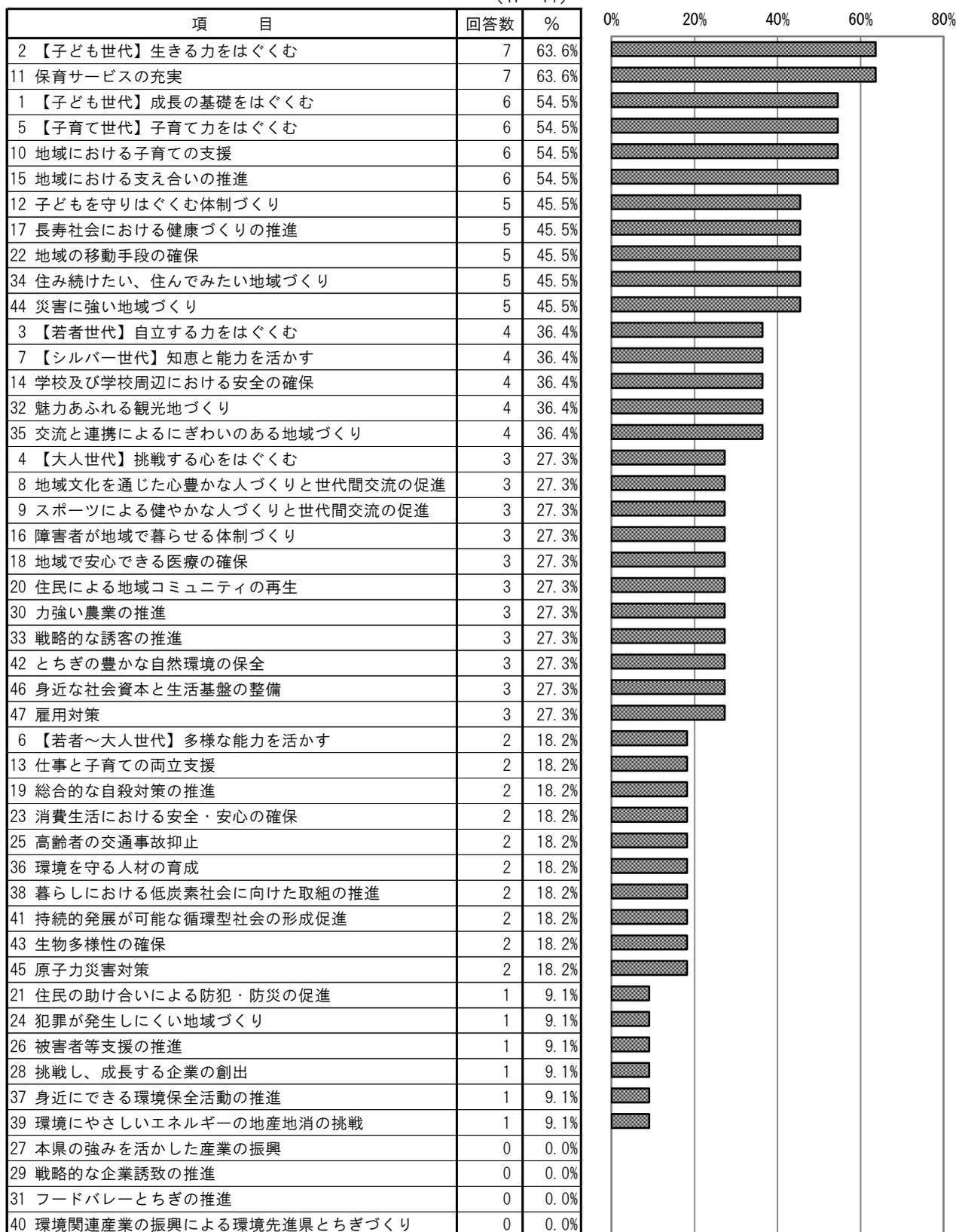
○「市町村の役割がこれまで以上に大きくなると考えているもの」（市全体、14市）

(n=14)



○「市町村の役割がこれまで以上に大きくなると考えているもの」（町全体、11町）

(n=11)



## (6) 満足度・重要度・役割分担の相関

### ① 満足度・重要度の相関

#### 【 結果概要 】

重要度が高く満足度が低い「優先的に取り組む必要性のある課題」は、「18 地域で安心できる医療の確保」、「44 災害に強い地域づくり」である。

#### 【 調査内容 】

先の調査結果で得た「満足度」と「重要度」を数値化し、それらの相関関係を見ることで、重要度に対する現状の満足度を把握する。

#### <満足度>

“とちぎ”の現状評価の結果を、以下の方法により「満足度」を数値化した。

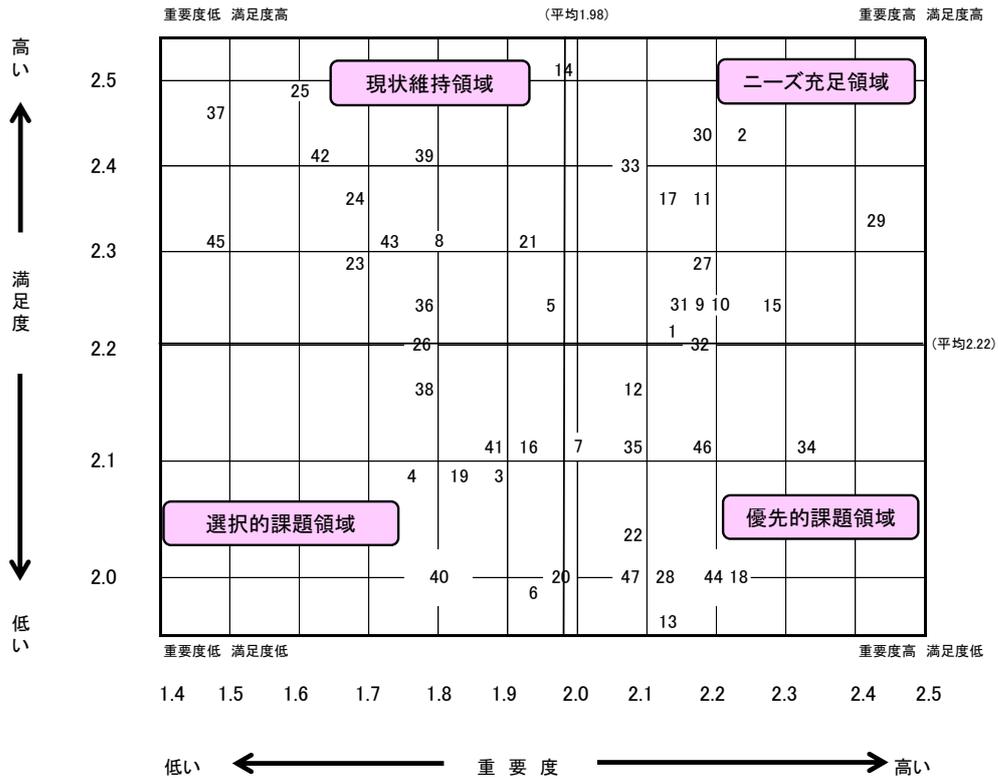
【満足度（5段階区分）】	【満足度：評価結果の数値化】
5 充実している	= 4点
4 わりと充実している	= 3点
3 どちらともいえない	= 2点
2 やや不十分である	= 1点
1 不十分である	= 0点

#### <重要度>

今後の行政取組のあり方の結果を、以下の方法により「重要度」を数値化した。

【重要度（4段階区分）】	【重要度：評価結果の数値化】
4 特に重点的に取り組む	= 3点
3 現状以上に取り組む	= 2点
2 現状程度に取り組む	= 1点
1 現状以下でよい	= 0点

# 満足度と重要度の相関図



- A 重要度が平均より低く、満足度が平均より高い**
- 5 子育て力をはぐくむ
  - 8 地域文化を通じた心豊かな人づくりと世代間交流の促進
  - 21 住民の助け合いによる防犯・防災の促進
  - 23 消費生活における安全・安心の確保
  - 24 犯罪が発生しにくい地域づくり
  - 25 高齢者の交通事故抑止
  - 26 被害者等支援の推進
  - 36 環境を守る人材の育成
  - 37 身近にできる環境保全活動の推進
  - 39 環境にやさしいエネルギーの地産地消の挑戦
  - 42 とちぎの豊かな自然環境の保全
  - 43 生物多様性の確保
  - 45 原子力災害対策

- B 重要度、満足度とも平均より高い**
- 1 成長の基礎をはぐくむ
  - 2 生きる力をはぐくむ
  - 9 スポーツによる健やかな人づくりと世代間交流の促進
  - 10 地域における子育ての支援
  - 11 保育サービスの充実
  - 14 学校及び学校周辺における安全の確保
  - 15 地域における支え合いの推進
  - 17 長寿社会における健康づくりの推進
  - 27 本県の強みを活かした産業の振興
  - 29 戦略的な企業誘致の推進
  - 30 力強い農業の推進
  - 31 フードバレーとちぎの推進
  - 32 魅力あふれる観光地づくり
  - 33 戦略的な誘客の推進

- C 重要度、満足度ともに平均より低い**
- 3 自立する力をはぐくむ
  - 4 挑戦する心をはぐくむ
  - 6 多様な能力を活かす
  - 16 障害者が地域で暮らせる体制づくり
  - 19 総合的な自殺対策の推進
  - 20 住民による地域コミュニティの再生
  - 38 暮らしにおける低炭素社会に向けた取組の推進
  - 40 環境関連産業の振興による環境先進県とちぎづくり
  - 41 持続的発展が可能な循環型社会の形成促進

- D 重要度が平均より高く、満足度が平均より低い**
- 7 知恵と能力を活かす
  - 12 子どもを守りはぐくむ体制づくり
  - 13 仕事と子育ての両立支援
  - 18 地域で安心できる医療の確保
  - 22 地域の移動手段の確保
  - 28 挑戦し、成長する企業の創出
  - 34 住み続けたい、住んでみたい地域づくり
  - 35 交流と連携によるにぎわいのある地域づくり
  - 44 災害に強い地域づくり
  - 46 身近な社会資本と生活基盤の整備
  - 47 雇用対策

## ②重要度・役割分担の相関

### 【 結果概要 】

行政が中心となって取り組むべき項目は、「45 原子力災害対策」や「46 身近な社会資本と生活基盤の整備」などであり、それらの中で重要度が高い項目は、「29 戦略的な企業誘致の推進」である。

また、多くの項目が「住民と行政が連携して取り組む項目」となっており、今後は住民と行政が密接に連携を図り取り組むことが必要と考えられている。

### 【 調査内容 】

先の調査結果で得た「重要度」と「役割分担」を数値化し、それらの相関関係を見ることで、施策毎の重要度と役割分担の関係を把握する。

#### <重要度>

今後の行政取組のあり方の結果を、以下の方法により「重要度」を数値化した。

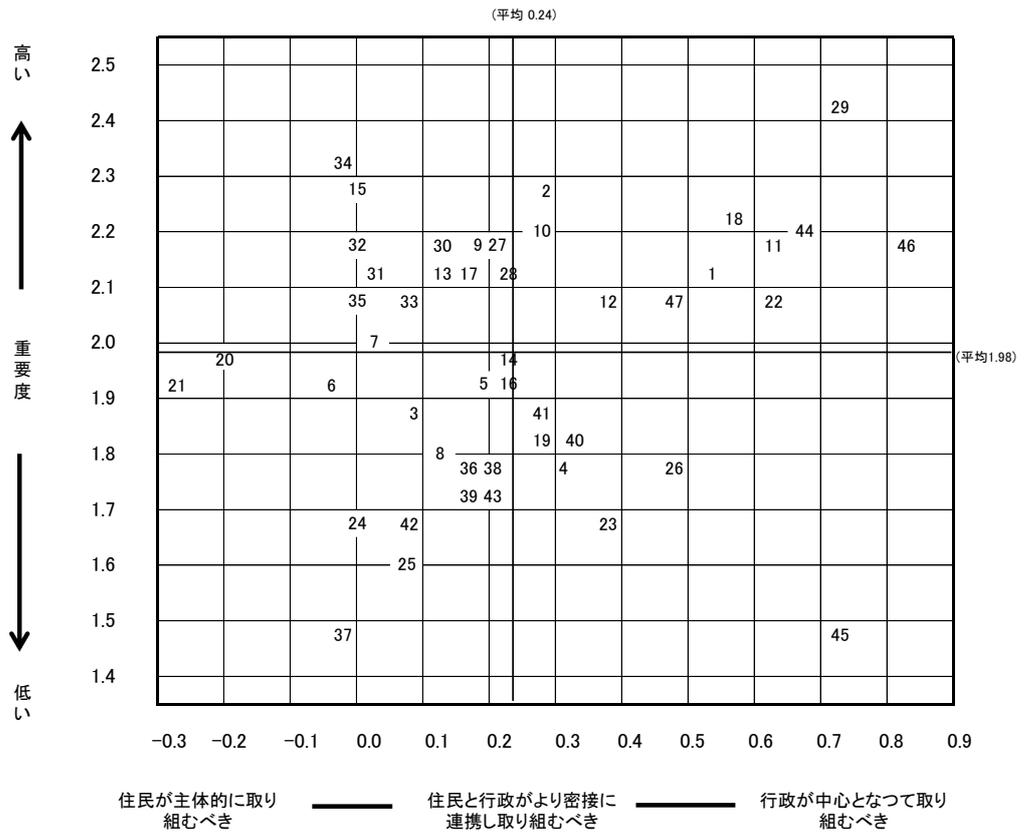
【重要度（4段階区分）】	【重要度：評価結果の数値化】
4 特に重点的に取り組む	= 3点
3 現状以上にに取り組む	= 2点
2 現状程度に取り組む	= 1点
1 現状以下でよい	= 0点

#### <役割分担>

住民と行政の役割分担のあり方の結果を、以下の方法により「役割分担」を数値化した。  
(+値は行政中心、-値は住民中心になる)

【役割分担（3段階区分）】	【役割分担：評価結果の数値化】
3 行政が中心となって取り組むべき	= 1点
2 住民と行政がより密接に連携し取り組むべき	= 0点
1 住民が主体的に取り組むべき	= -1点

### 重要度と役割分担の相関図



- A 重要度が平均より高く、役割が住民主体～連携**
- 7 知恵と能力を活かす
  - 9 スポーツによる健やかな人づくりと世代間交流の促進
  - 13 仕事と子育ての両立支援
  - 15 地域における支え合いの推進
  - 17 長寿社会における健康づくりの推進
  - 27 本県の強みを活かした産業の振興
  - 30 力強い農業の推進
  - 31 フードバレーとちぎの推進
  - 32 魅力あふれる観光地づくり
  - 33 戦略的な誘客の推進
  - 34 住み続けたい、住んでみたい地域づくり
  - 35 交流と連携によるにぎわいのある地域づくり

- B 重要度が平均より高く、役割が連携～行政中心**
- 1 成長の基礎をはぐくむ
  - 2 生きる力をはぐくむ
  - 10 地域における子育ての支援
  - 11 保育サービスの充実
  - 12 子どもを守りはぐくむ体制づくり
  - 18 地域で安心できる医療の確保
  - 22 地域の移手段の確保
  - 28 挑戦し、成長する企業の創出
  - 29 戦略的な企業誘致の推進
  - 44 災害に強い地域づくり
  - 46 身近な社会資本と生活基盤の整備
  - 47 雇用対策

- C 重要度が平均より低く、役割が住民主体～連携**
- 3 自立する力をはぐくむ
  - 5 子育て力をはぐくむ
  - 6 多様な能力を活かす
  - 8 地域文化を通じた心豊かな人づくりと世代間交流の促進
  - 20 住民による地域コミュニティの再生
  - 21 住民の助け合いによる防犯・防災の促進
  - 24 犯罪が発生しにくい地域づくり
  - 25 高齢者の交通事故抑止
  - 36 環境を守る人材の育成
  - 37 身近にできる環境保全活動の推進
  - 38 暮らしにおける低炭素社会に向けた取組の推進
  - 39 環境にやさしいエネルギーの地産地消の挑戦
  - 42 とちぎの豊かな自然環境の保全
  - 43 生物多様性の確保

- D 重要度が平均より低く、役割が連携～行政中心**
- 4 挑戦する心をはぐくむ
  - 14 学校及び学校周辺における安全の確保
  - 16 障害者が地域で暮らせる体制づくり
  - 19 総合的な自殺対策の推進
  - 23 消費生活における安全・安心の確保
  - 26 被害者等支援の推進
  - 40 環境関連産業の振興による環境先進県とちぎづくり
  - 41 持続的発展が可能な循環型社会の形成促進
  - 45 原子力災害対策

役割分担平均

### ③満足度・役割分担の相関

#### 【 結果概要 】

行政が中心に取り組むべきと考えている項目のうち、「11 保育サービスの充実」、「29 戦略的な企業誘致の推進」、「45 原子力災害対策」は満足度が高かった。逆に、「22 地域の移動手段の確保」及び「44 災害に強い地域づくり」は、満足度が低かった。

住民と行政がより密接な連携が必要と考えられている項目では、「14 学校及び学校周辺における安全の確保」及び「25 高齢者の交通事故抑止」の満足度が高いが、「13 仕事と子育ての両立支援」は非常に低い。

#### 【 調査内容 】

先の調査結果で得た「満足度」と「役割分担」を数値化し、それらの相関関係を見ることで、施策毎の満足度と役割分担の関係を把握する。

#### <重要度>

“とちぎ”の現状評価の結果を、以下の方法により「満足度」として数値化した。

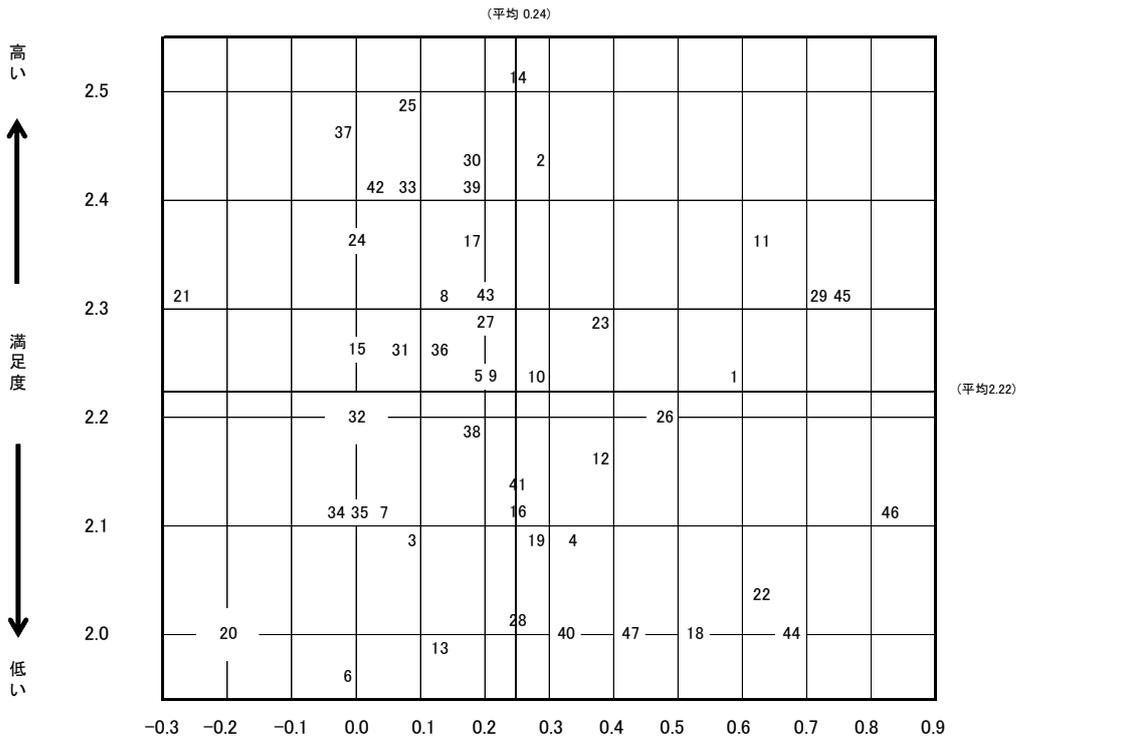
【満足度（5段階区分）】	【満足度：評価結果の数値化】
5 充実している	= 4点
4 わりと充実している	= 3点
3 どちらともいえない	= 2点
2 やや不十分である	= 1点
1 不十分である	= 0点

#### <役割分担>

住民と行政の役割分担のあり方の結果を、以下の方法により「役割分担」を数値化した。  
(+値は行政中心、-値は住民中心になる)

【役割分担（3段階区分）】	【役割分担：評価結果の数値化】
3 行政が中心となって取り組むべき	= 1点
2 住民と行政がより密接に連携し取り組むべき	= 0点
1 住民が主体的に取り組むべき	= -1点

# 満足度と役割分担の相関図



住民が主体的に取り組むべき
住民と行政がより密接に連携し取り組むべき
行政が中心となって取り組むべき

- A 満足度が平均より高く、役割が住民主体～連携**
- 5 子育て力をはぐくむ
  - 8 地域文化を通じた心豊かな人づくりと世代間交流の促進
  - 9 スポーツによる健やかな人づくりと世代間交流の促進
  - 15 地域における支え合いの推進
  - 17 長寿社会における健康づくりの推進
  - 21 住民の助け合いによる防犯・防災の促進
  - 24 犯罪が発生しにくい地域づくり
  - 25 高齢者の交通事故抑止
  - 27 本県の強みを活かした産業の振興
  - 30 力強い農業の推進
  - 31 フードバレーとちぎの推進
  - 33 戦略的な誘客の推進
  - 36 環境を守る人材の育成
  - 37 身近にできる環境保全活動の推進
  - 39 環境にやさしいエネルギーの地産地消の挑戦
  - 42 とちぎの豊かな自然環境の保全
  - 43 生物多様性の確保

- B 満足度が平均より高く、役割が連携～行政中心**
- 1 成長の基礎をはぐくむ
  - 2 生きる力をはぐくむ
  - 10 地域における子育ての支援
  - 11 保育サービスの充実
  - 14 学校及び学校周辺における安全の確保
  - 23 消費生活における安全・安心の確保
  - 29 戦略的な企業誘致の推進
  - 45 原子力災害対策

- C 満足度が平均より低く、役割が住民主体～連携**
- 3 自立する力をはぐくむ
  - 6 多様な能力を活かす
  - 7 知恵と能力を活かす
  - 13 仕事と子育ての両立支援
  - 20 住民による地域コミュニティの再生
  - 32 魅力あふれる観光地づくり
  - 34 住み続けたい、住んでみたい地域づくり
  - 35 交流と連携によるにぎわいのある地域づくり
  - 38 暮らしにおける低炭素社会に向けた取組の推進

- D 満足度が平均より低く、役割が連携～行政中心**
- 4 挑戦する心をはぐくむ
  - 12 子どもを守りはぐくむ体制づくり
  - 16 障害者が地域で暮らせる体制づくり
  - 18 地域で安心できる医療の確保
  - 19 総合的な自殺対策の推進
  - 22 地域の移動手段の確保
  - 26 被害者等支援の推進
  - 28 挑戦し、成長する企業の創出
  - 40 環境関連産業の振興による環境先進県とちぎづくり
  - 41 持続的発展が可能な循環型社会の形成促進
  - 44 災害に強い地域づくり
  - 46 身近な社会資本と生活基盤の整備
  - 47 雇用対策

重要度平均

## 2 「人口減少問題」について

### (1) 今後の人口動態の推移について

#### ① 人口の推移について

ほぼ全ての市町で、人口は今後、減少していくと予想しており、このまま対策を取らなければ、さらに減少のペースが加速すると危機感を持っている。

#### 【具体的意見】

本市は、現在、自然動態・社会動態ともに増加しており、人口は増加している。今後は、出生数の減少、死亡者数の増加により自然動態が減少するものの、流入超過による社会動態の増加により、人口水準は保たれるものと見込んでいる。その後、自然動態の減少が社会動態の増加を上回り、人口減少に転じてからは、緩やかな減少傾向から、徐々に減少のペースが速まるものと見込まれる。

平成2年をピークに減少を続けており、現状が継続した場合、減少率も加速することが想像される。

市の人口については、減少傾向にあることは十分認識していたところである。国立社会保障・人口問題研究所では、国勢調査人口を基準に、将来人口を推計している。その状況を見ると、2000年の国勢調査を基準とした2005年から2030年までの5年ごとの推計値と2005年の国勢調査を基準とした2010年から2035年までの5年ごとの推計値、さらに2010年の国勢調査を基準とした2015年から2040年までの5年ごとの推計値を見ると、2015、2020、2025、2035年の推計値が重なっている。この推移を見ると、人口減少傾向が顕著になっている。また、日本創成会議の推移値や、厚生労働省が発表した市町村ごとの合計特殊出生率などを斟酌すると、本市の人口減少傾向は今後も、続くと考えられることから、人口定住化施策を効果的・効率的かつ早急に推進する必要がある。そこで、本市では、国に先駆けて人口増・人口定着を効果・効率的に推進するため、定住対策推進本部を設置したところである。

当市の統計資料では平成21年から平成25年まで人口増加率が5年連続で減少しており、人口推移は減少に向かっている。このまま国内人口の減が進むほど都市部への人口流出はよりいっそう加速してしまうものと考ええる。

近年の本市における人口は、平成13（2001）年3月の104916人をピークに減少を続け、2013年度に10万人をきった。この減少幅は、国立人口問題研究所の予測や本市の予測よりも大きく、今後もこの流れは続くと考えられる。

現在の人口動態や社会的な状況から推測すると人口の減少は避けられないと考えている。ただし、各方面が推計している将来人口予想については、これを子育て施策をはじめとした定住促進施策などの行政施策により緩やかにすることは、可能と考える。また、本市の特徴である年間1000万人を超える観光入込者の交流人口をさらに増加させることにより、定住化や地域のにぎわいの創出、地域コミュニティの維持へつなげることが必要であると考ええる。

国立社会保障・人口問題研究所の報告書「日本の地域別将来推計人口」によると、当市の将来推計人口は5年ごとの推計値において、2015年の165834人から2020年の165161人へと減少に転じた後は人口減少が継続し、2040年の推計人口では151725人となり、これは2010年と比較した場合、7.7%の減少率となっています。また、民間の有識者会議「日本創成会議」が発表した2040年の20～39歳の若年女性人口の推計では、本市における若年女性人口の減少率が28.6%と推計されています。このため、このまま手をこまねていると、近い将来、当市の人口が減少局面に転じることとなるため、当市の「人と企業を呼び込む施策」のなお一層の積極的推進が必要と考えています。

本市においては、国勢調査では、平成17年までは増加したが、平成22年では減少に転じた。今後もゆるやかな減少が見込まれる。

平成17年頃がピークとなっていた本市の人口は、自然動態、社会動態ともに連続して減少していることから、今後もこの傾向は緩やかではあるものの引き続き、年々減少していくものと推測されます。

## 【具体的意見】

平成26年4月1日現在の人口については、34265人となっております。国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、2040年には6310人減の27955人と推計されており、減少率は18.4%と公表されました。人口減少問題は、本市のみならず日本全体が、いかに減少を食い止めていくかが全国の地方自治体の喫緊の課題となっておりますが、本市では第2次総合計画において、平成32年度の計画人口を38500人に設定しているところです。この目標値に近づけるため、本市では「子育て環境日本一」を掲げてまちづくりに取り組んでおり、子育て環境の充実はもちろんのこと、積極的な定住基盤の整備や就労場所の確保、教育環境の充実や都市との交流などによる人口増加を図っているところです。

本市は新幹線駅や2箇所の高速道路インターチェンジなどがあり、交通の要衝となっていることや、地価が比較的安価であること、災害の蓋然性が低いことなどから、近年までは人口増加地域であったが、少子高齢化という大きな時代の流れとともに、緩やかに減少していくものと思われる。

2015年の45000人程度をピークに緩やかな減少となり、2040年には40000人程度と予想されます。

本市の人口の推移については、平成20年3月の総合計画基本構想策定時において推計しており、平成17年度合併時の31152人（国勢調査）を基準とし、国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口及び本市の移動人口等を参考に平成29年度では27500人で推計していました。その後平成25年3月の総合計画後期計画において推計値を見直し、平成22年度国勢調査による29206人を基準とし平成29年度26600人、平成32年度25500人と推計しています。なお、総合計画後期基本計画では定住増加の可能性を十分に活かし、人口減少を可能な限り抑制することとし努力目標として30000人に設定しています。

当市の人口は概ね10年は横ばいがつづき、他市町より遅れて、緩やかに減少に転じると予想する。（以下の②および③の内容から総じて判断）

今後は、緩やかな減少傾向を示す。

人口の減少と高齢化は現在の年齢構成や経済情勢から推測しても数十年は継続すると見込まれる。これは、単純に高齢者が増加するだけでなく若年層が町外に転出することも原因である。

予想をはるかに上回るスピードで人口減少が続くものと思われます。特に、少子化（出生数の大幅減少）が顕著に進んでいます。

漸減して行くと思います。

町の毎月人口動態調査からの推移推計では、2010年に比較し2030年の人口は、12.3%減となる見込みである。また、日本創成会議が示した、人口移動が収束しないと想定した場合は、2040年には25.5%の減となる試算が示されたが、ほぼ同様の推移により人口が減少していく傾向にある。現在計画されている施策を実施した場合、約10年後、2025年の人口は国立社会保障・人口問題研究所が推計している13388人より400～500人程度上回る程度と想定される。

今後到来する超少子高齢化社会により人口減は予想されるが、住みやすさの点については恵まれた住環境のため、それを上回る人口流入（社会増）が予想される。

町の人口は平成11年の27080人をピークに、減少傾向にあるが、平成17年以降は減少傾向が鈍化し、平成21年に一時的に増加に転じたが、平成22年より再び減少傾向にあり、平成25年の人口は25431人となっている（毎月人口調査）。今後も減少傾向が続くと思われるが、各種政策により、人口減少の食い止めを図っていきたい。

首都圏への一極集中が、さらに進み、本町の人口についても、減少することは避けられないものと考えられる。日本創成会議が予想する数字になるかどうかは、今後の取り組み方、次第ではないかと考えている。

**【具体的意見】**

本町は、県都宇都宮市のベットタウンとしてこれまで順調に発展してきたが、平成19年の31058人をピークに人口が減少に転じている。平成26年4月1日基準で人口30089人が、10年後には約2500人減少すると推測される。また、年少人口は△2%、生産年齢人口は△4%と共に減少し、老年人口は6%増加すると推測される。

若年層の町外流出が今後も予想されるので人口は減少する

ゆるやかな減少に推移する考える

## ②自然動態の推移について

ほとんどの市町で近年、出生数は減少し、死亡数は増加している状況である。そのため、すでに自然減に転じている、もしくは近い将来、自然減に転じると予想しており、さらに少子高齢化が加速すると見込んでいる。

### 【具体的意見】

現在、自然動態は増加しているものの、年々、出生数は減少し、死亡者数は増加している。今後とも、母親世代の減少などに伴う出生数の減少や後期高齢者の増加に伴う死亡者数の増加が続くことから、近い将来、自然動態は、減少に転じるものと見込んでいる。

出生数の減、死亡数の増がそれぞれ進み、自然減は増加する。

平成21年度から平成25年度までの本市の出生数と死亡数の推移を見ると、各年度ともに、死亡数が出生数を上回っている。本年2月13日に厚生労働省が平成20～24年の市町村の人口動態を分析して市町村別の合計特殊出生率を公表した。そのデータによると、合併前の数値が、1.32である。このデータから推測すると、少子化を解消する施策を積極的かつ迅速に推進しない場合、死亡数が出生数を上回る傾向は続くと考えられる。

自然動態についても5年連続減となっており、出生率よりも死亡率が大きくなっている。

少子高齢化の中にあり、晩婚化、未婚化も進んでいる。また、若年層の流出も続いており、農村部、山間部を中心に市全体で自然動態の減少は続くと考えられる。

本市は、山間地域が多く、このため、高齢化集落が点在している。このようなことから、自然動態の今後の推移も、ますます厳しい状況が続くと推定される。しかしながら、子ども医療費無料年齢の引き上げなど、子育て環境整備による子どもを育てやすい環境づくりの推進と高齢化集落見守り安心事業などの高齢者対策による長寿化を進めることで、出生率の向上や長寿化施策につなげ、自然動態の推移をゆるやかにすることが可能であると考えている。

当市の毎月人口調査に基づく平成5年の出生数は1506人、死亡数は927人となり、579人の自然増がありました。一方、平成25年の出生数は1475人、死亡数は1454人となっており、21人の自然増に留まっております。出生数が減少傾向、死亡数が増加傾向となっており、今後、自然減が続くと考えられます。

出生率は低率で推移し、死亡者数は増加するため、減少であると考えます。

自然動態の推移について、平成17年から25年までの住民基本台帳によると、死亡数が出生数を上回って推移しています。年少人口及び生産年齢人口は減少し続け、高齢化率は高くなってきており、この傾向は、コーホート変化率法による推計をするまでもなく、引き続き継続していくものと思われま。

ここ1年間の推移を見ても毎月、自然減が続いております。子育て世代である20～30歳代の本市人口については、現在の7579人に対し2040年には4914人となり2665人減（減少率35.2%）との推計が出ており、人口減少を食い止めるためにも、子育て世代への更なる支援が重要であると考えております。

全国的な少子高齢化の波は本市においても同様であるが、出生率は国や栃木県の数値を上回っているものの、出生者数は年間1000人強で横ばいである。いっぽう死亡率は年々増加傾向であり、今後は出生者数と死亡者数の差が小さくなる見込みである。

徐々に自然減少幅が増大し、2035年には1000人／5年の減少が予想されます。

## 【具体的意見】

0歳～4歳人口H22：943人、H27：855人、H32：711人と推計している。これは、生存率・純移動率（平成20年12月推計国立社会保障人口問題研究所公表の数値）、婦人子ども比（平成22年の実績値「女：15～49歳」）に対する「男女：0歳～4歳」の割合で推計。出生数がH22：178人、H23：154人、H24：151人と減少しており、今後も減少が見込まれる。総合計画後期基本計画において、子育て支援を重点事業としており子どもを産み、育てる環境を整備し、出生率の向上に努めるとしている。死亡については、400人程度で推移しており、平成27年度には高齢化率が30%を超える可能性がある。\*住民基本台帳により試算。

恵まれた医療環境にあり、健康意識の高い市民が多く住んでいることから、健康な高齢者が増加すると予想。出生数が伸びない分、14歳以下の人口は減り、65歳以上の高齢人口の割合が増えることから、生産人口は減少する。平成22年を基準にして、総人口は10年後（32年）は△2.2%、20年後は△7.0%と予想する。

年少人口指数が高く、老年人口指数が低い状況からしばらくは微増から現状維持。

出生と死亡の差は、毎年100名程度死亡者が多くなっており、今後は死亡者の割合がさらに高い水準で推移し、少子高齢化は加速すると見込まれる。

年間の出生数の大幅減少が続いています。

出生件数は、現在の当町の合計特殊出生率1.45人の率が変わらない場合で、なおかつ、現在の年間出生者が110人とすると2040年には約41%減の約65人まで大幅に減少すると推計される。一方、団塊世代の高齢化により、2010年の高齢化率が24.5%であったものが、2030年には32%と見込まれ超高齢化社会となり、2035年頃がピークと予想される。これにより、死亡者も増加すると同時に出生者数も減少が進行すると見られ、高齢化の低下率は僅かではないかと推測される。

少子化に伴い、自然人口の減少は加速すると思われるが、健康寿命の強化啓発により緩やかな現象カーブにしていきたい。

町内において、平成18年までは、出生数が死亡者数を上回っていたが、平成19年以降は死亡者数が出生数を上回っている。特に、平成22年以降は減少傾向が続いており、全国的な傾向であるが、当町においても少子化が進行している。今後もこの傾向は避けられないと思われるが、少子化対策、子育て支援策等を通じ、出生数の増加を図っていきたい。

高齢化率が30%を超え、年間の出生者数は50～60人であり、減少率は、年々厳しいものがある。

平成24年までは、出生者数と死亡者数を比べ、出生者数のほうが多かったが、平成25年以降は死亡者数の方が多く逆転した。今後も、出生者数は減少し、高齢化に伴い、死亡者数の増加が推測される。

出生率が年々低下しており、有識者でつくる日本創成会議が5月に公表した2040年に当町の若い女性は約54%減となり子供を産む女性が大幅に減れば人口減少は今後加速すると思われる。

ゆるやかな減少に推移すると考える。

### ③社会動態の推移について

社会増の市町も一部見受けられるが、大部分の市町では社会減が顕著である。人口流出の理由は、大学進学や就職と推測しており、対策として企業誘致等による雇用の確保を挙げている。

#### 【具体的意見】

現在、社会動態は流入超過となっており、今後もその傾向は続くものと見込んでいるが、全国的に人口規模が縮小していることから、流入数及び流出数はそれぞれ徐々に減少していくものと見込まれる。

社会減は続くものの、年間の減少数は少なくなっていく。

2000年、2005年、2010年の国勢調査における5歳区分年齢人口の推移を見ると、0歳から14歳の人口は定住率が高い。本市で誕生した方が、義務教育年齢期までは、他地域へ移動していないことが読み取れる。しかしながら、15歳から19歳の年齢期では、明らかに他地域への移動が見られるようになり、20歳から24歳の年齢期では、他地域への移動が顕著となる。25歳から29歳の年齢期では、他地域への移動が安定し、30歳以上では、ほぼ他地域への移動が落ち着いている。15歳から19歳の年齢期における他地域への移動により減少した人口数が復元する年齢期が無いのが現状である。この傾向は高校卒業後、大学などの高等教育機関への就学や就職の際に、本市から人口が流出しているものと考えられ、一旦流出した方々が本市に戻り、定住することが僅少であることが主たる要因と考えられる。

社会動態については5年間の平均では減少の傾向ではあるが、平成24、25年と増加がみられるため、これからも雇用の確保、積極的な企業誘致の施策を行うことで急激な推移の変化を防ぐことが重要と思われる。

東京までのアクセスがよく、宇都宮市に隣接していることから、大学就学や就職を機に流出すると思われる若年層を中心に、社会動態の減少は続くと考えられる。

本市は、大学や専門学校などの教育施設が市域に存在しないことから、高校以後の教育を望む場合に県内他市町又は首都圏へ転出する状況にある。また、雇用の場においても、県内他市町又は首都圏への流出が多い状況にある。また、同様にこれがUターンやIターンにつながるまでの状況には至っていないと考えられる。しかしながら、年間100万人を超える観光入込者がある本市としては、これらの交流人口を定住化につなげることにより、社会動態の推移を緩やかにしていくことの可能性が高い。このため、これまで以上に他市の人たちを受け入れる交流事業を展開し、定住化までつなげていけることが必要と考えている。

当市の毎月人口調査に基づく平成5年の転入者数は7486人、転出者数は6913人で、573人の社会増がありました。一方、平成25年の転入者数は7998人、転出者数は7383人で、615人の社会増があり、社会増が継続しています。このように社会増が継続しているのは、当市の「人と企業を呼び込む施策」による効果が表れたものであり、今後も一層の対応策を講じる必要性があると考えています。

工業団地の企業誘致により増加も見込まれるが、全体的には減少傾向にあると考える。

社会動態の推移について、平成17年から25年までの住民基本台帳によると、毎年継続して転出が転入を上回っています。新たな大規模企業誘致等の人口増となる要因が現在のところ見込めないことから、特別なことのない限り、今後もこの傾向は引き続くものと思われます。

東日本大震災の影響が極めて大きいものと推察されますが、立地企業の事業規模縮小による影響や指定廃棄物最終処分場候補地の選定が影響していると思われます。今後は、立地企業の業績回復と放射能への不安や農産物などへの風評被害など、一日も早く払拭されるよう努力していかねばならないと思いますが、指定廃棄物最終処分場選定の問題が、早期に解決されないかぎり、なかなか人口増にはつながらないと考えております。

## 【具体的意見】

平成22年度までは転入者が転出者を上回っていたが、平成23年度から転出者が上回っている状況となった。そのため本市では平成26年3月に「定住促進計画」を策定し、社会動態の増加を短期的な目標と定めている。計画に基づき今後様々な施策を展開していく予定であり、この逆転現象は解消されると思われる。

社会増は緩やかに減少し、2035年には社会減に転じると予想されます。

転入者については、H20：809人以降600人前後となっており、転出者はH20：876人以降850人前後となっている。年齢別では、15歳から49歳の年代の転出が多いが、今後、移動数は減少していくと見込んでいる。生存率・純移動率（平成20年12月推計国立社会保障人口問題研究所公表の数値）

以下3点から、定住人口が微増すると予想します。

- ・ 恵まれた医療環境
- ・ 交通利便性
- ・ 平坦で災害が少ない豊かな自然環境

- i. 新たな宅地を供給できる土地がない。
- ii. 新たな企業を誘致できる用地が無い。
- iii. 既存の大手自動車企業は設備投資の比重を海外に置いている。以上のことから増加は、困難。

進学や就職を機に転出する若年層が多く、転出超過となっている。東京一極集中の流れが変わらなければこの動きは止まらないと思われる。

地元雇用が厳しい中で、若年労働者が減少しています。

平成17年から平成22年の間は、宅地分譲により、転入者が一時的に増えた（約420人）が、収束状態にある。平成23年度以降の社会増減は、平成16年以前と同様に、年間7.8%転出増（約75人）となっている。今後も宅地分譲予定があり、2020年頃にやはり、一時的に転入増加（南部地区と同程度）が見込まれるが、その間も人口維持となる状況であり、増加には転じない。新規住宅地の供給により、転入人口が増加すると思われる。（概ね400～500人）

産業団地への企業立地やその受け皿となる住環境整備を推進することにより、町外からの人口流入が見込まれる。

大型宅地開発を背景に、昭和63年をピークに、平成11年までは転入者数が転出者数を上回っていたが、平成12年以降転出者数が転入者数を上回るようになった。平成20年から平成25年にかけては、減少率については横ばいとなっている。その要因としては、民間宅地開発の誘導などが考えられる。今後も、企業誘致や開発等、町の活性化策を通し、転入者の増加を図っていきたい。

雇用の場の創設が、十分図れるような環境にないが、今後も、こうした傾向は、続くものと考えられる。細々ながらも、第一次産業や、地産地消の環境づくりを推進する必要性を考えることが大切ではないか。

転入者数と転出者数を比べると、平成19年より転入者より転出者が上回り、今後もその傾向が続くと推測される。

現在も老年者の転入が多く若年者層の転出が超過となっていることから社会減少数は続くと思われる。

ゆるやかな減少に推移すると考える。

## (2)「人口減少問題」への今後の対策

### ①少子化対策として有効と考えているもの

- |  |
|--|
| <p>①子育て支援<br/>(ひとり親支援、医療費助成、保育料軽減、保育施設整備、保育サービス充実、教育環境整備等)</p> <p>②就労環境整備<br/>(新規産業創出、企業誘致、育児と仕事を両立できる環境整備、夫の育児参加推進、時短勤務等)</p> <p>③結婚支援<br/>(婚活イベント開催等)</p> <p>④地域の活性化<br/>(魅力ある町づくり等)</p> |
|--|

### 【具体的意見】

次代を担う子どもたちが健やかに生まれ育つ地域社会を築くため、家庭、地域、事業者、行政等が連携し、一体となって安心して子どもを産み育てることのできる環境を創出することが必要と考えられる。具体的には、児童健全育成環境の充実や子育て支援の充実、ひとり親家庭等への支援充実、子どもへの虐待防止対策の強化などが、出産の不安解消等の有効な対策として考えられる。

出産・育児に対するイメージ向上に向けた教育・啓発の推進。妊産婦、乳幼児等にかかる医療費助成制度の拡充。健診、相談事業の充実など。

子供を産み育てるうえで、安定した収入が必要であると考え。そのためには、働く場を確保していくことが、重要である。本市域内における新規産業の創出・育成、域内既存事業者のリノベーション、域外からの企業誘致を進めるなど、安定した働く場を確保する。同時に、子供を社会で育成していくことを基本に、母体に生命を宿した時点から、出産、未就学児童の養育、義務教育、高校教育、さらに大学などの高等教育機関、それぞれの段階での資金的・人的支援の充実を行うことと、保育園・学童保育の充実強化をはじめとした施策を効果的、効率的に展開し、子育て世代にかかる育児負担を軽減していくことが必要である。また、併せて各ライフステージに適合する安価で良質な宅地・住宅を供給していくことが重要である。

子育てに対する負担感を軽減し、子育てと仕事が両立できる環境を整備するとともに、充実した教育環境の整備も行うなど多角的な面で子育てをしやすい環境を作ることが少子化対策の一つと思われる。

- ・子育て環境の充実。特に国・県の子育て支援の充実と、重点的な予算の配分。
- ・郷土愛や家族、地域を大切にする教育の充実。
- ・ＩＪＵターン、特にＵターンの推進。
- ・バリアフリー化の推進。
- ・国の人口増対策の明確な方針。

大きく区分し、次の３点の対策が必要と考える。

- ①出生率の向上等に向けた取り組み（出産への支援、子育てへの経済支援、子育て不安の解消など）
  - ②子育てと両立できる就労環境の改善
  - ③就労の場の創出。
- この３点以外に少子高齢化に対する関係施策として、次の２点があげられる。
- ①都市基盤の整備施策（生活基盤施設の整備促進など）
  - ②交流人口の拡充施策（観光振興、多様な人材活用の促進など）

## 【具体的意見】

少子化対策として、安心して子どもを産み育てるための子育て・環境の整備を推進していくことが重要です。まず1つ目に、経済的支援として、子ども医療費の18歳までの無料化や各種ワクチン接種無料化、保育料軽減等の推進。2つ目に、子育てしながら仕事と家庭の両立ができるよう保育所、認定こども園、学童保育等の施設整備の促進。3つ目に安心して子育てするための多様な保育サービスとして、一時預かり、病児病後児保育、子育てひろば等のさらなる充実。4つ目に女性が働きながらも子育てしやすい環境づくりとして、男性の育児・家事参加やワークライフバランスの推進について市民や企業への啓発等を重点的に取り組む必要があります。子ども・子育て新制度の調査結果や関係機関等の意見を基にしながら支援制度の拡充をしていくことが有効と考えます。

非常に難しいが、子育て環境の支援・子育て世代への継続した経済的支援・縁組対策

結婚促進施策として、特に、プライバシー、セキュリティに対応した全面個別対応型のマッチングシステムにより、確実性の高い成婚誘導策を実施する必要がある。

若年子育て階層に対する総合的な支援策により、安心して子育てに取り組める環境の整備が必要。

都会等への一極集中の是正が必要（地方の魅力ある雇用の創出による女性の都会等への転出の防止、また、国策として、首都機能の移転等思い切った施策が必要）。

三世帯住宅を取得する経費の助成など、高齢化社会に向けた住環境及び子育て環境の向上を図る必要がある。

人口流出・少子化に歯止めをかけるには、若年女性人口を減少させないことも重要です。それには若者が結婚し、安心して子どもを産み育てることができる環境を整えることが、少子化をストップさせ、人口減少に歯止めをかけることにつながっていきます。雄大な高原山に抱かれた本市は、自然の豊かさ、おいしい水、澄んだ空気など、素晴らしい自然環境が揃っております。そこに、子育て世代への支援や要望を組み入れることにより、「本市に行って子どもを育てたい」「本市に帰ってきたい」などと思っただけのような魅力あるまちづくりを展開していくことが、若年女性の減少対策につながるものと考えております。

出産後も継続して働ける場所を確保すること。子育てのための時間短縮勤務や休暇取得などの理解がある職場づくり。安心して子どもを産める医療環境の整備。出産に対する高額補助金

工場等の企業誘致など、なにより生活基盤、雇用が重要と考えます。

保育サービスの充実・医療の充実及び医療費助成（現物給付）・雇用対策

I 結婚増への環境を整える取組・若者を中心とした魅力ある雇用の場の確保・婚活事業の積極的推進  
（例：商工会等による婚活事業の実施等）

II 子育て世代への支援の充実・子ども医療費の現物給付の対象年齢の引き上げ、高校生までの無償化・子育て支援のための事業所における各種優遇策の充実・子育て期における勤務形態の充実  
（例：テレワーク、短時間労働の正社員化等）

III 子育て世代への税の優遇措置（例、子ども数による自動車取得税の減免等）

子どもを安心して産み育てられる環境づくりが必要。

就労意欲のある若者が就業できる雇用機会の創出により、結婚、出産、子育てに結びついて行く。  
働きながら子育てができる環境整備  
男女の出会いの場の創出

単発的な支援策では、過去の事例から見ても、効果は発揮できず、それぞれの県や市町の実情に応じた対策が求められています。本町では若者層（結婚適齢者）を確保することが求められています。

経済的支援が大切です。

結婚・妊娠・出産・育児の総合的な支援策・結婚支援（出会いと結婚の機会づくり、妊娠・出産に対する知識普及）・出生率向上対策、人口流出の防止策、人口流入の増加策、子育て支援（結婚や出産などに対する国民全体の意識改革、大学進学まで含めた教育費等の長期的な支援、結婚・出産助成金、保育料助成、子供手当の更なる充実（支給額と対象拡大）、通学費助成、高校生等の修学助成、奨学金助成拡大、育児と就業の両立支援、夫の育児参加、第三子以降の子育てや教育に対する経済支援、男女平等、育児の両親の責任など青年期からの意識啓発、正規雇用による収入確保、企業の協力）

## 【具体的意見】

- ・子育て環境の充実・幼児教育期無償化
- ・県こども医療費助成制度の対象年齢の拡大
- ・早期初産を奨励する制度の創設や第2子、第3子への優遇措置

- ・第3子についての優遇策として、出産時や入学時における祝金など、子どもの成長にあわせた段階的経済的支援を行う。
- ・こども医療費について、18歳までの医療費無料化に加え、3歳から小6までの現物給付エリアの拡大を行う。
- ・婚活イベントの拡大を図る。

減少することは避けられないがその地域にクラス人々が、生業と結びついた元気な地域の人々の生活の場であることが、何より大切であると考えている。教育や文化、子育ての環境、交通、ショッピング環境など、総合的な環境づくりが、基本である。

少子化の進展に伴う人口減少及び地域全体の活力の低下により、地域コミュニティの維持が困難になってくる。そのため、具体的な対策は、これから検討に入っていくが、例えば、子どもを産み育てやすい環境の整備等があげられる。

安心して子供を産み育てることができる環境づくり

住宅環境の充実（若い人にとって魅力的な施策）・保育環境の充実（保育所、学童保育、一時保育などの整備）・教育環境の充実（魅力的な施策）・子育て環境の充実（魅力的な施策）

## ②人口流出防止対策として有効と考えているもの

- |  |
|--|
| <p>①就労環境整備<br/>(産業団地造成、企業誘致、都市基盤整備、若者就職支援等)</p> <p>②利便性向上<br/>(生活基盤整備、生活環境の充実(教育・買い物・医療)等)</p> <p>③定住促進<br/>(住宅費助成、住宅供給、教育充実、都市ブランド化、郷土愛の醸成、防犯、防災、税制優遇等)</p> |
|--|

### 【具体的意見】

人口流出の防止に限った対策ではないが、日常生活における安全・安心かつ利便性の高いまち、働く場所や学ぶ場所が充実したまち、人・もの・かねが活発に交流する魅力あるまちなど、都市力の向上が有効と考える。

産業団地の造成、企業誘致の推進を通じた魅力ある雇用の創出。住宅費助成、空き屋バンクの検討など特に若年世代に向けた住環境の整備。

本市の人口推移状況の特徴は「2-1 ③社会動態の推移」で記述したように、本市からの人口流出は、高校卒業時から20歳代前半であり、一旦流失した人口は増加に転じていない。働く場所が市内や市近郊に十分確保されていないことに主原因があると考えられる。工業統計調査のデータを見ると、平成20年の市内の事業所数は560であったが、平成24年は442と減少している。常用労働者数も、平成20年が18580人、平成24年が15752人であり、激減している。このことから、就職年齢期にある方々の働く場の確保が最優先であるとする。市外から新規企業を誘致する一方、市内の既存企業の再編や新陳代謝による活性化を促進し、安定した働く場の拡大を行うことが重要である。同時に、若い働き手が市内に定住するよう、「男女の出会いの場設定」「低廉で良質な住宅の供給」「子育ての負担軽減」「教育の充実」「福祉施策の見直し」等を逐次進めていくことが必要である。

市民が市に対して愛着を持ってもらい「住み続けたい」「住んでいることが誇らしい」と思えるような市のイメージ「都市のブランド化」を醸成するための政策、施策を実施することで、定住の促進につながると思う。

- ・若者を中心に働く場（雇用）の確保。
- ・郷土愛や家族、地域を大切にする教育の充実。
- ・Uターン、特にUターンの推進。
- ・若者を中心に、住宅の供給。（結婚、就職を機に新生活を送りたい人への支援）

大きく区分し、次の3点の対策が必要と考える。

- ①転出者の減少に向けた取り組み（市内企業・事業所への支援策、各種産業の振興策、交通利便性等の向上など）
  - ②魅力ある就労環境の整備
  - ③魅力あるまちづくり。
- この3点以外に人口流出防止対策に対する関連施策として、次の2点があげられる。
- ①都市基盤の整備施策（生活基盤施設の整備促進など）
  - ②交流人口の拡充施策（観光振興、多様な人材活用の促進など）

当市では、産業・都市・教育・医療基盤の整備、子育て支援等を始めとする「人と企業を呼び込む施策」として、新たな工業団地の整備、企業誘致、医療・福祉環境の整備、駅周辺地区の再開発・整備、区画整理事業による宅地開発等の事業を推進しており、こうした施策展開により定住人口増を図っているところです。

- ・企業誘致の推進による雇用の確保
- ・土地区画整理事業による整備や、防犯や防災対策の推進による安心で暮らしやすいまちづくり
- ・訪れてもらえる魅力あるまちづくり・保健、福祉、医療の整ったまちづくり

- ・地方における安定的で働き甲斐のある魅力的な就労先（雇用の場）を維持・確保また創出し、若年労働力階層の生活基盤を整備する。
- ・三世帯住宅を取得する経費を助成するなど、定住促進対策を積極町に推進する。
- ・誘致企業等の定着のため、駅・道路など都市基盤の充実を図る。

## 【具体的意見】

自分の住む地域に誇りをもつための郷土愛の育成。地域で高校や大学教育まで受けられる環境整備。高齢になっても地域で安心して暮らせる見守り体制構築。自分の働きたい職種がある多様な雇用環境。

工場等の企業誘致など、なにより生活基盤、雇用が重要と考えます。

本市においても、地元で働き、子育てをする環境を整えば、都市への人口流出を抑えることができ、人口減を食い止められるものと考えています。それには、まず、若年女性の働く場所の確保をしなければなりませんので、より企業誘致を積極的に展開し、雇用の創出や産業の振興を図っていかねばならないと考えております。さらに、子育て環境日本一を目指した数ある事業の中で、例えば、子育てをする人たちの仕事と育児の両立を支援する「ファミリーサポートセンター事業」、18歳までの子どもの医療費の自己負担額が無料になる「こども医療費助成制度」や第三子以降の保育料の無料化にも取り組んでいるところです。また、平成23年10月から、他の自治体に先駆けて、市内にマイホームを購入する人へ補助金を交付する「暮らしのびのび定住促進補助事業」を開始して、本市への定住促進に大きな成果を上げていくところであります。今や他の自治体が、同様の事業に取り組み始めている状況となっております。教育につきましても、小中一貫教育等の教育環境の充実が一層図られたところであります。

- ・医療の充実及び医療費助成
- ・教育環境の整備及び文武両道教育の質的向上の推進
- ・雇用対策・住環境の整備
- ・若者に魅力あるコンパクト拠点の整備

- ・魅力ある雇用の場の確保（優良企業の誘致）
- ・定住促進のための税制優遇措置（例、住宅取得による不動産取得税の減免等）
- ・若者就職支援（例：農業の6次産業化、就労マッチング機会の充実）

人口流出は、若い世代の東京一極集中が大きな問題。雇用の確保、魅力ある県土作りのためには縦割りのような様々な規制を見直し栃木県の総合政策として踏み込んだ対応が不可欠。

雇用の場の確保・生活環境インフラの整備

地元雇用の場の確保が急務だと思います。

当町にとっては、生活環境の整備が必要となります。

- ・働く場の確保と魅力あるまちづくり
- ・通勤可能な範囲に多業種の職場を確保・雇用創出（新工業団地の造成、企業誘致による若者向けの職種の拡大、Uターン）
- ・雇用支援（雇用助成金、若者就労支援、新規起業・就農助成など）
- ・若者定住促進策（住宅地の分譲と賃貸、住宅・住宅地購入助成、家賃補助、住宅建築補助金、改築費助成など）
- ・公共交通機関の充実による定住環境の整備、通学通勤手段の確保
- ・子育て支援の充実。産み育てやすい環境の整備、子育てしやすい環境が整った住居地の整備
- ・魅力（町独自）のある教育の充実・東京一極集中に歯止め

それぞれの世代において、最重要と思われる施策を市町村と連携して実施する。

企業誘致による雇用の創出、定住化策・空き家対策（空き家バンクの創設や空き家条例の制定）・生まれ育った町を愛し、心安らぐふるさとへ戻りたいと思えるような人間形成の教育

医療・ショッピング・教育・自然環境の維持保全など総合的なバランスのとれた環境づくり。

本町でいえば、既存市街地の地価が高止まりしていることによる借家世帯の他市町流出により、生産年齢人口の中心である30代前半から40代前半の人口が減少している。そのため、土地利用の見直しによる新たな住宅地の供給並びに安心・安全に子どもを産み育てやすい環境及び子育て世代にとって魅力ある環境を整備することで、生産年齢人口（特に30代前半から40代前半）の転出抑制・町外からの転入を促進し、もって定住人口の増加を図る。

雇用の場と住宅。生活環境の充実（教育・買い物・医療）

## 【具体的意見】

- ・雇用の場の創出（優良企業の誘致）
- ・橋りょうを含めた国道道の新設
- ・改良整備（通勤、通学の利便確保）
- ・若者や若年世帯の住環境の充実（魅力的な施策）
- ・「地域おこし協力隊」の有効活用と積極的な推進
- ・住んでよかったと思えるような魅力あるまちづくり（自然を生かした施策など）

### ③人口減少に歯止めがかからない場合に生じる、行政運営上の課題

- ①全般(行政サービスの質・量低下、職員削減、自治体運営困難、さらなる市町村合併等)
- ②産業(企業の撤退、税収減、就労者減、耕作放棄地増等)
- ③地域(コミュニティ崩壊、空き家対策、廃校・統合、地域文化の継承困難、治安悪化等)
- ④インフラ(維持管理費用増、更新不可能、老朽化等)
- ⑤医療・福祉(社会保障経費増、高齢者・ひとり世帯増、医療費増等)

#### 【具体的意見】

・人口減少によって住宅地や集落の居住者がまばらになり、民間サービス提供の非効率化や、コミュニティの分断が発生する。  
・人口増加時代に建設された公共施設や、インフラ施設の維持更新に負担がかかる。  
・空き家、空き地の増加によって、防犯・防災上の不安が増える。  
こうした課題に対応するため、多核連携型による「ネットワーク型コンパクトシティ」の形成を進めている。

生産労働人口の減による企業の撤退、それに伴う個人、法人による税収の減。過疎地区の拡大による“地域力”の低下

本市の人口推移状況から考えると若年層が急激に減少し、働き手の減少によって、市税（市民税）が急減する一方、高齢者の増加によって、介護保険に係る市負担分等の社会保障関係経費が増大していくことが予想される。このことによって、道路・橋梁などの新たな社会資本整備はもとより、既存の社会資本の維持管理に予算を割くことが困難な状況になると考えられる。

中心市街地の空洞化や、中山間地域の限界集落化などにより、住民同士のつながりが希薄になってしまい、地域コミュニティの存続が危ぶまれるとともに、人口減による税収入が下がることで行政サービスの著しい低下が考えられる。

・人口減少により自治会の組織運営に支障をきたすことが考えられるため、地域自治組織存続のための対策が必要となる。  
・税収の低下が見込まれ、市の財政運営が厳しくなる。  
・企業の都会への集積、都市力の低下。

- ・地域経済の低迷による税収の減
- ・税収減少による歳入不足に伴う職員数の減少
- ・税収の減による予算不足及び職員数の減少に伴う行政サービスの質と量の低下
- ・行政サービスの質の低下に伴うさらなる人口減少といった負の連鎖
- ・地域の活力不足に伴う地域コミュニティの崩壊
- ・予算不足及び人的不足に伴う世界的な観光資源の維持が困難
- ・観光資源の維持が困難に伴う観光資源の質の低下
- ・自然、歴史的建造物等の質の低下に伴う交流人口の減少
- ・交流人口減少に伴う地域活力の低下と地域経済の低迷

生産年齢人口が減少し、高齢化率が高くなっていくと、勤労者が納める税収が減少していくことになり、自治体の行政運営コストを賄うことが困難となることで、行政サービスの量・質の低下を招来することになると思います。また、人口規模に応じて作られた各種の施設や設備が過剰のものとなり、無駄な管理運営コストが増大していくことになると考えます。

- ・税収等の減少・地域格差解消のための施策実施
- ・地域崩壊対策
- ・高齢者世帯、ひとり世帯のための施策実施
- ・企業の流出や事業所規模の縮小

## 【具体的意見】

・人口と税収との両面にわたる減少により、行政経営環境が厳しさを増すことは明白であることから、よりコンパクトでスマートなまちづくりが求められることになる。政策展開のあり方においても、選択と集中により政策の優先順位付けを明確にし、PPP・アウトソーシングの積極活用による経営のコンパクト化をいかに進めるかが課題となる。

- ・自治体運営が困難になってくることが予想され、更なる市町村合併も課題となってくる。
- ・上下水道事業において、利用者減少による収入減が顕著となった場合、独立採算制の企業として成立しなくなるおそれがある。

地方自治体を運営していくうえで最も重要な財源の確保が極めて難しくなります。特に少子高齢化がより一層進むことにもなり、それに伴う扶助費などの増加も見込まれ、子育て環境や基盤整備に財源を充てることができなくなり、何も対策をしないで悪循環が進むと、昨今「自治体が崩壊する」と叫ばれている状況に陥ることも考えられます。

自治体にとって住人は大事な顧客であり、人口の流出とはお客様がいなくなるということである。収入が入ってこないことはもちろん、サービスを提供するお客様が不在となることは、自治体としての形態が維持できなくなることを意味する。形態が維持できなくなれば吸収されるのみである。

道路、水道、下水道等の公共インフラの維持が課題となってきます。

- ・税収等の減少による財政破綻のリスク
- ・既存サービスの維持が困難となり、更に人口減少が進み行財政運営に多大な影響を与える。

- ・地域社会の活力を支えるコミュニティ機能の弱体化（防犯、見守り機能の低下等）
- ・財政の悪化（医療、福祉に係る経常経費の増大）
- ・地域の環境崩壊（耕作放棄地、空き地・空き家の増大による荒廃）等

超高齢化社会の到来によって扶助費等福祉経費が増大するとともに、税収等の自主財源比率の低下により、財政運営の硬直化が進む。

税収減をはじめ、小中学校の統廃合、幼稚園・保育園の存続、防災上の危機管理も含めて課題が山積しています。

条件不利農地が放棄される確率が高まることです。

- ・生産年齢の人口減による地方税の減収、財政危機・自治会や地域集落が限界状態となりコミュニティ機能の低下
- ・地域の活力、賑わいの低下
- ・治安・防災力の低下
- ・農業を含めた地域産業の衰退、地域経済の疲弊
- ・空き家の増加
- ・地域文化継承の断絶
- ・高齢者のみの世帯、ひとり暮らしの高齢者などの増加により、社会保障費が増加
- ・こども同士のつながりの希薄化による、精神的成長の障害が起き、健全な大人が減少
- ・競争力のある学校教育が困難になり、地域への定着が低下・最悪は、自治体の消滅

空き家や一人暮らしの高齢者が増加すること等が予想され、それらの対策に要する業務及び財政負担が増加する。

- ・税収の減収による歳入の減少から、行政サービスの低下に繋がる。
- ・行政サービスの財源や担い手不足による都市基盤の整備・管理の限界。
- ・少子高齢化による高齢者医療対策等の社会保障関係費の増大。  
→これらの課題に対し、発想の転換やシステムの改修、行政運営に経営的マネジメントの手法を取り入れ、少ない人員体制や限られた財源をカバーする。

## 【具体的意見】

対策は、一市町村だけの問題では解決しないと考えられる。国を含めて、県・隣接市町等、一体的な取り組みの必要性を感じる。

- ・ プラス成長を続けることは困難になり、マイナス成長が定着
- ・ 人口減少に伴う町内経済活動縮小による町民の生活レベル低下
- ・ 町内経済の縮小に伴う税収減と医療、介護費等扶助費の増加による町財政の破たんと行政サービスの低下
- ・ 人口減少及び少子高齢化の進展に伴う地域コミュニティの崩壊

各地域の自治組織能力が低下することにより共働のまちづくりに支障をきたす

- ・ 費用対効果の検証、及び解決策の創出
- ・ 税収減
- ・ 高齢者施策に対する予算増
- ・ 医療費の増加

### (3)自由意見

全国的な問題であり、緊急性の高いものにとらえているが、一朝一夕には打開策は中々見出せない状況である。庁内に職員によるプロジェクトチームを設け、人口減少の原因の究明と対策の検討を始めたところであり、今後も国や県と連携を図りながら本市らしい特色ある施策を着実に展開していく。

国立社会保障・人口問題研究所、国土交通省、厚生労働省あるいは日本創成会議などが人口推移を公表しているように人口減少は、全国的規模で急激な速度で進んでいくことが読み取れる。政府も、50年後に人口1億人を目標することを目標に掲げたが、三大都市圏（首都圏、中部圏、近畿圏）では人口が微増ないしは横ばいである。これは、働く場が三大都市圏に集中していることが主要因と考えられる。三大都市圏のなかで、東京都と大阪府の合計特殊出生率は、全国平均を遥かに下回っているにもかかわらず、人口が減少していかないのは、他地域からの流入が激しく、その原因は、働く場を求めて人々が集まるからである。人は集まるが、子を育てる環境が整っていないため、合計特殊出生率が低い（東京都1.09、大阪府1.30）のであって、このままでは、三大都市圏の存在そのものが人口減少を加速させることになる。

かつて、第三次全国総合開発計画（S52.11）では定住構想が、第四次全国総合開発計画（S62.6）では、多極分散型国土形成が謳われ、その結果、三大都市圏以外に、札幌、仙台、広島、福岡（札幌・仙台・福岡）地域は、一定の職住環境を備えた自立的都市として成長した。このように、札幌・仙台・福岡の拠点となる都市を全国に整備をしていくことによって、「雇用」、「子育て」、「教育」、「福祉」、「医療」、「娯楽」等が完結できる地域を増加させていくことが、人口減少に対応すべき方向性であると考えられる。災害に強い国土強靱化の視点からも、産業・業務機能や人口の分散化は必要であろう。

また、働き方の多様性を実現し、例えば本社から遠く離れた場所に於いても、業務系の仕事であれば電子機器を活用した労働と認めるなど、柔軟な発想が必要である。更には、耕作地の減少を食い止め、世界規模で競争ができる農業経営を目指して、大規模化を進め、農業を「産業」として、成り立つ施策も必要である。農業が産業化すれば、そこにも製造業やサービス業とは異なる拠点が形成され、急激な人口流出も止まり、人口減少も緩やかになっていくと考える。いずれも、県や基礎的自治体では、施策に限界があることから、国家レベルでの政策的な誘導が必要であると考えられる。

- ・ どの市町も人口に対する施策は似通ってくるのが考えられる。人口減少を受け入れ、市民の幸福度を高めるような施策展開を進めることも考えられる。
- ・ 郷土に対する教育を充実させ、Uターン推進を図ることが重要。とくにUターンの推進を図り、人口増加対策とともに、これ以上減少させない施策展開の必要がある。
- ・ 子育て環境を充実させ、子どもを産み育てやすい社会の構築が必要となる。
- ・ 市財政は厳しく、他の財政に余裕のある自治体と、公共サービスの質・量で上回るの難しい。市民活動の充実や、独自性のアピールが重要となってくる。

人口減少問題に関しては、もはや地方の問題でなく、国の存続につながる問題と考えられる。これまでの国等の少子高齢化対策では対応しきれない状況であり、先の民間団体の発表のように、一定レベルの行政サービスを維持し、提供できない地方が表れる可能性を否定できない。国として、最重要課題としてとらえ、首都圏への人口集中を速やかに解消し、地方の活力の向上を目指す施策を展開する必要があると考える。首都圏集中の施策から国全体を地方から元気にしていく施策の展開が必要。ようやく近年地方の活力創出に向けた施策展開を図っているが、地方の人口減少問題は解消されていない。国主導における一流企業の地方転出への施策や大都市に集中している大学の地方への転出働きかけなど具体性のある施策の展開を図ることが重要であると考えられる。

また、地方における定住に向けた土地や建物の取得に向けた減税などの特例措置の実施など地方への定住が全国的に進むような定住促進施策も必要と考える。さらには、首都圏同様とは言わないまでも地方が抱える交通の課題に対し、国営事業による新交通システムの導入など地方と首都圏における交通格差の解消に向けた施策等が必要である。また、交通網が十分に整備されており、自家用車の必要性が低い首都圏に比べ、自家用車への依存度が高い地方の交通状況や生活状況を考慮し、地方に限定した自動車取得の減税やガソリンの価格減額措置などを実施し、地方に住みやすい環境づくりが必要となってくると考えられる。

県においては、県内地域における人口動態の格差是正に向けた基本的な計画の策定や市町を越えた都市機能の役割分担による地域全体の活性化を図るなど施策の構築と調整の実施が必要と考える。また、市町村合併により肥大化した公共施設対策を維持することは困難であることから、県有施設をはじめ、広域的な施設配置が実施できるよう県を中心とした生活圏の広域化を進めることも必要である。

地方から大都市圏への若年層の人口移動により、地方と都市との若年層の人口格差はますます拡大し、若年女性人口の減少により、全国の市区町村の半数が消滅の危機に直面するとの予測もあり、人口減少問題への対応は、全国の市町村にとって、緊急の課題となっています。

こうしたことから、当市では「人と企業を呼び込む施策」として、産業・都市・教育・医療基盤の整備、子育て支援等を始めとする事業を推進しているところです。また、市内各地区を比較してみると、中心市街地における人口空洞化現象や、市周辺部の農村地区での人口減少など、人口減少地区については地域特性に相違があることから、それぞれの地区の特色に応じて、有効な対策を企画・実施する必要があるものと考えています。

一方、人口減少問題は、少子化や晩婚化、未婚者の増加等、日本の社会的構造に起因する面も多く、根本的な解決のためには、国家的なスケールでの対策が必要になるものと考えます。

・我が国の生涯未婚率が、男性20%、女性は10%を超えている今、出会いの場の創設や子育て環境の充実について民間団体ともども行政も更に努力する必要があると考える。また、子供は国全体で育てる国の資産であることを自覚し、女性（未婚者も含む）が、安心して出産し子育てできるような国の助成制度を拡充すること、職場復帰が容易にできるような社会体制及び子供保育制度の拡充も必要と考える。子供を育てるということが、個人の生活の中でも最も楽しく重要なことと感じられる環境を作ることが重要であると考えている。

・県内各市町で問題となっている空き家対策と絡めて、空き家等情報バンク制度の創設と運用を全県下で推進し、都会からのUターン、Iターンを促進する必要があると考える。

・子供の高学歴化は家計に占める教育費の増加により一つの家庭において何人も子供を育てるのが経済的に困難となっている。先進国で出生率を上昇させているフランスなどの少子化対策から学びとり養育費補助だけでなく、子育てをとりまくあらゆる環境を改善し、少子化に歯止めをかけなければいけないと考える。

日本全体が人口減少時代に突入している中で、人口減少に歯止めをかけるため、本市においては、「第2次総合計画」に基づき様々な施策を実施しております。主なものとして、若年層の定住促進を図るため「暮らしのびのび定住促進補助事業」や子育て環境日本一を目指し「子ども医療費助成制度の拡充」などの子育て世代にむけた各種支援の充実に取り組んでおります。また、雇用の創出や地域経済の活性化に向け企業誘致の推進など様々な施策を実施しているところです。

基盤整備においても、〇〇地区市街地整備事業が平成25年度から本格着手しており、駅舎の橋上化、東西連絡通路、西口アクセス道路など、都市基盤や交通基盤を整備することにより、〇〇地区の持つ良好な住宅地としてのポテンシャルを引き出し、定住促進につなげていきたいと考えております。人口減少に歯止めをかけるには、人口流出を食い止めるだけでなく、若者を呼び込むことも必要であり、「本市に住み続けたい、新たに本市に住んでみたい」と思われるような魅力あるまちづくりが重要であると考えております。

日本全体が人口減少時代に突入している中で、人口増加に成功した千葉県流山市のように、他にはない新たなサービスに取り組んでいく必要があります。今後は成功例を参考としながら、「定住の促進」「子育て支援」「雇用の創出」「教育の充実」などの、若者が暮らしやすい環境づくりに関する施策の充実に向け、本市独自の魅力ある施策も検討していきたいと考えております。

2040年に日本の自治体の半数が消滅するという試算が発表されたのも記憶に新しいところだが、今や日本の全ての自治体が危機感を持ち、都市間競争に勝ち残るための方策を練っているといっても過言ではない。今後も各自治体が特色ある施策を打ち出してくるものと思われる。

長寿社会において人口減少は不可避であると考えています。対策を講じて、それは近隣と人の取り合いをしているだけのことです。今後自治体に求められてくるのは、いかにサービスの質を低下させずにサービスの規模を縮小していくかだと考えています。

有識者でつくる民間研究機関「日本創生会議・人口減少問題検討分科会」で公表された「消滅可能性都市」896自治体は、自治体にとって極めて衝撃的な発表であり、大変残念な結果であると感じていると思われます。私もその一人で消滅といった表現については強い憤りすら感じています。しかし、この公表は、地方自治体への警鐘と受け止め一層の人口減少問題に取り組まなければならないと考えています。

人口減少問題については、国を挙げて実態を把握し、国民に周知徹底し、この状況を共有化することが必要であります。そして、この問題に対し政治、行政、住民が一丸となって取り組むことが必要であります。一方「地域の問題は地域で決める」という信念がありますが、国・県・地方の連携体制のもとにその場限りの政策ではなく、長期的視点により、また地方自治体の独自の戦略を織り交えることにより、この危機的状況を脱することができると思えます。

県の役割として、人口減少を食い止めるための実効ある総合的な施策の実施・地域の魅力を磨くことを懸命に行っている市町に対する適切なアドバイス、財政的支援・都市計画マスタープランの変更等、市町の土地利用計画等に関しては、柔軟な対応を期待する。

「地元地域に住みたい、貢献したい、との思いがあっても働ける場所がない。」という若者が多い。仕事がない場所には人は住むことはできません。生活できる地域の条件に雇用の場の確保は必須条件ですが、これが、田舎では、人口流出の原因になっています。

また、生活の利便性や子育てしやすい環境も大きな要因であると思います。この問題に包含されるかもしれませんが、人口減少にかかる問題の根は深く、結婚しない、結婚したくない、結婚したいのに経済的な問題で結婚できないなど結婚しない若者が増えています。また、男女とも晩婚化が進んでいるほか、子供には多大の教育費もかかるということで結婚しても子供は1人か2人くらいしか産めないという家庭も多くなっています。結果、合計特殊出生率が1.4人程度となっています。

まず、多くの若者に結婚してもらえるよう結婚のサポートをしていくこと。結婚することの意義や素晴らしさを子供のうちから教育していくことも必要であると思います。地方の場合、企業が少なく賃金も低い。非正規雇用者も増えている。このような状況では結婚を望む若者を増やすことは容易ではない。また、結婚後も育児期間教育費等を考えると多くの子どもを産み育てることをためらうと思われる。以上から雇用環境の整備を行い、育児支援の充実、教育費の支援等を行うことが必要と思われる。

県内の中山間地域等地理的条件が厳しい市町では、少子化以前の問題として人口減少の大きな課題があります。交流人口を増やし、観光PRに全力投球で力を入れても、既に限界が見えています。本町では、民間デベロッパーに代わって、行政自らが定住促進の為に宅地造成も行なっていますが、予算も厳しい現状です。何れにしても、市街地の空洞化を防ぎ、農村集落のコミュニティの希薄化を抑制するうえでも、国・県・市町が縦割りの弊害をなくし、相互に連携して対応策を講じることが喫緊の課題だと思っています。

地域で自給できる体制づくりが大切です。明治維新の頃の人口は現在の1/3でしたから、人口が多いから全てよしということではないと基本的に考えています。

人口減少や少子化は、我が国の社会全体の問題であり、経済のグローバル化による国民の経済力格差が生じており、特に結婚適齢期の非正規雇用者の増加や女性の都市部流出により、晩婚化や未婚化が進行していることによると考えられる。

当然、国策としてこの状況を将来的にどう改善するのが問われるが、地方行政としても将来にわたる地方自治体の存続に対する責任がある。現時点でできる対策をあらゆる視点から検討し、最善、最大の対策を複合的に取り組むことが重要であると考えている。

このため、国、県、市町村、地域住民が一体となって、早急に人口減少問題に取り組まなければ、手遅れとなる。併せて、どのような対策を講じたとしても当面は人口減少は止められないことから、社会保障の見直しや労働供給源の拡大、労働生産性の向上などの対応策を講じながら、財源配分を高年齢者対策などから少子化対策にシフトする必要があると思われる。

現在は、産むと育児負担、経済的負担、女性の労働への負担弊害、就業者に比べ主婦の年金額不足など損するシステムである。産めば産むほど得するシステムに転換する施策が鍵となる。子どもの養育は親という基本思想が法的にも定着しており、これを社会の責任とする意識のシフトが課題である。

今まで何とかなる何とかなるとの思いで、今日を迎えてしまった。いよいよ厳しいデータが発表され、あわてている感じが感じられるが、即効性のある施策はないので、時間をかけてよい施策を考え、大胆にそして長期計画の基、手を打つべきと考える。人口の地域での隔たりは必然であるので、地域は視野に入れず、国の下に人口増に向けた大胆な施策を講じる時である。その為にも、子育てづくり世代への支援を大幅に増やすべきである。

日本創成会議の指摘のように、必ずしも推移していくとは、思わない部分もあるが、小規模自治体を、人口の規模でしか見ていないところにも問題がある。小規模自治体の多くは、生業と結びついた生活の場であり、助け合いの共同体が息づく所である。また、文化や伝統を育む空間である。グローバルな考え方が必ずしも、正解ではない。地域資源を生かしたローカル経済へ、国や県も、しっかりと支援をすべきではないか。

平成26年4月1日より、新たな課として、「夢咲くまちづくり推進課」を設置。人口減少に伴う町全体の活力の低下に留まらず、町の存続すら危ぶまれる事態となることが想定されることから、『超長期的視野に立ったまちづくりの指針、方針』を樹立し、持続可能なまちづくりを実現することを目的とした『(仮称)4万人構想』を策定し、推進していく

- ・ 県市町だけの問題ではなく国としても、日本全体の最重要課題として、もっと具体的な解決策を検討すべき。
- ・ 核家族における子育て環境の充実が必要
- ・ 生活基盤の安定が必要で、就労先が確保できるということが若い世代、子育て世代の定住化につながる。

### 3 今後の重点推進項目について

#### (1) 今後重点的に推進していくべき項目

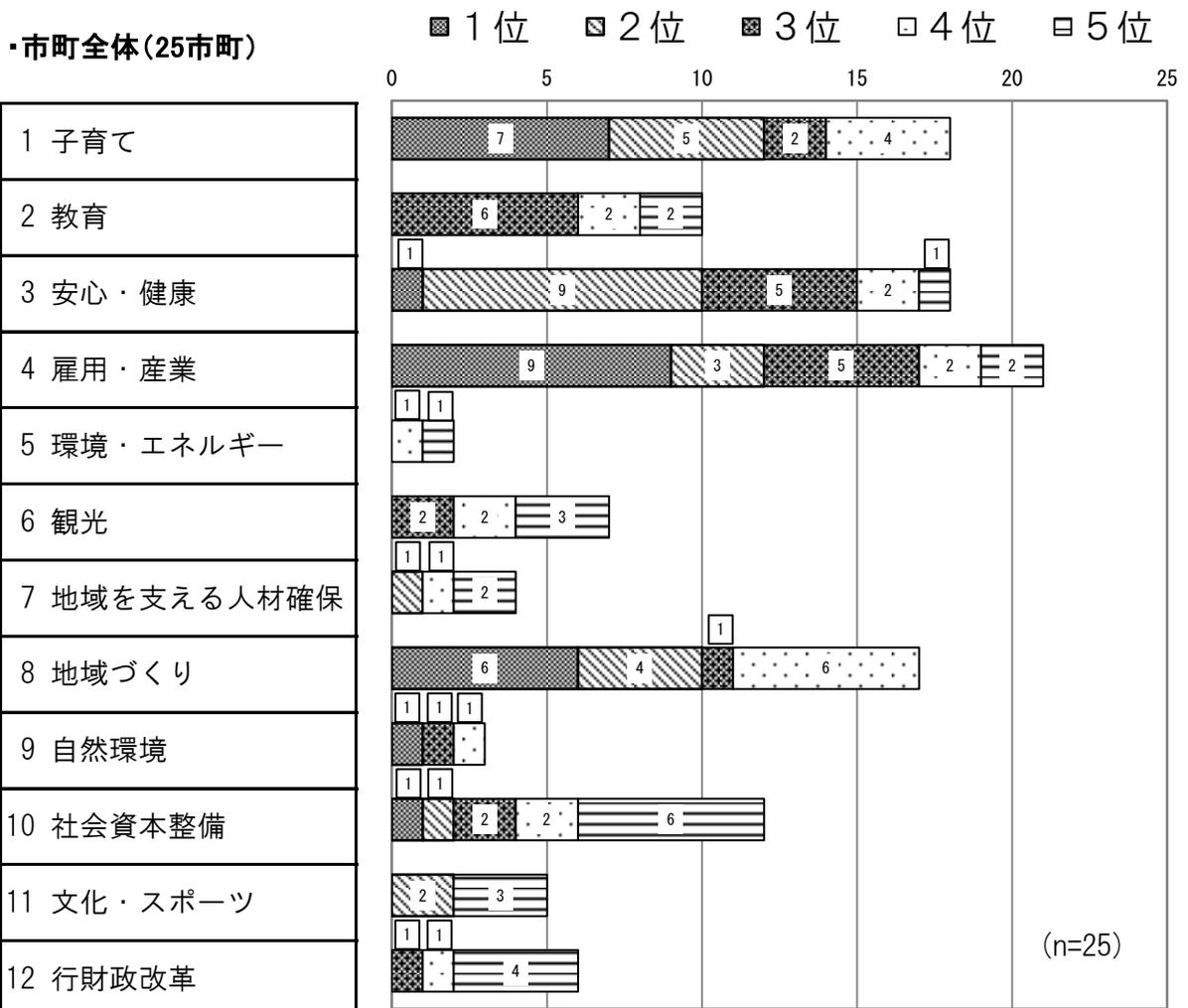
##### 【 結果概要 】

全体をみると「1 子育て」「3 安心・健康」「4 雇用・産業」「8 地域づくり」などが高くなっている。  
 一方、市町間で見ると、市は「4 雇用・産業」「8 地域づくり」が、町は「1 子育て」「4 雇用・産業」が高く、特に「8 地域づくり」では大きな差が出ている。  
 また、「5 環境・エネルギー」を選択した市はなかった。

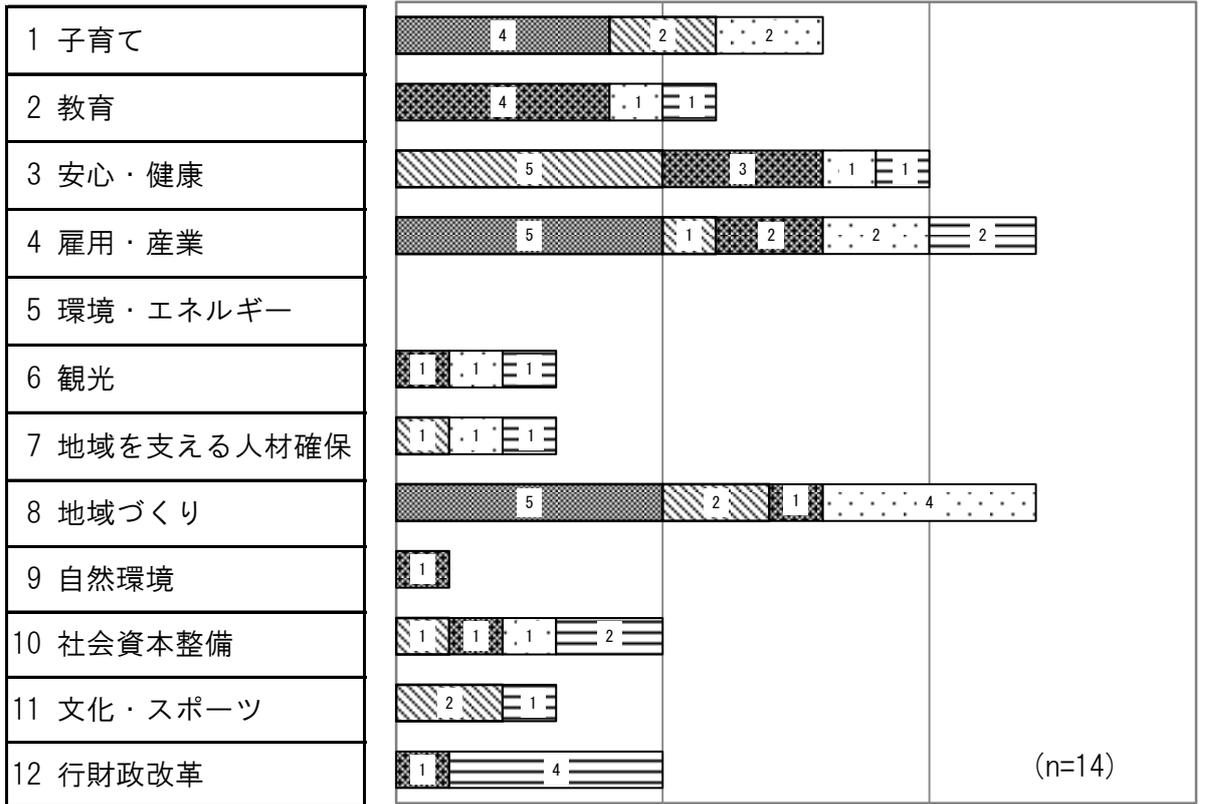
##### 【 調査内容 】

今後重点的に推進していく項目を12項目より上位5位まで選択。

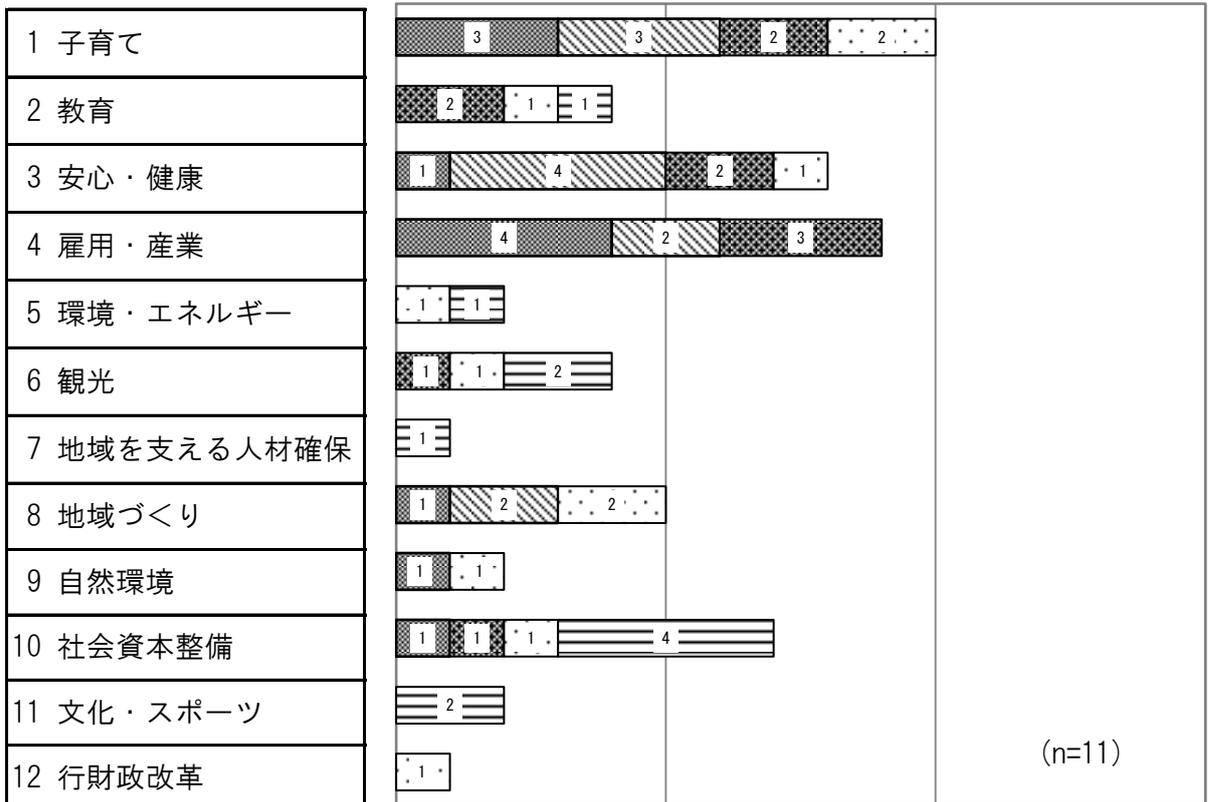
##### 【 調査結果 】



・市全体(14市)



・町全体(11町)



## (2) 経年変化

### 【 結果概要 】

前回(平成21年)調査と比べ、「4 雇用・産業」を選択する市町村が大幅に増加し、順位も7位から1位となった。

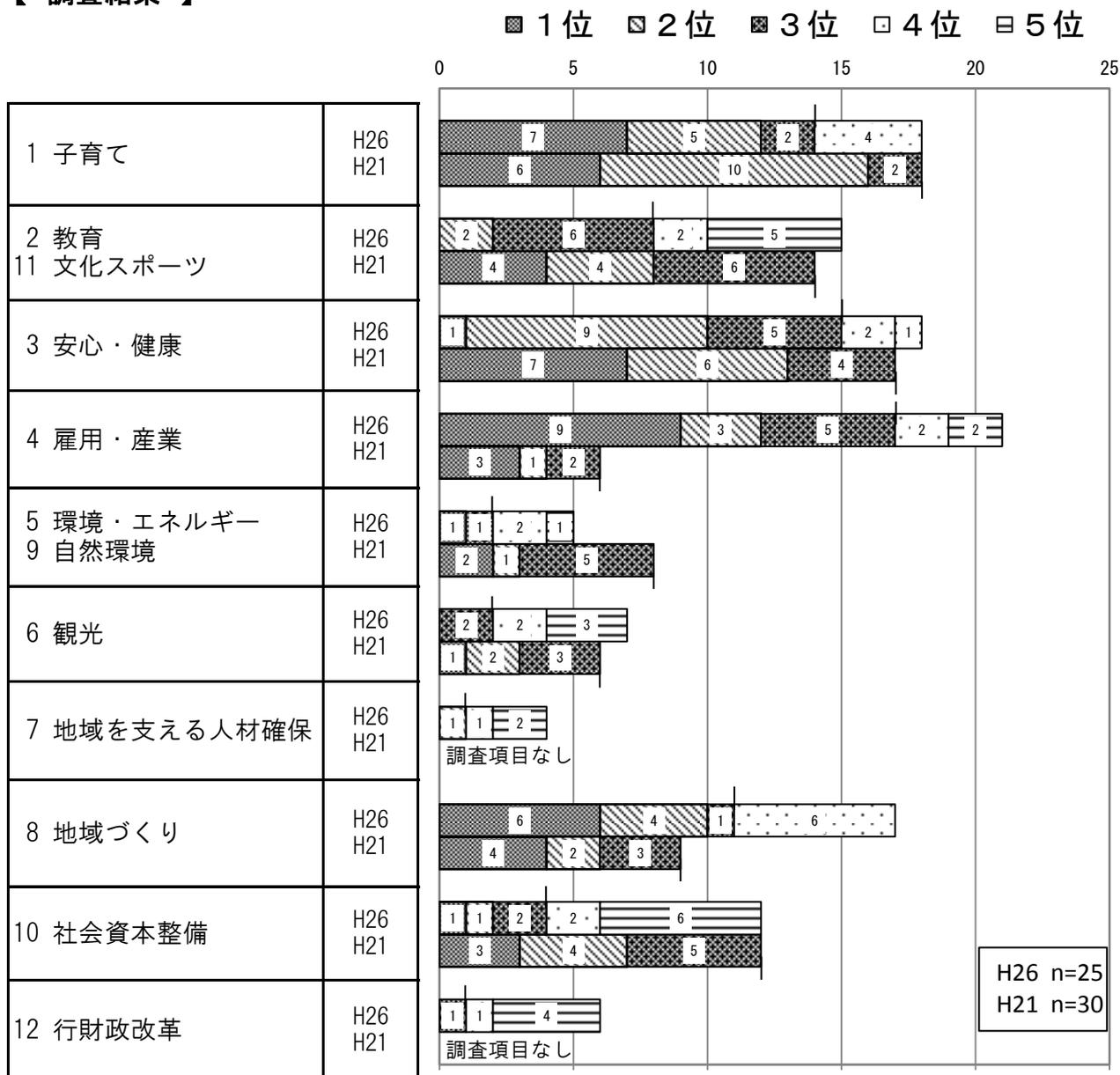
「1 子育て」と「3 安心・健康」は、今回、前回とも、多くの市町村が重点推進項目に挙げている。

### 【 調査内容 】

前回(平成21年)実施した調査と比較し、経年変化を見た。

なお、項目が前回調査と一致しないため、内容が類似している項目と比較した。

### 【 調査結果 】



(2) 今後重点的に推進していくべき項目の具体的内容等（市町別）

1位		2位		3位		4位		5位	
番号	具体的内容、その他課題など	番号	具体的内容、その他課題など	番号	具体的内容、その他課題など	番号	具体的内容、その他課題など	番号	具体的内容、その他課題など
8	「拠点形成の促進」→居住促進や賑わいの創出、都市機能の集約などに加え、社会資本整備など	10	「総合的な交通ネットワークの構築」→LRTの導入やバス路線・地域内交通の充実、幹線道路の整備など	3	「健康づくり」→適切な医療・福祉・介護基盤の整備・提供、健康寿命の延伸に向けた取組など	4	「地域経済の活性化」→産業の集積や中小企業等の振興、農業の競争力強化など	7	「人づくり」→教育環境の更なる充実や人間力の高い人材の育成など
4	新産業団地開発、企業誘致促進。雇用創出	3	市民誰もが参加し生活習慣病予防や寝たきり予防を可能とするまちづくり	6	観光戦略会議の提言に基づく各観光施策の実施。シティープロモーションの推進	7	市民力をいかした行政施策の展開	10	公共施設の老朽化対策。長寿命化など中長期的な計画の策定と実施
4	「新規優良企業の誘致」、「域内既存企業の新陳代謝による競争力強化」、「新規創業者支援」を進める。また、農業分野では、農地の集約化を進め、生産性を上げ、良質な農産物を供給し、世界市場において競争力を高め農業を産業化していく。林業においては、国土保全や獣害被害対応の観点から、採算に制約されない公社を設立し、当面は山林保全を行い、中期的には建築材などの供給体制を確立していく。	1	子育て世代が、定住するためには、上記「4雇用・産業」を進めながら、母体に生命を宿した時点から、出産、未就学児童の養育、義務教育、高校教育、さらに大学などの高等教育機関、それぞれの段階での資金的・人的支援の充実を行うことと、保育園・学童保育の充実強化をはじめとした施策を効果的、効率的に展開し、子育て世代にかかる育児負担を軽減していくことが重要。また、義務教育過程においては、学校と連携し、市が責任を持って、学力向上、基礎体力増強に努める必要がある。	3	幼年期、少年期、青年期、壮年期、老年期を通じて、病気の予防、健康づくり、医療制度の充実（かかりつけ医、二次救急、三次救急の適切な役割分担）、福祉分野と医療分野の切れ目ない連携の仕組みづくりが必要。特に、高齢者については、市特別給付事業を検討し、介護予防を進める必要がある。また、社会的にハンディのある方に対しては、民間事業所と連携し、一人一人にきめ細やかなメニューを整備し、サービスを組み立てる。さらに、社会的にハンディのある方や生活保護受給者には社会参加のための訓練を根気強く、丁寧に行う仕組みを構築する。	8	短期間に合併を繰り返して来たため、地域間の理解が十分とは言えないことから、地域や属性（性別、年齢、人種、企業、NPO、ボランティア等）の枠を超えて、交流活動が行なえる事業、例えば、全市的な祭りやスポーツ大会などを組み立て、実施していく必要がある。また、地域間の理解を進めるため、郷土の特徴を義務教育過程において、地域学習の機会の増加を図ることが必要である。	12	今後も、必要な事業を推進していくためには、財政健全化、効率的な組織づくり、人員の適正化、公共施設の統廃合等の行政改革を進め、必要な財源を確保していくことが必要である。また、今年度から「手上げ方式」に変更された権限移譲については、特に、市民生活に密着した事務に関して、積極的な移譲を目指す必要がある。
8	・住民協働による地域づくりを推進する為、各地域における体制づくりの支援や市民団体等の育成、支援を図る。・定住化促進や地域間交流の推進によって、交流人口の増加を図る。	7	・市や地区の活性化は各地区の人材育成が重要となる。地域づくりや、住民活動を実施するための人づくりが重要と考える。	2	・人間としての基礎力を充実させること。それが市民力のアップにつながる。・郷土愛を育てる教育の実施により、人口減少に歯止めをかける必要がある。	1	・子どもを産み育てやすい環境を作ること、出生率を改善したい。	12	・今後、少子高齢化等の社会情勢を背景に、労働者人口減少による税収の伸び悩み、社会保障費の増加などが見込まれ、健全財政の確保に向けた取り組みの強化が求められる。

1位		2位		3位		4位		5位	
番号	具体的内容、その他課題など	番号	具体的内容、その他課題など	番号	具体的内容、その他課題など	番号	具体的内容、その他課題など	番号	具体的内容、その他課題など
8	「都市ブランド戦略の推進」市の認知度を向上させ、市に対する誇りや愛着を持ってもらい、「住み続けたい」、「暮らしてみたい」まちづくりを実施するため、今ある資源の活用、新たな魅力の創出が必要である。	11	「スポーツツーリズムの推進」スポーツを「観る」「する」ための旅行そのものや、周辺地域観光に加え、スポーツを「支える」人々との交流、あるいは生涯スポーツの観点からビジネスなどの多目的での旅行者に対し、旅行先の地域でも主体的にスポーツに親しむことのできる環境の整備など、複合的な「豊かな旅行スタイルの創造」を目指す必要がある。	4	「企業誘致の推進」現在造成している産業団地の早期完成、早期完売を目指し、企業立地についても優遇制度等の見直しを行う必要がある。				
8	当市の「人と企業を呼び込む施策」において、定住促進を掲げ、土地区画整理事業による都市基盤整備等の施策・事業を推進しています。	4	左記と同様に、「人と企業を呼び込む施策」において、企業誘致の推進を掲げており、企業立地による雇用の創出・確保を図ります。	9	当市の南西部に位置する渡良瀬遊水地は、H24.7月にラムサール条約湿地に登録された誇るべき宝であり、貴重な動植物が生息する自然の宝庫として、湿地の賢明な活用を進めています。	3	「緑の健康づくりの森基本計画」を基に、新市民病院の移転・新築を機に、健康づくりから介護に至るまで包括的に支援できる拠点施設として、「健康医療介護総合支援センター及び小山思いの森」の整備を進めています。	12	平成26年度で終了する第5次行政改革の成果を踏まえ、効率的・効果的な行政運営を図り、さらなる財政健全化を進めるため、第6次行政改革大綱の策定を進めます。
1	・子育て支援体制の整備と充実・保健・医療・福祉の連携の充実	8	・安心安全な地域づくり・特色ある地域事業の支援・協働のまちづくり	3	・健康づくりや疾病の予防対策の充実・総合的な福祉対策の実施	6	・観光拠点施設の整備	2	・教育の支援体制や教育環境の充実
8	平成26年3月に策定した「定住促進計画」に基づき、新たな部署を立ち上げ、シティプロモーションの強化に取り組みはじめた。今後は「このまちに生まれてよかった、住んでよかった」と感じてもらえる事業を総合的、横断的に展開していく。	1	平成26～27年度にて市内幼稚園の認定子ども園設置工事に着手するほか、保育園の増改築も実施し、待機児童を解消する予定である。受け皿づくりのほか、多様な保育形態へのきめ細やかな対応が求められる。	2	本市誕生以来学校教育の基本方針として「人づくり教育」を定め、小中一貫教育の推進に取り組んでいる。ほかにも小中学校全校へのALT配置や、タブレット端末によるICTモデル教育の着手など、新たな事業に取り組んでいる。	4	雇用問題は市民アンケートの結果でも重要度が高いという回答であり、平成24年度から新たな部署を立ち上げ事業を推進してきた。今後は農業の6次産業化による産業創出や、サテライトオフィスの誘致について検討を行う。	10	自主防災組織の設置や防災士の育成など、地域防災に積極的に取り組んでいる。また、平成25年10月デマンド型のバス路線を試行的に開始した。公共施設やインフラの老朽化については、公共施設の有効活用指針やそれぞれの長寿命化計画を策定しているが、膨大な費用がかかるのは避けられない。

1位		2位		3位		4位		5位	
番号	具体的内容、その他課題など	番号	具体的内容、その他課題など	番号	具体的内容、その他課題など	番号	具体的内容、その他課題など	番号	具体的内容、その他課題など
1	【具体的内容】将来を担う子どもたちと子育て世代を応援・子育て支援（医療機関における病児保育体制の整備など）・義務教育（通学費負担軽減など）・奨学金（貸付要件緩和など）・医療（子ども医療費無料化年齢引き上げ（高校3年生まで）、小児科新設推進など）【課題】医療体制確保等に向けた県の協力や実施に向けた財源の確保など	3	【具体的内容】子どもからお年寄りまで安心して暮らすことができる“まち”づくり・高齢者福祉の充実（特養、サ高住施設の整備など）・障がい者福祉の充実（グループホーム、ケアホームの充実など）・健康づくりの推進（健康づくりのための推進制度創設など）・消防・防災対策（防災行政無線の整備など）・交通対策（コミュニティバスの運行など）・分譲地対策（道路補修等の助成拡大など）・高齢化集落対策（買い物支援、通院支援のための交通手段確保など）・空き家対策（危険空き家の解消、空き家の有効利用など）【課題】地域課題に対する県の共通認識と課題解決に向けた協力や実施に向けた財源の確保など	4	【具体的内容】日光のブランドを強化し産業と経済の活性化を図る・日光ブランドの強化（地場産品・特産品開発の支援など）・農林水産業の振興（農業清算法人の育成など）・商工業の振興（空き店舗を利用した起業・創業支援など）・環境への配慮（再生可能エネルギーの導入支援など）・スポーツの振興（マラソン・女子駅伝の開催など）【課題】県ブランド“日光”としての協力と実施に向けた財源の確保など	8	【具体的内容】“まちづくり”の主役となって活躍する日光市の“ひとづくり”の推進・将来に向けたひとづくり（次世代のまちづくりの担い手育成など）・人材を活かすひとづくり（「日光市協働のまちづくり推進の指針」に基づくまちづくりの推進など）・人材を活かす拠点づくり（（仮称）二宮尊徳記念館整備など）日光創新による“まちづくり”を推進するためその原動力となる体制づくり・男女共同参画社会づくり・行政改革の推進・健全財政の保持【課題】実施に向けた財源の確保や人材づくりに向けた有効な方法の検討など	6	【具体的内容】豊富な地域資源を活用した一層の観光躍進・観光の振興（DCキャンペーン（DCキャンペーン誘致、東京オリンピック・パラリンピックの開催に備えた観光誘客キャンペーン、東アジア地域への観光誘客強化、世界遺産関連記念行事など）【課題】DCキャンペーン、東京オリンピック対応、東アジア地域への対応など全県的な取組み体制の確保や財源の確保など
4	企業誘致推進事業や特別顧問の設置、企業誘致戦略会議の開催など	3	こども医療費助成制度、子ども予防接種事業及び在宅介護サービス事業の充実など	2	特色ある学校づくり推進事業、ふるさと学習体験事業及び小中一貫教育の充実など	8	暮らしのびのび定住促進補助事業、片岡地区市街地整備事業や木幡土地区画整理事業などの基盤整備事業及び地域コミュニティ推進事業など	12	中期財政計画の策定、中期財政フレームの目標指標設定及び重点事務事業の進行管理など
1	具体的内容：・こども医療の充実（中学校3年生までの医療費無料、現物給付）・地域子育て支援拠点の充実・放課後児童クラブの充実。課題：・財源の確保・各地方自治体とのサービス内容の差	11	具体的内容：・「烏山の山あげ行事」ユネスコ無形文化遺産登録に伴う環境整備・山あげ祭等文化遺産の保存・継承・体育施設等（武道館）整備・歴史民族資料館整備。課題：・担い手確保・財源の確保	10	具体的内容：・JR烏山線沿線整備・デマンド交通の地域拡大・公共施設の長寿命化対策（道路橋りょう・上下水道・教育施設等）。課題：・財源確保（公共施設等については、整備時期が同時期であるため、長寿命化対策を図るには多大な経費がかかる。）	2	具体的内容：・文武両道、郷土文化教育の推進・サタデースクール、英語コミュニケーションの充実・烏山高校存続支援。課題：・人材確保	4	具体的内容：・雇用創出（女性のための職場環境の充実）・企業誘致。課題：・行政での対応では限界があり、企業等協力が必要となる。

1位		2位		3位		4位		5位	
番号	具体的内容、その他課題など	番号	具体的内容、その他課題など	番号	具体的内容、その他課題など	番号	具体的内容、その他課題など	番号	具体的内容、その他課題など
1	・出会い、結婚、出産、育児（仕事との両立、養育費など）を支援する。・子供を取り巻くいじめ問題をはじめとする学校の環境とネグレクトや児童虐待などの家庭における問題の頻発化への対応が課題。・平成27年度より実施する「大田原市子ども・子育て支援事業計画」における教育・保育施設の量の見込みと基盤確保策として、既存私立保育園の新築による定員増、幼稚園の認定こども園移行による0歳から2歳児の受入れ増を支援していくほか、新設で定員60名規模の保育園を1施設、地域型保育事業としての小規模保育施設の参入を推進する。	3	・社会福祉施設の整備が必要。・医療の進歩により更に長寿化が進行することにより、年金や社会福祉費に占める公的予算増が課題となる。・高齢者が安心して暮らせるよう医療と介護の充実を図る必要がある。・高齢社会には、病気になってからの治療も大切であるが、医療により慢性疾患、特に急速に増える生活習慣病に代表されるように、どうしたら病気にならないか、病気になりにくい体をつくるという個人の健康づくりを支援する社会環境づくりの健康政策を推進する。	2	・ICT活用による教育環境の整備充実が必要。・資源の乏しい日本では教育こそ貴重な資源であり、学問やスポーツをとおして、心と体、生きる力を育むとともに、規範意識の醸成が必要。	8	・共同互恵の継続的推進による協働のまちづくりが重要。・空き家対策と定住促進を並行して推進する。・広域定住自立圏における物理的な距離の解消策と地方の高齢化が課題。	4	・安心して子育てができる安定的就労先の確保提供に向けた産業振興が課題。・雇用創出により若年層の定住促進を図る必要がある。
4	廃校等、遊休地への企業誘致を進める。	8	子育て助成金、住宅助成金、結婚支援事業を軸とした定住促進を進める。	12	より効果的な行政評価制度を構築し、効率的な自治体経営をめざす。	10	公共施設白書の作成を検討していく。	3	高齢化に備え、健康寿命の延伸をめざす。
4	・成長産業等、優良企業の立地を促進させるため、企業立地に係る各種施策を充実させるとともに、地場の中小企業支援や雇用対策を充実させる。・地場製品の活用や地域ブランドの育成等、また、企業間の連携を促進し、企業活動の創出の後押しを行うことにより、人や企業から選ばれる産業環境づくりを展開していく。	3	・放置された老朽空き家対策や市内永住希望者の住宅取得時の支援策を講じる。・休日夜間急患センターの設置など救急医療体制を充実させるほか、高齢者福祉施設の整備、高齢者の社会参画と生きがいづくりに取り組む。	8	・現役世代の高齢化による税収減、福祉予算の増加などの課題を抱える中で、若い世代の定住促進を積極的に展開するための取組を行う。・自治基本条例制定を受けた「協働のまちづくり」を推進する。	1	・子ども医療費の無料化の拡充と現物支給対象年齢の引き上げを実施するとともに、認定こども園・学童保育室等の子育て環境の充実と、子育てを支援する総合的なサービス・相談体制を構築する。	11	・市民の文化活動を支援するための文化芸術施設の整備や、運動公園のスポーツ拠点化を目指した整備を実施する。・市民の健康づくりや一体感の醸成のためのスポーツイベントを実施する。
4	人口流出を防止する為の雇用の場の確保。地元農産品を活用した6次産業の推進	3	高齢化社会に対応した健康長寿のまちづくり	2	子どもから高齢者まで生きがいを感じながら自由に楽しめる図書館の整備	8	農業体験やオーナー制など地色の特色を生かした都市農村交流事業の推進	6	コミュニティビジネスにつながるような、観光資源を活用したワンディトリップの促進

1位		2位		3位		4位		5位	
番号	具体的内容、その他課題など	番号	具体的内容、その他課題など	番号	具体的内容、その他課題など	番号	具体的内容、その他課題など	番号	具体的内容、その他課題など
9	サンバ(差羽)を頂点とした生態系の保全と循環型農業の確立。	8	生物多様性と農業が両立した形で、地域が発展することを目指す。自立のむらづくり。	3	健康、福祉、介護、そして医療が連携する町づくり。	1	子育ての各種支援の基盤をつくる。	11	地に埋れた文化財を生かす。
4	本県道路交通網の拠点に位置する本町の特性を最大限活かした施策は栃木県の発展のために不可欠。課題は、農用地域・農業振興地域の保全と企業誘致・雇用創出の両立。	1	県内で年少人口指数の最も高い本町は、子育てしやすい環境整備に努める。子ども医療費の現物給付対象年齢の引き上げは、県外からの定住促進にも有効。県内統一した取組みを求めます。	3	一人当たりの医療費が高い本町は、現在県内で老年人口指数が最も低い。今後高齢化が進むことが予想されるが、高いレベルにある後期高齢者医療費の改善は、急務の課題。	10	田川の計画流量の3割程度で支流の普通河川が溢水する現状。田川の内水問題は本町の大きな課題。河川が多い本町は、橋梁の老朽化・長寿命化対策が、今後の大きな財政負担となる。	7	これからの行政運営は、行政主導から住民参加型或いは住民主体に移行していく分野が多くなる必要性が高まっていく。行政は、団塊の世代等の知識・能力を有した住民を中心にまちづくり地域づくり人づくりを積極的に進めてもらう環境創生に努めることが重要。教育の場でも活用すべき。
4	町内主力工場であるHOYAペンタックスの規模縮小に伴い町内総生産額が減少している。新たな産業を創出するため、従来の観光を産業化するとともに、雇用の創出を図るべく農業も絡めた観光の産業化を図る。	8	町民協働によるまちづくりを進め、農村地域における地域コミュニティの維持は地域づくりの根幹。	1	働きながら子育てができる環境の整備	3	地域医療の確保・介護予防の充実・社会福祉の充実	10	ゲリラ豪雨等自然災害による災害予防のための河川改修、既存インフラの長寿命化。
3	少子高齢化社会の進展の中、健康寿命を延ばすことが、高騰する医療費や介護費用の増大を抑制できる一つの手段であり、喫緊の課題である。また、少子化対策としての小児科などの医療機関の確保や医師不足の解消による高齢者の安心・健康の確保も重要な課題である。	1	人口減少の歯止めをかける対策として、子育て支援の充実が大きなウェイトを占めてくる。育児と仕事の両立を支援することが重要課題であり、企業や地域、社会全体で支援する体制や意識改革が必要になってきている。	4	景気回復に向け、中小企業への支援強化による地場産業の安定を図ることによる雇用拡大、促進を図る必要がある。また、工業団地の拡張による雇用の場の確保、担い手農家や農業法人の育成による農業の振興などによる産業の育成が課題である。	2	将来を担う次世代を育成するため、学力、体力の向上を継続的に追及することが命題であり、行政課題でもある。教育環境の充実と保護者への負担軽減が子育て環境、人口減少対策にも大きな影響があるので、力を入れるべき課題である。	10	社会資本整備は、住みやすいまちづくりの根幹であり、市街地整備、住宅地造成、道路・下水道・公園等の整備を引き続き重点としながらも、LRT導入を含め、公共交通機関の充実、防災対策の強化により、いつまでも住み続けたいまちづくりを力強く推進する必要がある。

1位		2位		3位		4位		5位	
番号	具体的内容、その他課題など	番号	具体的内容、その他課題など	番号	具体的内容、その他課題など	番号	具体的内容、その他課題など	番号	具体的内容、その他課題など
4	・産業団地の分譲強化・生産人口確保のためのまちづくり	3	健康寿命という住民意識を確立する。・みぶまち獨協健康大学の推進・高齢者見守りネットワークの確立	1	安心して産み育てられる町を目指して・こんにちは赤ちゃん祝い金事業の継続・ママ友、パパ友ネットワークの構築・こども医療費の現物給付の拡大	8	協働のまちづくりの推進・防災や高齢者見守り等が連携し、総合的なネットワークを構築する。	10	・老朽化施設への対応・公共交通網の整備
1	子どもたちが夢を描ける町、子育てしやすい町づくりを推進。・こども医療費現物給付エリアの拡大・野木学童保育室の建替・「こども・子育て支援事業計画」の策定	3	町民が健康的に町に住み続け、その生活を支援できる政策。・「野木町高齢者福祉計画・介護保険事業計画（第6期）」の策定・「キラリと光る・健康タウンのぎ」の実現（健康タウン宣言）・高齢者通院時タクシー利用助成事業	4	持続可能なまちづくりの為に新たに開発をし企業誘致を促進する。・工場地帯開発推進事業・企業誘致の促進（野木工業団地北部地区測量事業・野木東工業団地周辺開発基本計画の策定）	6	遊水地に臨む地域を一体的に捉え、そこにある資源の有効活用を考える。・「水と緑と歴史のまちづくり基本構想」策定・野木町煉瓦窯修復工事の完成、見学コースの設置・公開	10	より広汎で系統立った防災施策を促進し、強化する。・各小中学校校舎の大規模改修工事・小中学校非構造部材落下防止調査事業・防災行政無線導入（全町）に向けた基本構想（配置計画）の調査設計
1	安心して子育てができる環境の整備	3	高齢者や社会的弱者が生活しやすい環境の充実	2	次代を担う子供たちへの恵まれた体験教育の充実を図る	9	恵まれた自然環境の維持保全と活用	5	太陽光・木質等生かし、循環型社会の拡充
8		4		10		1		2	
1	育児と仕事の両立支援、男性の育児参加	4	農林業振興による雇用創出	6	インバウンド（語学研修）	12	財政健全化、職員の意識改革	11	スポーツ交流によるまちづくり
10	・新庁舎整備をはじめ防災拠点の整備・企業誘致などに必要な橋りょうを含めた道路整備	1	・保育園等の整備による、幼児教育、保育内容の充実・子育てを支援する人材の育成による、安心して子育てができる環境の整備	4	・企業の誘致・6次産業化や農商工業の連携による新たな働く場の創出・農林水産物の高付加価値化・ブランド化による生産者の所得向上	5	・再生可能エネルギーによる循環型社会の構築・環境教育の推進・生活排水処理普及率の向上	6	・伝統行事、スポーツイベントを含めた観光振興施策

## 4 市町村の特色ある地域づくりについて

### (1) 特色ある地域づくりの核として活かしたいもの

#### 【 結果概要 】

市町全体では、「2 水辺・里山等の身近で豊かな自然環境」「10 遺跡、史跡や郷土文化、民俗芸能等の歴史・文化資源」などが高かった。特に「2 水辺・里山等の身近で豊かな自然環境」は全体・市・町を通してもっとも高かった。

逆に、低い項目は「6 活力ある商業・サービス業」「13 多くの人から好まれる地域特有の食文化」であり、回答数がゼロであった。

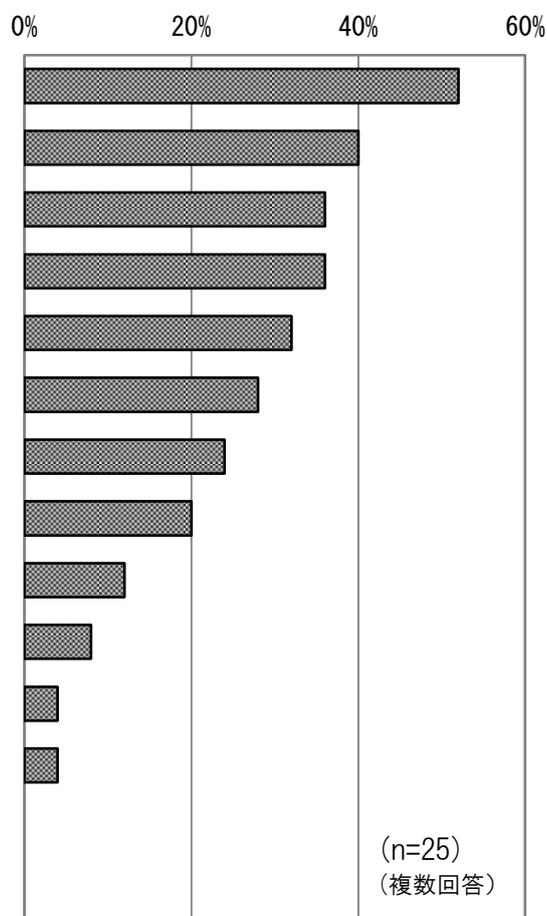
#### 【 調査内容 】

地域づくりの核として活かしていくべき特色を14項目より3つ選択。

#### 【 調査結果 】

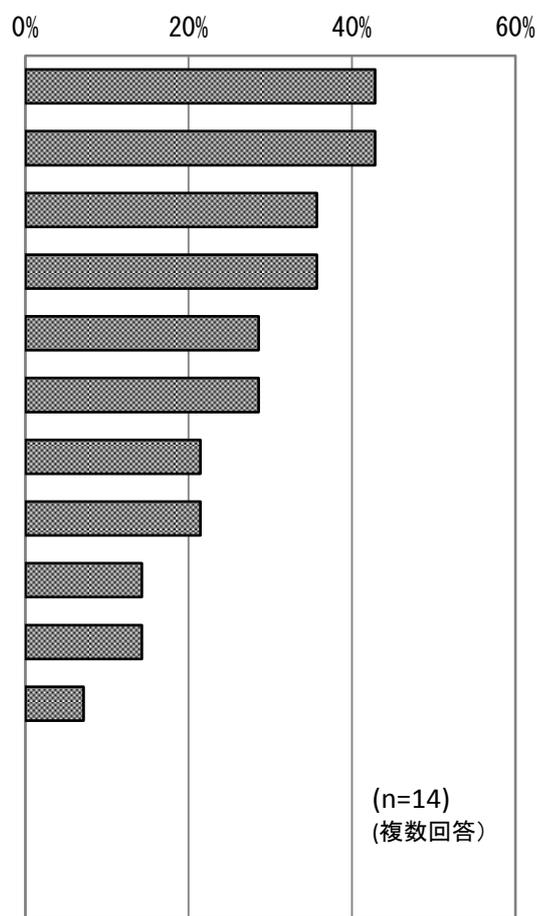
##### ・市町全体(25市町)

項 目	回答数	%
2 水辺・里山等の身近で豊かな自然環境	13	52.0
10 遺跡、史跡や郷土文化、民俗芸能等の歴史・文化資源	10	40.0
4 道路網の発達や東京圏等からのアクセス	9	36.0
9 地域特性を活かした豊かな農林水産業	9	36.0
3 豊富な観光資源	8	32.0
14 その他(上記以外の新たな資源など)	7	28.0
12 人と人とのつながりを活かした地域コミュニティ	6	24.0
7 製造業を中心とした工業や先端技術産業	5	20.0
1 国立公園等の貴重な自然環境	3	12.0
11 整備された文化・生涯学習・スポーツ施設における活発な活動	2	8.0
5 豊かな都市環境と高次都市機能の集積	1	4.0
8 伝統産業・地場産業	1	4.0
6 活力ある商業・サービス業	0	0.0
13 多くの人から好まれる地域特有の食文化	0	0.0



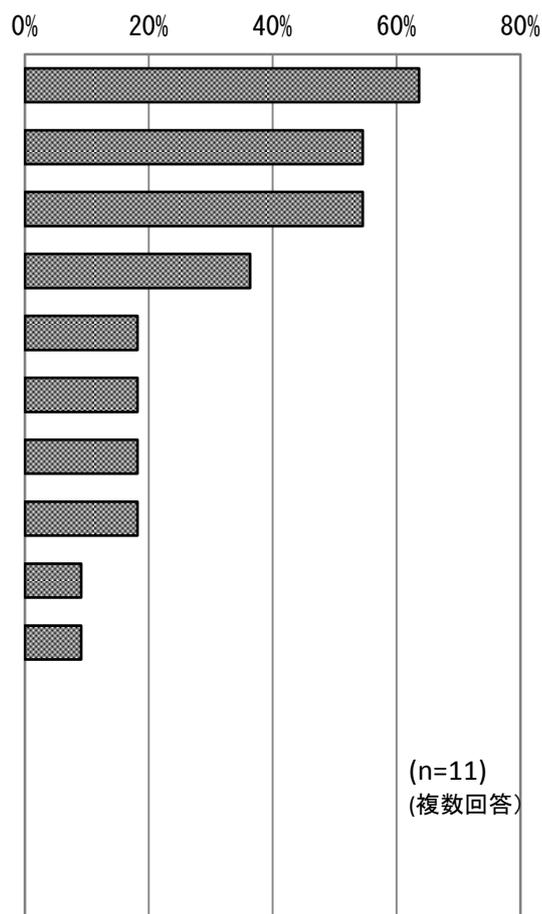
・市全体(14市)

項目	回答数	%
2 水辺・里山等の身近で豊かな自然環境	6	42.9
3 豊富な観光資源	6	42.9
4 道路網の発達や東京圏等からのアクセス	5	35.7
14 その他(上記以外の新たな資源など)	5	35.7
10 遺跡、史跡や郷土文化、民俗芸能等の歴史・文化資源	4	28.6
12 人と人とのつながりを活かした地域コミュニティ	4	28.6
7 製造業を中心とした工業や先端技術産業	3	21.4
9 地域特性を活かした豊かな農林水産業	3	21.4
1 国立公園等の貴重な自然環境	2	14.3
11 整備された文化・生涯学習・スポーツ施設における活発な活動	2	14.3
5 豊かな都市環境と高次都市機能の集積	1	7.1
6 活力ある商業・サービス業	0	0.0
8 伝統産業・地場産業	0	0.0
13 多くの人から好まれる地域特有の食文化	0	0.0



・町全体(11町)

項目	回答数	%
2 水辺・里山等の身近で豊かな自然環境	7	63.6
9 地域特性を活かした豊かな農林水産業	6	54.5
10 遺跡、史跡や郷土文化、民俗芸能等の歴史・文化資源	6	54.5
4 道路網の発達や東京圏等からのアクセス	4	36.4
3 豊富な観光資源	2	18.2
7 製造業を中心とした工業や先端技術産業	2	18.2
12 人と人とのつながりを活かした地域コミュニティ	2	18.2
14 その他(上記以外の新たな資源など)	2	18.2
1 国立公園等の貴重な自然環境	1	9.1
8 伝統産業・地場産業	1	9.1
5 豊かな都市環境と高次都市機能の集積	0	0.0
6 活力ある商業・サービス業	0	0.0
11 整備された文化・生涯学習・スポーツ施設における活発な活動	0	0.0
13 多くの人から好まれる地域特有の食文化	0	0.0



## (2) 経年変化

### 【 結果概要 】

「2 水辺・里山等の身近で豊かな自然環境」「4 道路網の発達や東京圏等からのアクセス」は、年々割合が伸びている。

一方、「5 豊かな都市環境と高次都市機能の集積」「8 伝統産業・地場産業」は、毎回低い割合で推移してきている。

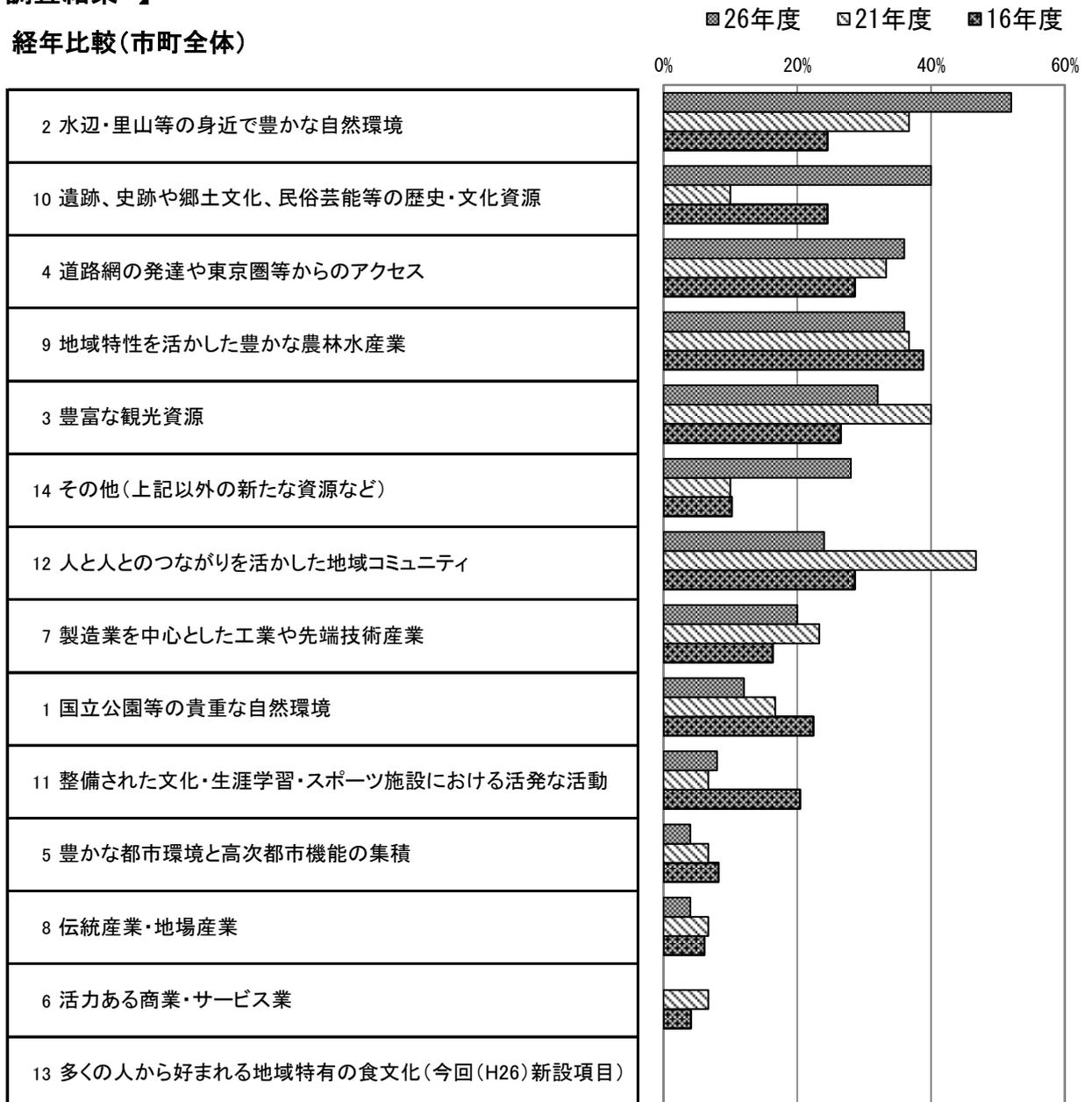
また、前回(平成21年)と比較して「10 遺跡、史跡や郷土文化、民俗芸能等の歴史・文化資源」は大幅に伸び、「12 人と人とのつながりを活かした地域コミュニティ」は前々回(平成16年)並みに落ち込んだ。

### 【 調査内容 】

前回(平成21年)と前々回(平成16年)に実施した調査と比較し、経年変化を見た。

### 【 調査結果 】

#### 経年比較(市町全体)



(3) 特色ある地域づくりの核として活かしたいものの具体的内容

番号	具体的内容 1	番号	具体的内容 2	番号	具体的内容 3
5	「ネットワーク型コンパクトシティ形成」の推進。本市のこれまでの地域の成り立ちや基盤整備の状況を踏まえ、それぞれの地域の維持・発展も目指す、本市独自の多核連携型による都市空間となる「ネットワーク型コンパクトシティ」の形成を目指す。その形成に当たっては、中心市街地と、各地域の既存コミュニティなどに地域特性を踏まえた各種の都市機能が集積した「拠点化」と、階層性を持った交通ネットワークによる拠点間の連携・補完となる「ネットワーク化」を進める。	14	「都市ブランド戦略」の推進。本市の認知度や信頼度を高めるため、市のマスコットキャラクター「ミヤリー」による全国への情報発信など、広く宇都宮の魅力伝える取組や、「愉快市民」によるPR活動や写真展など、宇都宮を好きになってもらえるような参加・体験型の取組など、独自の都市ブランド戦略を展開している。	11	「自転車のまち宇都宮」の推進。アジア最高位のサイクルロードレース「ジャパンカップサイクルロードレース」や地域密着型プロチーム「宇都宮ブリッツェン」などの地域特性を活かし、ひとや環境に優しい自転車を活用したまちづくりに取り組んでいる。
3	足利学校、饗阿寺、あしかがフラワーパーク、ココ・ファームワイナリー、相田みつを、織姫神社など	10	足利学校、饗阿寺のある中心市街地の再生	14	映像産業の集積をめざす「映像のまち構想」の推進
2	本市は、東京から鉄道や車で1時間余りの距離に位置し、北関東自動車道や国道50号が整備され、東西交通の要衝ともなっている。ラムサール条約登録となった渡良瀬遊水地をはじめ、巴波川、永野川、渡良瀬川、思川などの河川が市内を貫流し、三轟山、岩船山、太平山などの山々が連なり、非常に恵まれた自然景観を擁している。また、気候も穏やかであり自然災害も、非常に少ない。現在の本市の人口構造は、25歳から29歳の年齢期では、他地域への移動が安定し、30歳以上では、ほぼ他地域への移動が落ち着いている。これは、住みやすさを表していると考えられ、その大きな要素は、自然景観や気候等であると考えられる。また、東京から鉄道や車で1時間余りの距離に位置し、さらに北関東自動車道や国道50号が整備され、東西交通の要衝ともなっていることから、恵まれた自然景観と位置的優位性を今後の地域づくりにおいて、生かしていきたいと考えるものである。	3	本市には、伝統的建築物群、蔵の街並み、登録有形文化財など古い建造物が存在している。また、本市は、田中一村、清水登之、飯塚琅玕齋、山本有三、吉屋信子、柴田トヨ、さらには喜多川歌麿などの本市ゆかりある文化人の作品を多く所有している。旧石器時代の星野遺跡や律令時代の国庁跡、室の八島、大中寺、村檜神社などの歴史的に貴重な資源が残っており、これら全てが、上記2の自然景観と合わせて、貴重な観光資源であると受け止めている。これらを有機的に結び付け、新たな観光コース設定や文化人の作品を集約展示する施設の検討の具現化を推進する。	12	現在、合併した旧町においては、自治区と地域協議会を設置している。平成27年3月31日で設置期限が到来することから、栃木市地域自治制度検討委員会・検討部会を設置し新たな自治制を検討している。まちづくりは住民の声や関係団体の考えが、直接反映できる小さな単位で、進めていくことを前提に、まちづくり団体や各地域協議会等の意見をうかがうとともに、また、地域での説明会を行い、広く市民の皆様からご意見をいただきながら検討を重ねているところである。
4	東北自動車道、北関東自動車道の結節点に位置し、東京圏からのアクセスも40分ほどで可能な交流拠点都市の実現を目指す本市の特性を活かすことが必要である。	14	「都市ブランド戦略の推進」市の認知度を向上させ、市に対する誇りや愛着を持ってもらい、「住み続けたい」、「暮らしてみたい」まちづくりを実施するため、今ある資源の活用、新たな魅力の創出することが必要である。		

番号	具体的内容 1	番号	具体的内容 2	番号	具体的内容 3
12	人口減少を前提に考えれば地域コミュニティの充実は必要不可欠であり、地域づくりに向けて、住民が話し合う場（地区アイデア会議）を設けることで、地域の課題を洗い出しその解決策を検討し、その実践に対する支援を行い地域力の育成を図っている。また、県内初の自治基本条例を定めた。	4	首都圏・宇都宮市に近く、佐野・栃木・小山、那須塩原が通勤圏であるなど、アクセス網が充実しているため住環境の潜在能力は高いと考えられ、この点をアピールする。	2	市内の約7割は森林で覆われ、西北部の山々と、その山々を源流とする大芦川、永野川などの清流が流れており、山と高原、清流と渓谷という特色ある美しい景観を成している。これを環境資源として全国へアピールが必要。
1	当市は、日光国立公園を中心とした山、川、湖、湿原、森、滝などの世界的な自然を有し、その一部は、ラムサール条約登録湿地である。また、市内を横断する日光杉並木は特別史跡と特別天然記念物に2重に指定されているなど、貴重な自然が多く存在する。今後は、これまで以上にこれらを観光資源として地域づくりへ活かしていくことが必要。	3	当市は、世界的に貴重な自然、歴史的・文化的な建造物、湯量豊富で泉質豊かな温泉など多くの観光資源を有する。これらを活かした観光地域づくりを推進するため、観光振興計画に基づき、観光プラットフォームを整備する。	10	当市は、世界遺産「日光の社寺」をはじめとして、多くの歴史・文化資源を有する。これらを中心に、「世界遺産登録15周年」、「日光東照宮400年式年大祭」、「日光山開山1250年」などが控えている。これらの機会を地域づくりに向けて取り入れていくことを予定している。
4	東京から近い立地利便性や、新幹線が停車し、鉄道・国道ともに交差する交通の要衝に位置するメリットを活用し、再開発や定住促進、中心市街地活性化を推進しています。	7	工業の発展こそ、小山市発展の核であるという観点から、新たな工業団地の整備や企業誘致を積極的に進め、戦略的な産業立地・産業集積を促進するとともに、雇用の創出を図っています。	1	ラムサール条約湿地に登録された渡良瀬遊水地は、貴重な動植物が生息する自然の宝庫であることから、湿地の賢明な活用を進めるため、「渡良瀬遊水地関連振興5箇年計画」を策定し、自然・産業・生活文化・歴史等の資源の価値を創造し、地域振興にも寄与する取組を進めています。
9	・いちご生産量日本一のPR	3	・「もおか木綿」「SL」「井頭温泉」などを柱にした観光まちづくり・二宮尊徳ゆかりの郷土文化ゆたかなまちづくり	12	・「みんなで作る地域づくり事業」による協働のまちづくり
2	・鮎の遡上日本一的那珂川、豊かな森林資源と自然環境を有する八溝山系など、大田原市の自然環境は首都圏に在住する都会人の趣向に合致するもので、更に好まれる住環境を自然保護のもと創造していく。・都市をとりまく豊かな田園風景と里山が存在し、最適なワークライフバランスが確保できる環境があるが、それらが資源であることを認識し、生かしていくことが課題。・今あるきれいで豊かな水など、恵まれた自然環境を維持・保全していく。・自然の中に文化資源も存在しており、一体として活用していく。	7	・工業は、本市経営基盤の骨格をなす最重要部門であり、今後も製造業振興施策を積極的に展開する。	9	・豊かな生産基盤は本市の強みであり、商業との連携や6次産業化などの付加価値化を強力に進め、地産地消はもとより、世界中の食需要に貢献できる産業にまで育成していく。・担い手を確保し、継続的な農業経営を確保するとともに自然環境を保全していく。・土地利用型農業を基盤にし、農事組合法人等による農業の合理化を図りながら、首都圏を中心販路とした園芸作物等のブランド化と安全安心な農作物を供給していく。・農業体験や地域交流を進める(株)大田原ツーリズムと連携し、元気で魅力のある農山村をつくっていく。

番号	具体的内容 1	番号	具体的内容 2	番号	具体的内容 3
2	都市住民との交流や地産地消を目的として、棚田、そばオーナー制度事業や平場（平地）地域における農業農村の資源や環境維持・保全を図るための農地・水保全管理支払交付金事業及び6次産業化の推進を図ることなど	9	矢板たかはら米、矢板和牛、リンゴ、しいたけなどの「やいたブランド」の推進及び道の駅やいたを活用した「地産地消」の推進など	12	ふるさと創年大学開催など生涯学習機会充実事業や自治公民館の活動支援を行う地域づくり推進事業及び高齢者見守り隊などの住民の助け合いを推進することなど
2	市域の約半分が山岳部であり、初夏の新緑、秋季の紅葉など四季折々の多彩な表情を持っている。また、市内を流れる那珂川や箒川は、豊富な水量と清らかな水質を誇り、シーズンには釣り人達が集う場所となっている。	3	塩原温泉、板室温泉、三斗小屋温泉という特色ある温泉地を有している。体験型牧場施設やスキー場などもあるほか、アウトドア体験もできる環境が整っている。	4	市内に3つあるJRの駅や、2箇所の高速道路インターチェンジにより、東京と東北の中間点として交通の要衝となっている。
3	道の駅きつれがわなど、日本三大美肌の湯の1つである喜連川温泉	7	喜連川工業団地を中心とした、都市圏から交通アクセスの良い工業地域	11	新しく整備している多目的運動場
10	「烏山の山あげ行事」ユネスコ無形文化遺産登録。烏山城跡、近代化遺産等の文化資源	14	JR烏山線（アキュム：日本発蓄電池電車、烏山駅：終着駅）	2	八溝山系、関東随一の清流那珂川水系。龍門の滝
4	・圧倒的な交通利便性（JR3駅（小金井駅、自治医大駅、石橋駅）、国道4号、新4号国道、国道352号、北関東自動車道など基幹道路など）や、東京との近接性を活かした定住促進策の展開、企業誘致の促進などを図る。	10	・多彩で豊かな文化資源（4つの国指定史跡や古墳等）を歴史、風情のあるまちづくりに活かし、近隣市町と連携しながら観光資源としての活用を図る。	14	・恵まれた医療資源（医師一人あたり人口が全国市1位等）を活かした「健康度日本一（健康寿命、一人あたり医療費等）」を目指した施策を展開する。
4	北関東道と新国道4号線がクロスし本県道路交通網の拠点としての特性を活かすための施策は本庁のみならず栃木県の発展に大きく寄与できる。栃木県の魅力を高める為に戦略的な施策の取組みが必要。	7	上記の理由からあらゆる可能性を持つ本町の魅力をさらに高めるため、「5豊かな都市環境と高次都市機能の集積」および「6活力ある商業・サービス」を含めて多角的に検討・研究をしていきたい。	9	鬼怒川右岸に代表される河川に挟まれた肥沃な農地が広がる本町は、品質の高い農産物を産出している。東京圏へのアクセスにも恵まれている環境を活かして優良農地での農業活性化に取り組む。
8	益子の観光の核は益子焼であるが、それに加えて文化遺産や農業等様々な地域資源を活かして観光の産業化を進める。	2	典型的な里地・里山が益子の生活をはぐくんできた。益子らしさの源。これを守り活かして行くことで観光や定住につなげてゆく。	10	守るべきものとして大切に受け継がれている有形、無形の文化財

番号	具体的内容 1	番号	具体的内容 2	番号	具体的内容 3
14	栃木県内最後のマスコットキャラクターと言われている「ゆずも」を中心に、既成に捉われない新たな町のイメージを創出していきたい	9	棚田のオーナー制（3地区）をはじめ、ゆずの里やそばの里など、官民一体となった地域づくりが町内各地で行なわれている	2	ふるさとの原風景とも言われる里山の美しさを四季を通じて楽しむことができる
2	日本一美しい里地里山を外部に発信する。	9	有機農業で生物多様性を保全しながら、農業者と連携して行く。	10	埋没した文化財（無・有形）を掘り起こして研く。
9	水田農業の規模拡大や農地の集約、省力化による水田農業の振興、梨、イチゴ、トマトなどの地元産農産物の拡大等による安定した所得が確保できる地域農業の振興に力を入れる。	4	鉄道等の公共交通機関がないので、新たな対策としてのLRT導入は、当町に取り大変魅力的である。工業団地の利便性の向上は勿論、少子高齢化社会に対応できる手段であるので、地域交通の整備と併せて実現したい。	7	当町の特徴でもある、工業団地の土地利用をさらに推進するとともに、新たな需要にも対応できる工業団地敷地拡張による企業誘致により、先端技術・学術研究・専門技術サービス部門での集約、規模拡大を図る。
4	・みぶハイウエーパークやインターを活用したまちづくり	10	・古墳や蘭学を活かした歴史のまちづくり	12	・合併しなかった町の強みを生かす。（きめ細やかな地域づくり）
2	渡良瀬遊水地に臨む地域を一体的に捉え、そこにある地域資源（野木町煉瓦窯、水辺の楽校、野木神社等）を活かした交流促進や地域振興を図る。	14	それぞれの県際に位置する、野木町、古河市、加須市、板倉町が相互に協力して、複雑多様化する行政課題及び地域連携等の課題を調整・協議・検討し、魅力ある圏域形成を目指して、三国サミット会議を構成する。	10	
2	豊かな自然を維持保全する一方で、それらを活用した太陽光、河川・木質等の活用展開を図る。	10	国指定の佐貫観音や、松尾芭蕉のおくの小細道、たかはら山の歴史など、ほとんど手つかずの文化資源を調査研究し、次世代に伝承することでまちづくりを進める。	9	260haの町有林野を活用し、子供たちの植林の教育、大工の技術向上、企業による森の造成、など豊かな地域資源の活用を図る。
12	人口減少に伴い、地域の活力低下・地域コミュニティの維持が困難になってきているので、既存コミュニティを核とした新たな地域自治のあり方など検討	9	地域資源の有効活用による地域の魅力を創出し、地域特性を活かした取り組みを検討	2	地域資源の有効活用による地域の魅力を創出し、地域特性を活かした取り組みを検討
3	豊かな自然環境と温泉	4	デマンド交通の充実	1	生物多様性
2	・清流那珂川と緑豊かな里山に抱かれた美しい自然を町のシンボルとして活かしたい。	3	・見る、遊ぶ、食べるがバランスよく備わっている優れた観光資源を、積極的に活かしたい。	10	・国指定史跡、国登録文化財、県指定文化財をはじめ、資料館、美術館など豊富な史跡、歴史資料を有効に活かしたい。

## 5 望ましい「とちぎ」の姿について

### (1) 望ましい「とちぎ」の姿

#### 【 結果概要 】

市町全体・市・町すべてにおいて、「1 安心して子どもを産み育てていくことができる」とちぎ」「3 生涯にわたって健康でいきいきと暮らせるとちぎ」「9 とちぎの実力を最大限にPRし、県内外に魅力を発信できるとちぎ」が高い結果となった。

市町間では、市で「8 ライフスタイルに合わせて、いろいろな働き方が選べるとちぎ」が選ばれているのに対し、町では「11 農林業が盛んで、多くの若者が農林業へ就職を希望するとちぎ」が選ばれている。

#### 【 調査内容 】

市町長が考える望ましい「とちぎ」の姿を把握するため、18の項目より、3つまで選択。

#### 【 調査結果(上位抜粋) 】

##### ・市町全体(25市町)

【重要度】の高い項目	回答数	%
1 安心して子どもを産み育てていくことができる」とちぎ	19	76.0
3 生涯にわたって健康でいきいきと暮らせるとちぎ	11	44.0
9 とちぎの実力を最大限にPRし、県内外に魅力を発信できるとちぎ	10	40.0
15 自然環境が豊富で、やすらぎがあるとちぎ	5	20.0
18 防犯や防災対策を強化し、安心して暮らすことができるとちぎ	5	20.0
8 ライフスタイルに合わせて、いろいろな働き方が選べるとちぎ	4	16.0
11 農林業が盛んで、多くの若者が農林業へ就職を希望するとちぎ	4	16.0
16 歴史や文化、伝統を守り、受け継いでいるとちぎ	4	16.0

・市全体(14市)

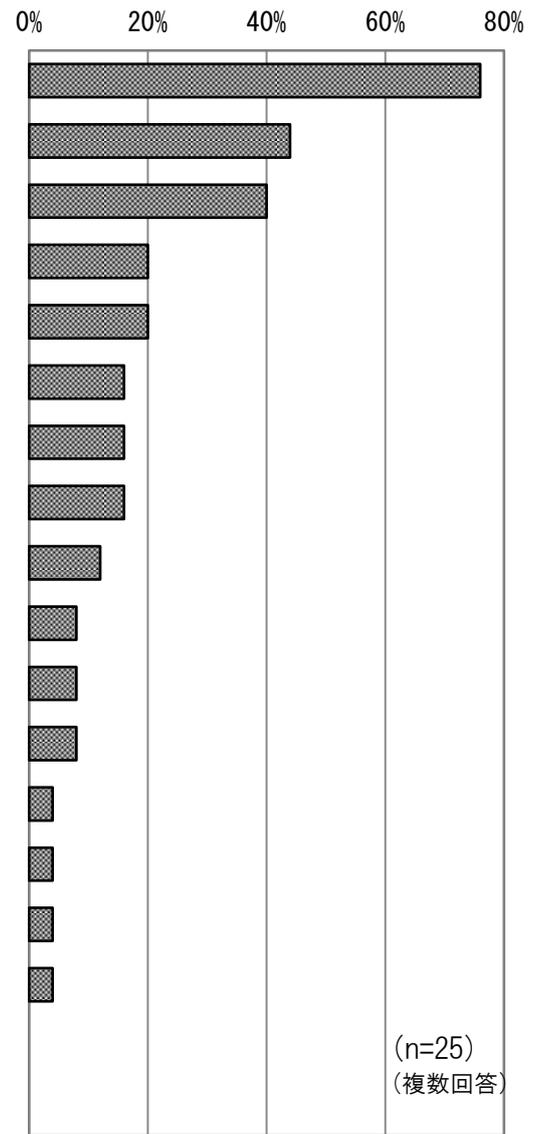
【重要度】の高い項目	回答数	%
1 安心して子どもを産み育てていくことができるまち	10	71.4
3 生涯にわたって健康でいきいきと暮らせるまち	9	64.3
9 とちぎの実力を最大限にPRし、県内外に魅力を発信できるまち	4	28.6
8 ライフスタイルに合わせて、いろいろな働き方が選択できるまち	3	21.4
15 自然環境が豊富で、やすらぎがあるとちぎ	3	21.4
18 防犯や防災対策を強化し、安心して暮らすことができるまち	3	21.4

・町全体(11町)

【重要度】の高い項目	回答数	%
1 安心して子どもを産み育てていくことができるまち	9	81.8
9 とちぎの実力を最大限にPRし、県内外に魅力を発信できるまち	6	54.5
11 農林業が盛んで、多くの若者が農林業へ就職を希望するまち	3	27.3
3 生涯にわたって健康でいきいきと暮らせるまち	2	18.2
5 県外や海外と人、もの、情報などの活発な交流が行われるまち	2	18.2
15 自然環境が豊富で、やすらぎがあるとちぎ	2	18.2
16 歴史や文化、伝統を守り、受け継いでいるまち	2	18.2
18 防犯や防災対策を強化し、安心して暮らすことができるまち	2	18.2

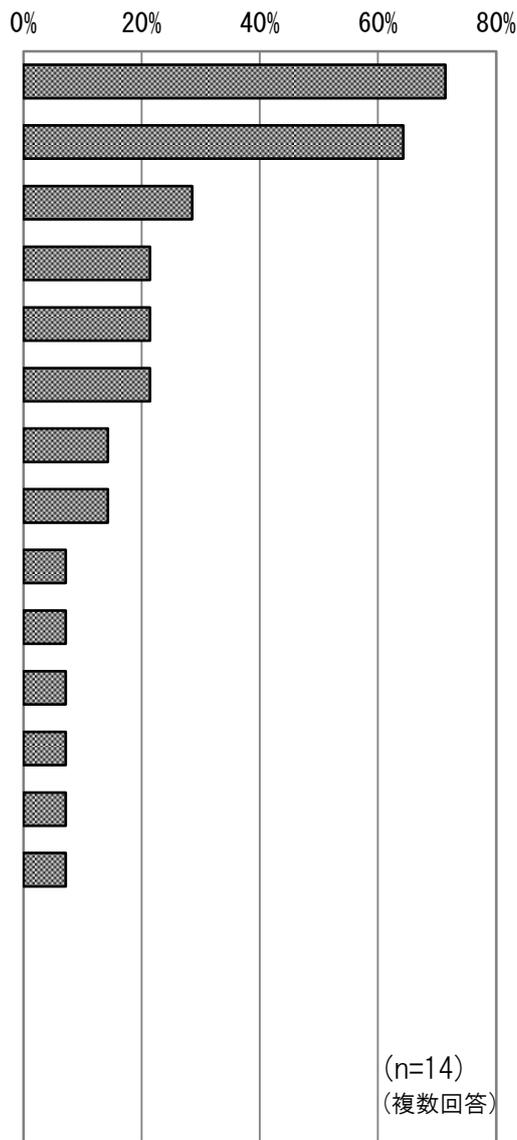
○望ましい「“とちぎ”の姿」について (市町全体、25市町)

項目	回答数	%
1 安心して子どもを産み育てていくことができるとちぎ	19	76.0%
3 生涯にわたって健康でいきいきと暮らせるとちぎ	11	44.0%
9 とちぎの実力を最大限にPRし、県内外に魅力を発信できるとちぎ	10	40.0%
15 自然環境が豊富で、やすらぎがあるとちぎ	5	20.0%
18 防犯や防災対策を強化し、安心して暮らすことができるのとちぎ	5	20.0%
8 ライフスタイルに合わせて、いろいろな働き方が選択できるとちぎ	4	16.0%
11 農林業が盛んで、多くの若者が農林業へ就職を希望するとちぎ	4	16.0%
16 歴史や文化、伝統を守り、受け継いでいるとちぎ	4	16.0%
12 工業が盛んで、ものづくりが自慢できるとちぎ	3	12.0%
5 県外や海外と人、もの、情報などの活発な交流が行われるとちぎ	2	8.0%
10 新しい事業にどんどんチャレンジできる産業活動が活発なとちぎ	2	8.0%
13 買い物や娯楽サービスが楽しめるにぎわいのあるとちぎ	2	8.0%
2 年齢や性別、障害の有無にかかわらず、みんなが安心して自立した生活が送れるとちぎ	1	4.0%
4 地域の人々が助け合って生活するとちぎ	1	4.0%
14 森林や川など身近な自然環境を守る取組が積極的に行われているとちぎ	1	4.0%
17 道路や公共交通機関などの都市基盤や、美術館や博物館などの社会基盤が整備されたとちぎ	1	4.0%
6 文化・芸術活動、スポーツなどが活発なとちぎ	0	0.0%
7 産学官が連携して、様々な研究に取り組むとちぎ	0	0.0%



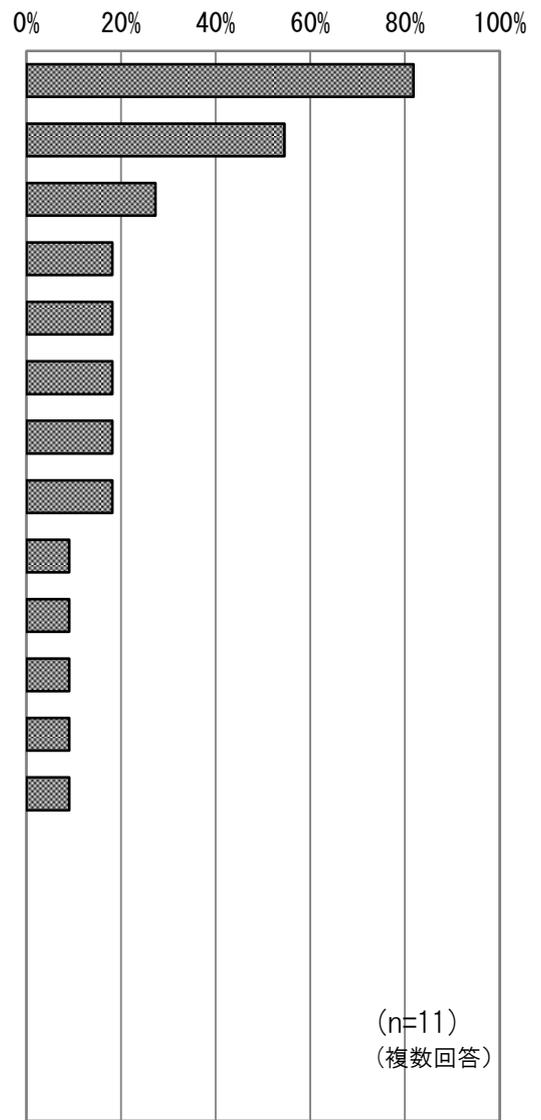
○望ましい「“とちぎ”の姿」について (市全体、11市)

項目	回答数	%
1 安心して子どもを産み育てていくことができるとちぎ	10	71.4%
3 生涯にわたって健康でいきいきと暮らせるとちぎ	9	64.3%
9 とちぎの実力を最大限にPRし、県内外に魅力を発信できるとちぎ	4	28.6%
8 ライフスタイルに合わせて、いろいろな働き方が選択できるとちぎ	3	21.4%
15 自然環境が豊富で、やすらぎがあるとちぎ	3	21.4%
18 防犯や防災対策を強化し、安心して暮らすことができる」とちぎ	3	21.4%
12 工業が盛んで、ものづくりが自慢できるとちぎ	2	14.3%
16 歴史や文化、伝統を守り、受け継いでいる」とちぎ	2	14.3%
2 年齢や性別、障害の有無にかかわらず、みんなが安心して自立した生活が送れる」とちぎ	1	7.1%
4 地域の人々が助け合って生活する」とちぎ	1	7.1%
10 新しい事業にどんどんチャレンジできる産業活動が活発な」とちぎ	1	7.1%
11 農林業が盛んで、多くの若者が農林業へ就職を希望する」とちぎ	1	7.1%
13 買い物や娯楽サービスが楽しめるにぎわいのある」とちぎ	1	7.1%
17 道路や公共交通機関などの都市基盤や、美術館や博物館などの社会基盤が整備された」とちぎ	1	7.1%
5 県外や海外と人、もの、情報などの活発な交流が行われる」とちぎ	0	0.0%
6 文化・芸術活動、スポーツなどが活発な」とちぎ	0	0.0%
7 産学官が連携して、様々な研究に取り組む」とちぎ	0	0.0%
14 森林や川など身近な自然環境を守る取組が積極的に行われている」とちぎ	0	0.0%



○望ましい「“とちぎ”の姿」について (町全体、11町)

項目	回答数	%
1 安心して子どもを産み育てていくことができるとちぎ	9	81.8%
9 とちぎの実力を最大限にPRし、県内外に魅力を発信できるとちぎ	6	54.5%
11 農林業が盛んで、多くの若者が農林業へ就職を希望するとちぎ	3	27.3%
3 生涯にわたって健康でいきいきと暮らせるとちぎ	2	18.2%
5 県外や海外と人、もの、情報などの活発な交流が行われるとちぎ	2	18.2%
15 自然環境が豊富で、やすらぎがあるとちぎ	2	18.2%
16 歴史や文化、伝統を守り、受け継いでいるとちぎ	2	18.2%
18 防犯や防災対策を強化し、安心して暮らすことができる&とちぎ	2	18.2%
8 ライフスタイルに合わせて、いろいろな働き方が選択できるとちぎ	1	9.1%
10 新しい事業にどんどんチャレンジできる産業活動が活発なとちぎ	1	9.1%
12 工業が盛んで、ものづくりが自慢できるとちぎ	1	9.1%
13 買い物や娯楽サービスが楽しめるにぎわいがあるとちぎ	1	9.1%
14 森林や川など身近な自然環境を守る取組が積極的に行われているとちぎ	1	9.1%
2 年齢や性別、障害の有無にかかわらず、みんなが安心して自立した生活が送れるとちぎ	0	0.0%
4 地域の人々が助け合って生活するとちぎ	0	0.0%
6 文化・芸術活動、スポーツなどが活発なとちぎ	0	0.0%
7 産学官が連携して、様々な研究に取り組むとちぎ	0	0.0%
17 道路や公共交通機関などの都市基盤や、美術館や博物館などの社会基盤が整備されたとちぎ	0	0.0%



## (2) 経年変化

### 【 結果概要 】

前回(平成21年)と前々回(平成16年)とともに、今回も「1 安心して子どもを産み育てていくことができる」とちぎが群を抜いて1位であった。

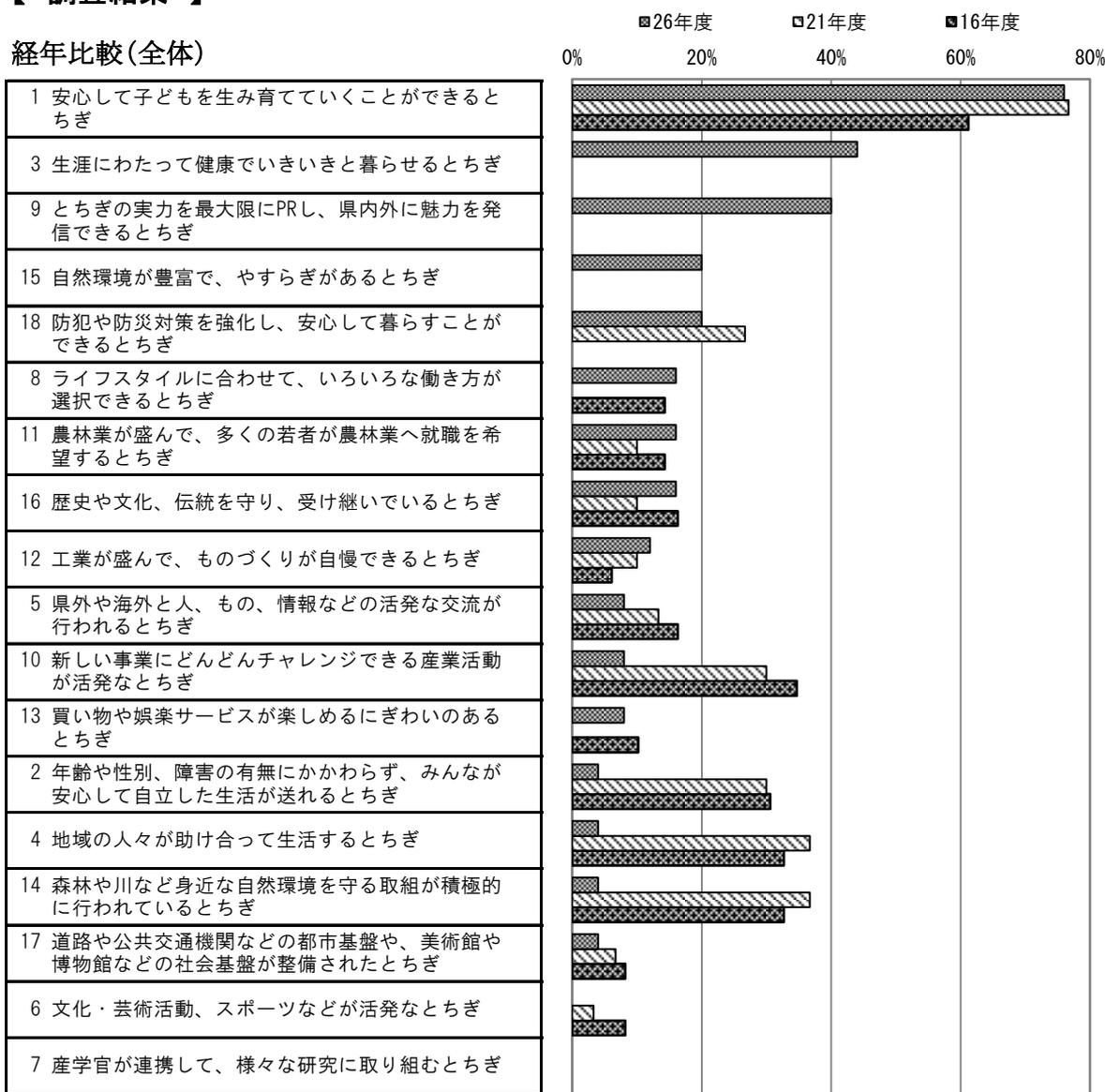
逆に「2 年齢や性別、障害の有無にかかわらず、みんなが安心して自立した生活が送れる」とちぎ「4 地域の人々が助け合って生活する」とちぎ「10 新しい事業にどんどんチャレンジできる産業活動が活発な」とちぎ「14 森林や川など身近な自然環境を守る取組が積極的に行われている」とちぎは、前回(平成21年)と前々回(平成16年)は高かったのに対し、今回は極めて低い結果となった。

### 【 調査内容 】

前回(平成21年)と前々回(平成16年)に実施した調査と比較し、経年変化を見た。

### 【 調査結果 】

#### 経年比較(全体)



### (3)自由意見

栃木県は、東北自動車道、国道4号や東北新幹線などによる東京と東北・北海道を結ぶ南北軸と、全線開通した北関東自動車道による太平洋・日本海ゲートウェイを結ぶ東西軸の結節点に位置するという優位性を有しています。また、災害に関しても、脆弱性は認められません。こうした恵まれた特性を最大限に生かしていくことが大切であると考えます。また、こうした高速交通網は、県外の地域との連携ばかりではなく、県内の各地域間の時間距離を短縮していることから、問5に掲げた1～18の栃木県の良さを県内の在勤・在住・在学者に理解をしていただくために広報活動を強化していくことが大切であると考えます。

・八溝山周辺地域定住自立圏構想など、それぞれの地域がそれぞれの特色・魅力を生かしながら振興に取り組む市町を支援するとちぎであってほしい。  
・選択した「17道路や公共交通機関などの都市基盤や、美術館や博物館などの社会基盤が整備されたとちぎ」と重複するが、近隣県に比較し、都市基盤整備が立後れている部分があるので、今後、重点的に整備を推進することにより、豊かなとちぎを目指すことが期待される。

本市において文武両道、郷土教育を推進しています。また英語コミュニケーション事業、サタデースクール、情報教育の推進等、学校教育の充実に努めています。そのため、「社会変化に対応した学校教育の充実」「個性を活かす学校教育の充実」に取り組むとちぎを考えます。

あれも、これもではなく、栃木の強み、弱みを徹底的に分析し、他県との差別化を図り、「栃木らしい、栃木ならではの」の思い切った政策の展開が肝要である。  
教育環境の充実等についても、重要な施策として掲げる必要がある。

「とちまるくん」をはじめとした「とちキャラズ」のさらなる有効活用

・優良企業が多く、雇用が安定し、生活水準が高いことで、若者が首都圏に流出しないとちぎ  
・産業が活発であり、県民生活が豊かで安全に暮らせる県であること。

県と、市町村は、共存共栄であることが、望ましいと考える。

## 6 次期プランへの意見・要望

人口減少、少子・超高齢社会を迎えるにあたっては、税収の減少や人口増加の時代に整備を進めたインフラが過大になるなど、これまでの均一に拡大させるまちづくりから、高い成長力を持った、持続的な発展が期待できる都市への選択と、集中のまちづくりへの転換が必要であると考えます。こうした視点を持って、次期プランにおいては、「コンパクトなまちづくり」や「高度なネットワークの構築」による「集積度」を高めることによる、県全体での生産性の向上に資する取組を期待する。

- ・少子高齢化対策、子育て環境整備の充実
- ・益々の産業、雇用、観光振興策の充実
- ・人口減社会を迎え、扶助費の増加など財政が硬直化している中、民間活力や市民力の強化・充実（例：自治会など地域コミュニティー組織強化）
- ・公共施設の維持管理を中長期的視野でやっていく必要があり、県のサポートを要する
- ・コンパクトシティー、すなわち一定の生活圏域において、商店や病院、学校等の必要な施設が集積し、自給自足できるような新しいまちの形（例：限界集落への対応、公共交通の充実）

問5で記述した優位性を背景に、有事の際に東京圏（東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県）のバックアップを可能とする整備を計画的かつ地域バランスに重点を置いて推進するプランを積極的かつ明確に位置づけることを希望する。また、これまで、地方分権改革については、地方分権改革推進委員会勧告に基づき、事務・権限の移譲、義務付・枠付けの見直し等に関して、3次にわたる一括法等により着実に推進し、進展をみている。これに加え、第4次一括法案等により、委員会勧告事項については、一通り検討したこととなる。このような成果を基盤とし、個性を活かし自立した地方をつくるためには、地方の声を踏まえつつ、社会経済情勢の変化に対応して、引き続き改革を着実に推進していく必要があることから、地方の発意に根ざした新たな取組を推進するため、委員会勧告方に替えて、個々の地方自治体等からの「提案募集方式」を導入することになった。そこで、次期プランでは、市町に対する権限移譲について、これまで以上に積極的な取り組みを位置づけることを希望する。

「新とちぎ元気プラン」の政策の基本である「人づくり」は、地域を創生していく上で継続的に実施していく必要があると考える。地域の発展は、「人」なくして実施することは難しいため、これまで以上に「人づくり」に力を入れることは重要である。

また、この政策の基本から展開される重点戦略の「安心」「成長」「環境」についても重要であり、今後、ますます力を入れていく必要がある。特に「成長」については、県内市町村合併の効果が表れはじめている時期にあり、各地域が次のステージに「成長」することが必要と考えている。

本市としては、政策全体を「幸福」「健康」「環境」「危機管理」の4つを基本理念とし、地域の特性に応じたオーダーメイドの市政を展開する。これを実現することにより、地域のさらなる「成長」へとつなげ、未来に向けて光り輝き続ける市を目指していく。

このようなことから、県においても、地域特性に考慮した戦略を展開していくことを期待する。これまで以上に栃木県のイメージアップ戦略を強化し、県民としてのステータスを感じることができるよう知名度アップを図るとともに、県民が栃木県に誇りを感じ、さらには県内各地域の発展につながるよう期待します。

平成27年の圏央道の開通に伴い、その周辺部に位置する県南部地域では、社会・経済活動や産業・文化の交流が活発になることが予想されることから、長所を活かし、産業競争力をさらに強化するため、同地域における産業基盤の強化等について、県の集中支援をお願いいたします。また、渡良瀬遊水地、田中正造翁及び足尾銅山をセットとする世界文化遺産登録を推進していただき、その登録効果により地域活性化を推進し、県南・県北に世界文化遺産を有することで、栃木の知名度アップを図っていただくような施策展開を期待します。

- ・市町への移譲事務が増加する一方において、市町単独というよりは、より広域的で効率の期待できる政策を重点化して取り組んでいただきたい。具体的には、電子申請等市町共通の行政サービスのICT化、結婚促進のためのデータベース構築、地域公共交通機関のネットワーク化、全国への工業立地PRの戦略的展開、各市町が取り組む全国展開への側面支援等が挙げられる。
- ・人口の都市流出の防止についてや現在の「新とちぎ元気プラン」には記載のない都市基盤整備について策定を期待しています。
- ・世界遺産の日光を中心に日本国内だけでなく世界に向けた活発な観光誘致の戦略の記載について期待します。

人口減少時代に突入している中で、少子高齢化に歯止めをかけるための「魅力あるとちぎ」を作ることが重要であると考えます。それには、定住促進対策を推進し、若者の働く場所の確保が必要となりますので、自然災害の少なさや首都圏とのアクセスの良さをアピールするとともに、恵まれた立地条件を生かした積極的な企業誘致などの政策を推進していただきたいところです。

また、子どもからお年寄りまで「安心して暮らせるとちぎ」を目指すことも重要であり、子育て環境の充実や教育レベルの向上を図ることや医療、介護及び福祉施設の充実を図ることも必要であると考えております。

栃木県は日光国立公園を有する自然豊かなところでもありますので、この自然環境を守り次世代へ引き継がなければなりません。産業の発展や都市基盤の整備も重要ですので、自然環境との調和を図るとともに、県土のバランスのとれた発展を期待するところでもあります。

なお、現在の重点戦略にもある「市町村重視の県政の推進」につきましては、引き続き市町村への支援をお願いするとともに、地域の実情を踏まえた施策を決定するために必要な許認可の権限移譲につきまして、更なるご検討をお願いいたします。

この5年間「元気度日本一」のスローガンのもと、人づくりを基本とする施策を推進されてきました。常にリーダーシップをとっていただき、県内が活性化されてきていると感じています。特に「本物の出会い栃木」という観光キャッチコピーや、「スカイベリー」をはじめとする農産物ブランドなど、可能性を感じさせる戦略については、引き続き力を注いでいただきたいと思います。県内市町がそれぞれの個性を磨き輝かせることが、栃木県を元気にすることに繋がると考えておりますので、本市としても特色ある施策を展開していきたいと思っております。今後も県内市町と足並みをそろえ、人々が安心して暮らせる栃木県づくりをお願いいたします。

広域的なマッチングを実現できる広域婚活支援事業。市町単位のマッチングではどうしても幅が狭くなり、特に人口規模の小さな自治体においては、大きな自治体より人口減少が深刻にも関わらず、幅が狭い（登録者自体が少ない等）によりマッチングが成り立たない場合が多く、有効な支援とならない場合が多い。そのため、市町の単位を超えた広域的なマッチングの仕組みが必要と考えます。

・県東部八溝地域の活性化について。本市は、栃木県東部八溝地域の中心として、法務省宇都宮地方方法務局烏山支局や栃木県の農業振興事務所と教育事務所等の出先機関があり県行政の中核を担い、又、当地域の商業地として、さらには烏山高校、烏山女子高校があり、大変「賑わいのあるまち」でしたが、時代の流れにより急速に賑わいを失ってしまいました。地方を立て直し、再興を図るには「選択と集中」の考え方のもと、「若者に魅力ある地域拠点」として投資と施策を集中することが重要であります。そのため、交流人口の増加を図り、県東部八溝地域の「賑わいを復活」させるため、県立体育館等県有施設の整備を検討願います。特に、県央、県西、県南、県北地区には総合体育館等が建設されていますが、県東地区には総合体育館等大規模なスポーツ施設が無く、スポーツインフラ整備が遅れています。当地区のスポーツを振興するため、また2022年に開催予定の国民体育大会を成功させるためにも、「県東総合体育館」等のスポーツ施設の検討願います。

・ユネスコ無形文化遺産「山あげ行事」の登録にむけたまちづくりについて。「山・鉾・屋台行事」を構成する32の祭りが2016年秋にはユネスコの「無形文化遺産」登録の審査が予定されております。この中に栃木県では、鹿沼市の鹿沼今宮神社の屋台行事と本市の山あげ行事があります。是非とも「おもてなし」の心で県内外の方々を訪れるよう「まちづくり」を進めるために誘客対策の充実を検討願います。さらに、JR烏山線に全国初の蓄電池電車アキュムも運行されていることから、JR烏山線の利用向上も視野にいたしたプランの検討をお願いいたします。

・国民健康保険の広域連合化について。国民健康保険は、急速な高齢社会の進展や長引く景気低迷により、高齢者や非正規労働者、無職の方など担税力の低い被保険者の加入割合が高いという構造的な問題を抱えています。そのため今後も人口減少の影響により国民健康保険の運営が厳しく、一般会計からの負担が大きくなることが予想されますので、国民健康保険の広域連合化について次期プランで検討願います。

現行プランでは、「元気度」を向上させるための指標、目標の提示が十分ではなかったように思われる。次なるプランでは、本県の強み、弱みを徹底的に分析し、強みを伸ばし、弱みを克服するため、県民と共有できる具体的な目標の設定が必要である。目標については、（一財）日本総合研究所の「幸福度」の考え方、指標等も参考にしながら、県民の幸福度を向上させるため、戦略的かつ具体的で実効ある施策の展開を期待したい。目標達成のために市町との問題意識の共有化や、地域の活性化のために努力している市町に対する技術的助言と共に、財政支援の仕組の創設を期待する。

栃木県の魅力を高めるため、県内各地の特性に合わせた成長戦略が必要。

農林業従事者の高齢化に伴い耕作放棄地等の増加や荒廃山林が目立ち始めている。山林および農地が持つ水源涵養や洪水調整機能などの多面的機能を十分発揮できるような条件整備。いきいきとした活力ある県というイメージを発信し、知名度、好感度を向上させ、「来たい」、「住みたい」県ナンバー1を目指してほしい。

プラン（計画書）は作る側（行政）の視点のみで作成すると一方的な考え方に偏りがちになります。常に見てもらった側（県民）の視点に立ってプランニングをすれば、柔軟且つ大胆な計画ができると思います。栃木県が他都道府県の先駆的な立ち位置をキープする為にも、ぜひとも一歩踏み込んだ「新とちぎ元気プラン」を作成して頂くことを期待しています。

知事のトップセールスに期待しています。

・ 少子高齢者社会にも対応できる交通網の整備、特に、県央地区における宇都宮市の東西市町を結ぶLRTの整備の積極的な支援により、県民生活の利便性、経済性、安全性の確保がされる。  
・ 基幹公共交通と路線バスやデマンド交通等が連携した、安全に移動し易いネットワーク型とちぎの構築により、とちぎの魅力アップにつながり、産業・経済・居住・観光など全ての発展やランクアップにつながる。  
・ 県有施設の有効活用（畜産試験場移転後の利用）・群馬県・茨城県に比べ企業の新規立地が少ない。超高齢化・少子化・人口減少時代では、積極的な大型開発は望むべくもないが、税金や雇用の場などから多少なりとも企業立地は必要。また、人口減少社会では都市間競争が強くなり、東京や大都市への集中が一層進むものと思われることから、転入者の受け皿づくりもハード・ソフトの両面から必要。難しい時だからこそ県が先頭に立って栃木の発展に繋がるまちづくりの方向性を出されたい。

栃木県はチャンスのある県と捉えています。特に、工業分野については、これからの発展が期待されます。景気の波で大きく影響されるものの、その立地の良さは将来を約束させるものでしょう。そこでやはり、子育てについての支援策は、県がリーダーシップをとって頂き、特化した政策を推し進めて頂きたい。こども医療の現物給付は当然のこと、その他のサービスについても、隣接する埼玉県、茨城県、群馬県を意識してサービスの向上に努めて頂きたい。

過去の実績を十分に踏まえ、それらを分析したうえで、新たなる次期プランに生かしてほしい。地に足のついた計画プランの作成を望む。

・ 継続して成果が上がっている取組みと、継続して成果が上がっていない取組みの開きが大きい。成果が上がっていないものの精査を行い、最重点戦略として別のアプローチを加える必要がある。  
次期プランにおいて検討すべき事項、期待するものは以下のとおり。  
1. 政策の基本にある「人づくり」の中で、子ども世代における「基礎学力の底上げ」と、「スポーツ活動の実施率増加」に向けた、大きな取組みを行うべき。  
2. 「未来につなぐ環境戦略」は概ね達成されているが、県民一人ひとりの、地球温暖化対策が課題として残っているため、引き続き啓発活動を行っていく必要がある。  
3. 「明日を拓く成長戦略」では成果が上がっていない観光客の宿泊に係る取組みを行うべき。  
4. 「暮らしを支える安心戦略」では、障害者の活動の場の創出と、高齢者の交通事故防止に力を入れることが課題である。  
5. 県内各市町において人口流出を防ぐための、均衡ある優良企業の誘致を望む。

**参考資料：市町村長意向調査**

市町村名	
------	--

栃木県の次期プランに関する  
市町村長意向調査

平成26年6月

栃 木 県

問1 “とちぎ”の現状評価と今後の行政の取組のあり方について、おたずねします。

新とちぎ元気プランの重点的取組について、次の質問にお答えください。

(1) “とちぎ”の現状評価

調査項目（取組）における“とちぎ”の現状（県行政だけでなく、市町村行政、民間等の活動も含まれます。）について、どのように評価されますか。お考えに最も近い番号に○をつけてください。

(2) 今後の行政の取組のあり方

調査項目（取組）における今後の行政（国・県・市町村）の取組について、どのようにあるべきとお考えですか。お考えに最も近い番号に○をつけてください。

(3) 住民と行政の役割分担のあり方

調査項目（取組）における住民（NPOや企業等を含みます。）と行政の役割分担のあり方について、どのようにあるべきとお考えですか。お考えに最も近い番号に○をつけてください。

(4) 今後の市町村の役割のあり方

調査項目（取組）における行政の役割のうち、地方分権改革などにより、市町村の役割がこれまで以上に大きくなると思われるものについて回答欄に○をつけてください。

~~~~ 記入例 ~~~~

| 分類 | 項目                                                                                                           | (1) “とちぎ”の現状評価 |           |           |          |        | (2) 今後の行政の取組 |          |          | (3) 住民と行政の役割分担のあり方 |               |                     | (4) 今後の市町村の役割 |      |
|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------|-----------|-----------|----------|--------|--------------|----------|----------|--------------------|---------------|---------------------|---------------|------|
|    |                                                                                                              | 充実している         | 比較的充実している | どちらともいえない | やや不十分である | 不十分である | 特に重点的に取り組む   | 現状以上に取組む | 現状程度に取組む | 現状以下でよい            | 行政が中心となる取組むべき | 住民と行政がより密接に連携し取組むべき | 住民が主体的に取り組むべき | このまま |
|    |                                                                                                              | (1)の回答欄        |           |           |          |        | (2)の回答欄      |          |          | (3)の回答欄            |               |                     | (4)の回答欄       |      |
| 1  | <b>【子ども世代】成長の基礎をはぐくむ</b><br>・家庭及び地域における幼児期の教育への支援<br>・幼児教育・保育に携わる教職員・保育士の資質向上<br>・幼稚園・保育所・認定こども園・小学校の連携の充実など | 5              | 4         | 3         | 2        | 1      | 4            | 3        | 2        | 1                  | 3             | 2                   | 1             | ○    |

お考えに最も近い番号に○をつけてください。

今後の市町村の役割が大きくなると思われるものに○をつけてください。

| 分類               | 項目 | (1) “とちぎ”の現状評価                                                                                                                                                        |           |           |          |        | (2) 今後の行政の取組 |           |           |         | (3) 住民と行政の役割分担のあり方 |                         |               | (4) 今後の市町村の役割                    |   |  |
|------------------|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|-----------|----------|--------|--------------|-----------|-----------|---------|--------------------|-------------------------|---------------|----------------------------------|---|--|
|                  |    | 充実している                                                                                                                                                                | 比較的充実している | どちらともいえない | やや不十分である | 不十分である | 特に重点的に取り組む   | 現状以上に取り組む | 現状程度に取り組む | 現状以下でよい | 行政が中心となって取り組むべき    | 住民と行政の取組がより密接に連携し取り組むべき | 住民が主体的に取り組むべき | 地方分権改革による変化も合わせて市町村の役割に大きく変化するもの |   |  |
|                  |    | (1)の回答欄                                                                                                                                                               |           |           |          |        | (2)の回答欄      |           |           |         | (3)の回答欄            |                         |               | (4)の回答欄                          |   |  |
| 人<br>づ<br>く<br>り | 1  | <b>【子ども世代】成長の基礎をはぐくむ</b><br>・家庭及び地域における幼児期の教育への支援<br>・幼児教育・保育に携わる教職員・保育士の資質向上<br>・幼稚園・保育所・認定こども園・小学校の連携の充実など                                                          |           | 5         | 4        | 3      | 2            | 1         | 4         | 3       | 2                  | 1                       | 3             | 2                                | 1 |  |
|                  | 2  | <b>【子ども世代】生きる力をはぐくむ</b><br>・少人数学級の実現や家庭学習の習慣化等による確かな学力の育成、体験活動の充実強化<br>・学校・家庭・地域の連携による教育活動の充実<br>・いじめ・不登校などの未然防止や早期解決<br>・児童生徒の基礎運動能力の向上<br>・障害のある子ども一人ひとりに応じた指導と支援など |           | 5         | 4        | 3      | 2            | 1         | 4         | 3       | 2                  | 1                       | 3             | 2                                | 1 |  |
|                  | 3  | <b>【若者世代】自立する力をはぐくむ</b><br>・企業等における多様な就業体験の機会の充実<br>・ボランティアなどの体験活動の機会の充実<br>・企業ニーズに合わせた訓練内容の充実<br>・高等特別支援学校の整備<br>・ひきこもりやニート等の自立支援<br>・グローバル人材の育成 など                  |           | 5         | 4        | 3      | 2            | 1         | 4         | 3       | 2                  | 1                       | 3             | 2                                | 1 |  |
|                  | 4  | <b>【大人世代】挑戦する心をはぐくむ</b><br>・就職支援の強化<br>・離職者等を対象とした職業訓練の充実<br>・専門的知識の習得や技能の向上への支援<br>・女性の再就職や起業への支援 など                                                                 |           | 5         | 4        | 3      | 2            | 1         | 4         | 3       | 2                  | 1                       | 3             | 2                                | 1 |  |
|                  | 5  | <b>【子育て世代】子育て力をはぐくむ</b><br>・子どもを育てる親や、やがて親となる世代に対する学習機会の充実<br>・家庭教育や子育てに不安を抱える親に対する電話・メール相談の実施<br>・「とちぎの子ども育成憲章」や「家庭の日」の定着に向けた普及啓発 など                                 |           | 5         | 4        | 3      | 2            | 1         | 4         | 3       | 2                  | 1                       | 3             | 2                                | 1 |  |
|                  | 6  | <b>【若者～大人世代】多様な能力を活かす</b><br>・NPO、ボランティア等への参加促進<br>・寄付文化の醸成<br>・社会貢献活動に参加したい人と活動とのマッチングなど                                                                             |           | 5         | 4        | 3      | 2            | 1         | 4         | 3       | 2                  | 1                       | 3             | 2                                | 1 |  |
|                  | 7  | <b>【シルバー世代】知恵と能力を活かす</b><br>・社会参加のきっかけづくりと人材の養成<br>・技能等の発表と伝承の場づくり<br>・就労相談や就職情報の提供等、多様な働き方への支援など                                                                     |           | 5         | 4        | 3      | 2            | 1         | 4         | 3       | 2                  | 1                       | 3             | 2                                | 1 |  |

|      |    | (1) “とちぎ”の現状評価                                                                                                                                                                                  | (2) 今後の行政の取組 |   |   |   | (3) 住民と行政の役割分担のあり方 |   |   |   | (4) 今後の市町村の役割 |        |           |           |          |
|------|----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------|---|---|---|--------------------|---|---|---|---------------|--------|-----------|-----------|----------|
|      |    |                                                                                                                                                                                                 |              |   |   |   |                    |   |   |   |               | 充実している | 比較的充実している | どちらともいえない | やや不十分である |
| 分類   | 項目 | (1)の回答欄                                                                                                                                                                                         |              |   |   |   | (2)の回答欄            |   |   |   | (3)の回答欄       |        |           | (4)の回答欄   |          |
| 人づくり | 8  | <b>地域文化を通じた心豊かな人づくりと世代間交流の促進</b><br><ul style="list-style-type: none"> <li>文化の鑑賞機会の提供・文化の発表活動への支援</li> <li>地域の芸術家や伝統芸能保持者等の育成</li> <li>地域の伝統的行事等の保存・継承活動への支援 など</li> </ul>                      | 5            | 4 | 3 | 2 | 1                  | 4 | 3 | 2 | 1             | 3      | 2         | 1         |          |
|      | 9  | <b>スポーツによる健やかな人づくりと世代間交流の促進</b><br><ul style="list-style-type: none"> <li>総合スポーツゾーンの整備</li> <li>障害者がスポーツしやすい環境づくり</li> <li>総合型地域スポーツクラブの育成・支援</li> <li>本県で開催する国体に向けた競技力の向上 など</li> </ul>        | 5            | 4 | 3 | 2 | 1                  | 4 | 3 | 2 | 1             | 3      | 2         | 1         |          |
| 安心戦略 | 10 | <b>地域における子育ての支援</b><br><ul style="list-style-type: none"> <li>地域子育て支援拠点の整備促進</li> <li>ファミリー・サポート・センターの設置促進</li> <li>放課後児童クラブの整備促進</li> <li>子どもの健やかな成長・発達を促すための母子保健サービスの充実 など</li> </ul>         | 5            | 4 | 3 | 2 | 1                  | 4 | 3 | 2 | 1             | 3      | 2         | 1         |          |
|      | 11 | <b>保育サービスの充実</b><br><ul style="list-style-type: none"> <li>保育所・認定こども園の新設や定員の増員等の促進</li> <li>小規模な保育施設の充実促進</li> <li>病児・病後児保育、延長保育、休日保育等の多様な保育サービスの充実促進</li> <li>第3子以降の3歳未満児の保育料の免除 など</li> </ul> | 5            | 4 | 3 | 2 | 1                  | 4 | 3 | 2 | 1             | 3      | 2         | 1         |          |
|      | 12 | <b>子どもを守りはぐくむ体制づくり</b><br><ul style="list-style-type: none"> <li>児童虐待問題への対応</li> <li>児童相談所の体制強化や市町村等との連携強化</li> <li>児童養護施設における小規模グループケアの導入や里親委託の促進</li> <li>ひとり親家庭に対する生活支援・就労支援 など</li> </ul>   | 5            | 4 | 3 | 2 | 1                  | 4 | 3 | 2 | 1             | 3      | 2         | 1         |          |
|      | 13 | <b>仕事と子育ての両立支援</b><br><ul style="list-style-type: none"> <li>子育てしやすい職場環境の実現に向けた企業等の取組促進</li> <li>出産や育児で退職した女性の再就職支援 など</li> </ul>                                                               | 5            | 4 | 3 | 2 | 1                  | 4 | 3 | 2 | 1             | 3      | 2         | 1         |          |
|      | 14 | <b>学校及び学校周辺における安全の確保</b><br><ul style="list-style-type: none"> <li>学校の耐震化や通学路の歩道の整備</li> <li>学校安全ボランティア等による地域における見守り活動等の促進 など</li> </ul>                                                        | 5            | 4 | 3 | 2 | 1                  | 4 | 3 | 2 | 1             | 3      | 2         | 1         |          |

| 分類               | 項目                                                                                                                                                                                    | (1) “とちぎ” の現状評価                                                                                                                                                                           |           |           |          |        | (2) 今後の行政の取組 |           |           |         | (3) 住民と行政の役割分担のあり方 |             |                      | (4) 今後の市町村の役割 |                                      |  |
|------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|-----------|----------|--------|--------------|-----------|-----------|---------|--------------------|-------------|----------------------|---------------|--------------------------------------|--|
|                  |                                                                                                                                                                                       | 充実している                                                                                                                                                                                    | 比較的充実している | どちらともいえない | やや不十分である | 不十分である | 特に重点的に取り組む   | 現状以上に取り組む | 現状程度に取り組む | 現状以下でよい | 組むべき               | 行政が中心となって取り | 住民と行政がより密接に連携し取り組むべき | 住民が主体的に取り組むべき | 地方分権改革による変化も合わせて市町村の役割がこれまでに大きく異なるもの |  |
|                  |                                                                                                                                                                                       | (1)の回答欄                                                                                                                                                                                   |           |           |          |        | (2)の回答欄      |           |           |         | (3)の回答欄            |             |                      | (4)の回答欄       |                                      |  |
| 安<br>心<br>戦<br>略 | 15                                                                                                                                                                                    | <b>地域における支え合いの推進</b>                                                                                                                                                                      |           |           |          |        |              |           |           |         |                    |             |                      |               |                                      |  |
|                  |                                                                                                                                                                                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>福祉・介護職員の養成と定着促進</li> <li>地域包括支援センターの機能強化</li> <li>高齢者の見守りネットワーク構築やサロン等の居場所づくりの促進</li> <li>認知症高齢者等に対する総合的支援の推進</li> <li>高齢者の多様な住まいの確保 など</li> </ul> |           | 5         | 4        | 3      | 2            | 1         | 4         | 3       | 2                  | 1           | 3                    | 2             | 1                                    |  |
|                  | 16                                                                                                                                                                                    | <b>障害者が地域で暮らせる体制づくり</b>                                                                                                                                                                   |           |           |          |        |              |           |           |         |                    |             |                      |               |                                      |  |
|                  |                                                                                                                                                                                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>障害者の生活を支える地域における相談支援ネットワークの構築</li> <li>相談支援専門員の資質向上</li> <li>障害者の工賃アップに向けた支援</li> <li>就労支援の充実 など</li> </ul>                                        |           | 5         | 4        | 3      | 2            | 1         | 4         | 3       | 2                  | 1           | 3                    | 2             | 1                                    |  |
|                  | 17                                                                                                                                                                                    | <b>長寿社会における健康づくりの推進</b>                                                                                                                                                                   |           |           |          |        |              |           |           |         |                    |             |                      |               |                                      |  |
|                  |                                                                                                                                                                                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>県民の健康を支え、守るための社会環境の整備</li> <li>健康づくりのための県民運動の推進</li> <li>高齢者の介護予防の推進</li> <li>歯や口腔の健康づくりの推進</li> <li>がん検診や特定健康診査の受診促進 など</li> </ul>                |           | 5         | 4        | 3      | 2            | 1         | 4         | 3       | 2                  | 1           | 3                    | 2             | 1                                    |  |
|                  | 18                                                                                                                                                                                    | <b>地域で安心できる医療の確保</b>                                                                                                                                                                      |           |           |          |        |              |           |           |         |                    |             |                      |               |                                      |  |
|                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>医師、看護師、助産師など医療従事者の確保支援</li> <li>かかりつけ医やかかりつけ薬局の普及定着の促進</li> <li>救急医療や周産期医療における連携体制の充実</li> <li>災害時における医療体制の整備</li> <li>在宅医療体制の充実 など</li> </ul> |                                                                                                                                                                                           | 5         | 4         | 3        | 2      | 1            | 4         | 3         | 2       | 1                  | 3           | 2                    | 1             |                                      |  |
| 19               | <b>総合的な自殺対策の推進</b>                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                           |           |           |          |        |              |           |           |         |                    |             |                      |               |                                      |  |
|                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>相談支援機関における人材の育成や包括的な相談支援の推進</li> <li>関係機関の相互連携・ネットワークの構築</li> <li>地域で自殺のサインに気づき、見守り、相談へとつなぐゲートキーパーの養成 など</li> </ul>                            |                                                                                                                                                                                           | 5         | 4         | 3        | 2      | 1            | 4         | 3         | 2       | 1                  | 3           | 2                    | 1             |                                      |  |
| 20               | <b>住民による地域コミュニティの再生</b>                                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                           |           |           |          |        |              |           |           |         |                    |             |                      |               |                                      |  |
|                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>中山間地域の高齢化が進む集落における住民による課題解決のための取組への支援</li> <li>地域の自立に向けたコミュニティ活動への支援 など</li> </ul>                                                             |                                                                                                                                                                                           | 5         | 4         | 3        | 2      | 1            | 4         | 3         | 2       | 1                  | 3           | 2                    | 1             |                                      |  |
| 21               | <b>住民の助け合いによる防犯・防災の促進</b>                                                                                                                                                             |                                                                                                                                                                                           |           |           |          |        |              |           |           |         |                    |             |                      |               |                                      |  |
|                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>県民の防犯・防災意識の高揚</li> <li>自主防犯・防災活動への参加促進 など</li> </ul>                                                                                           |                                                                                                                                                                                           | 5         | 4         | 3        | 2      | 1            | 4         | 3         | 2       | 1                  | 3           | 2                    | 1             |                                      |  |

| 分類               | 項目 | (1) “とちぎ”の現状評価   |           |                                                                                                                                                                                                      |          |        | (2) 今後の行政の取組 |           |           |         | (3) 住民と行政の役割分担のあり方 |             |                      | (4) 今後の市町村の役割 |                                       |   |   |  |
|------------------|----|------------------|-----------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------|--------|--------------|-----------|-----------|---------|--------------------|-------------|----------------------|---------------|---------------------------------------|---|---|--|
|                  |    | 充実している           | 比較的充実している | どちらともいえない                                                                                                                                                                                            | やや不十分である | 不十分である | 特に重点的に取り組む   | 現状以上に取り組む | 現状程度に取り組む | 現状以下でよい | 組むべき               | 行政が中心となつて取り | 住民と行政がより密接に連携し取り組むべき | 住民が主体的に取り組むべき | 地方分権改革による変化も合わせて市町村の役割がこれまで以上に大きくなるもの |   |   |  |
|                  |    | (1)の回答欄          |           |                                                                                                                                                                                                      |          |        | (2)の回答欄      |           |           |         | (3)の回答欄            |             |                      | (4)の回答欄       |                                       |   |   |  |
| 安<br>心<br>戦<br>略 | 22 | 地域の移動手段の確保       |           | <ul style="list-style-type: none"> <li>需要や目的に合った公共交通の確保・充実</li> <li>使いやすい公共交通の導入促進 など</li> </ul>                                                                                                     |          | 5      | 4            | 3         | 2         | 1       | 4                  | 3           | 2                    | 1             | 3                                     | 2 | 1 |  |
|                  | 23 | 消費生活における安全・安心の確保 |           | <ul style="list-style-type: none"> <li>消費生活センターの機能の充実・強化</li> <li>若者や高齢者等を対象とした消費者教育・啓発の充実</li> <li>悪質事業者に対する指導の強化</li> <li>食に関する安全・安心・信頼性の確保 など</li> </ul>                                          |          | 5      | 4            | 3         | 2         | 1       | 4                  | 3           | 2                    | 1             | 3                                     | 2 | 1 |  |
|                  | 24 | 犯罪が発生しにくい地域づくり   |           | <ul style="list-style-type: none"> <li>住民が安全に暮らすための地域安全情報の提供</li> <li>子ども・女性・高齢者を犯罪から守る対策の推進</li> <li>街頭犯罪や住宅等における侵入犯罪等への対策の推進など</li> </ul>                                                          |          | 5      | 4            | 3         | 2         | 1       | 4                  | 3           | 2                    | 1             | 3                                     | 2 | 1 |  |
|                  | 25 | 高齢者の交通事故抑止       |           | <ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者に対する交通安全教育の推進</li> <li>運転者の交通安全意識を高める「子どもや高齢者に優しい3S運動」の推進</li> <li>スピードダウン運動の推進 など</li> </ul>                                                              |          | 5      | 4            | 3         | 2         | 1       | 4                  | 3           | 2                    | 1             | 3                                     | 2 | 1 |  |
|                  | 26 | 被害者等支援の推進        |           | <ul style="list-style-type: none"> <li>犯罪被害者等支援体制の充実</li> <li>DV被害者等支援の推進 など</li> </ul>                                                                                                              |          | 5      | 4            | 3         | 2         | 1       | 4                  | 3           | 2                    | 1             | 3                                     | 2 | 1 |  |
| 成<br>長<br>戦<br>略 | 27 | 本県の強みを活かした産業の振興  |           | <ul style="list-style-type: none"> <li>産学官金のネットワーク形成による相互交流、情報交換への支援</li> <li>質の高い多様な人材の育成・確保への支援</li> <li>中小企業の技術力・生産力の強化に向けた研究開発や新製品開発等への支援</li> <li>中小企業と大手企業等とのマッチングの強化による販路開拓への支援 など</li> </ul> |          | 5      | 4            | 3         | 2         | 1       | 4                  | 3           | 2                    | 1             | 3                                     | 2 | 1 |  |
|                  | 28 | 挑戦し、成長する企業の創出    |           | <ul style="list-style-type: none"> <li>創業、新事業展開への支援</li> <li>小規模事業者の経営力向上への支援</li> <li>伝統工芸品産業の競争力強化の取組への支援 など</li> </ul>                                                                            |          | 5      | 4            | 3         | 2         | 1       | 4                  | 3           | 2                    | 1             | 3                                     | 2 | 1 |  |

| 分類   | 項目 | (1) “とちぎ”の現状評価       |           |                                                                                                                                                                                                          |          |        | (2) 今後の行政の取組 |           |           |         | (3) 住民と行政の役割分担のあり方 |                      |               | (4) 今後の市町村の役割                       |   |   |   |  |
|------|----|----------------------|-----------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------|--------|--------------|-----------|-----------|---------|--------------------|----------------------|---------------|-------------------------------------|---|---|---|--|
|      |    | 充実している               | 比較的充実している | どちらともいえない                                                                                                                                                                                                | やや不十分である | 不十分である | 特に重点的に取り組む   | 現状以上に取り組む | 現状程度に取り組む | 現状以下でよい | 組むべき               | 住民と行政がより密接に連携し取り組むべき | 住民が主体的に取り組むべき | 地方分権改革による変化も合わせて市町村の役割がこれまでも大きくなるもの |   |   |   |  |
|      |    | (1)の回答欄              |           |                                                                                                                                                                                                          |          |        | (2)の回答欄      |           |           |         | (3)の回答欄            |                      |               | (4)の回答欄                             |   |   |   |  |
| 成長戦略 | 29 | 戦略的な企業誘致の推進          |           | <ul style="list-style-type: none"> <li>企業立地優遇制度を活用した企業誘致の推進</li> <li>官民一体の企業誘致活動の展開</li> <li>知事によるトップセールスの拡充</li> <li>計画的な産業団地の提供、インフラの整備確保</li> <li>既立地企業の定着促進 など</li> </ul>                            |          | 5      | 4            | 3         | 2         | 1       | 4                  | 3                    | 2             | 1                                   | 3 | 2 | 1 |  |
|      | 30 | 力強い農業の推進             |           | <ul style="list-style-type: none"> <li>プロ農家の育成</li> <li>新規就農の促進や企業の農業参入の支援</li> <li>いちご「スカイベリー」をはじめとする県産農産物のブランド力向上</li> <li>県産農産物の国内外への販路拡大に対する支援 など</li> </ul>                                         |          | 5      | 4            | 3         | 2         | 1       | 4                  | 3                    | 2             | 1                                   | 3 | 2 | 1 |  |
|      | 31 | フードバレーとちぎの推進         |           | <ul style="list-style-type: none"> <li>産学官連携による食品産業等における新商品開発・新技術開発の支援</li> <li>国内外への販路開拓に対する支援</li> <li>食品製造関連企業誘致の推進</li> <li>農業者自らが加工・販売に取り組む農業の6次産業化の推進 など</li> </ul>                                |          | 5      | 4            | 3         | 2         | 1       | 4                  | 3                    | 2             | 1                                   | 3 | 2 | 1 |  |
|      | 32 | 魅力あふれる観光地づくり         |           | <ul style="list-style-type: none"> <li>観光振興を担う人材の育成</li> <li>地域全体でのおもてなしの向上</li> <li>行楽期の渋滞対策のためのパーク&amp;バスライド等の取組促進</li> <li>エコツーリズム等の新たな旅行分野の開拓促進</li> <li>観光地の案内標識等の観光基盤の整備促進 など</li> </ul>           |          | 5      | 4            | 3         | 2         | 1       | 4                  | 3                    | 2             | 1                                   | 3 | 2 | 1 |  |
|      | 33 | 戦略的な誘客の推進            |           | <ul style="list-style-type: none"> <li>首都圏等におけるキャンペーン展開や旅行エージェント等へのPRなどによる誘客宣伝の強化</li> <li>とちまるショップを活用した効果的な情報発信</li> <li>北関東自動車道等を活用した誘客促進</li> <li>外国人観光客の誘客対策の推進</li> <li>海外における誘客活動の展開 など</li> </ul> |          | 5      | 4            | 3         | 2         | 1       | 4                  | 3                    | 2             | 1                                   | 3 | 2 | 1 |  |
|      | 34 | 住み続けたい、住んでみたい地域づくり   |           | <ul style="list-style-type: none"> <li>地域住民が主体となった創意工夫あふれる地域づくり活動への支援</li> <li>中心市街地の活性化やまちなか居住の誘導等によるコンパクトなまちづくりの促進</li> <li>公共交通の充実や自転車の利用環境の整備</li> <li>二地域居住やUJターン等の促進 など</li> </ul>                 |          | 5      | 4            | 3         | 2         | 1       | 4                  | 3                    | 2             | 1                                   | 3 | 2 | 1 |  |
|      | 35 | 交流と連携によるにぎわいのある地域づくり |           | <ul style="list-style-type: none"> <li>市町村域を越えた地域同士の連携</li> <li>食の魅力や体験型の交流施設等を活かした都市農村交流の促進</li> <li>企業や大学等による農村環境保全活動等の推進</li> <li>地域づくりの核となる人材やまちづくり団体等の育成・支援 など</li> </ul>                           |          | 5      | 4            | 3         | 2         | 1       | 4                  | 3                    | 2             | 1                                   | 3 | 2 | 1 |  |

| 分類   | 項目                                                                                                                                                                                            | (1) “とちぎ”の現状評価                                                                                                                                        |           |           |          |        | (2) 今後の行政の取組 |           |           |         | (3) 住民と行政の役割分担のあり方 |             |                      | (4) 今後の市町村の役割 |                                     |  |
|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|-----------|----------|--------|--------------|-----------|-----------|---------|--------------------|-------------|----------------------|---------------|-------------------------------------|--|
|      |                                                                                                                                                                                               | 充実している                                                                                                                                                | 比較的充実している | どちらともいえない | やや不十分である | 不十分である | 特に重点的に取り組む   | 現状以上に取り組む | 現状程度に取り組む | 現状以下でよい | 組むべき               | 行政が中心となって取り | 住民と行政がより密接に連携し取り組むべき | 住民が主体的に取り組むべき | 地方分権改革による変化も合わせて市町村の役割がこれらより大きくなるもの |  |
|      |                                                                                                                                                                                               | (1)の回答欄                                                                                                                                               |           |           |          |        | (2)の回答欄      |           |           |         | (3)の回答欄            |             |                      | (4)の回答欄       |                                     |  |
| 環境戦略 | 36                                                                                                                                                                                            | <b>環境を守る人材の育成</b>                                                                                                                                     |           |           |          |        |              |           |           |         |                    |             |                      |               |                                     |  |
|      |                                                                                                                                                                                               | <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちが環境に関する体験や学習を行う機会の提供</li> <li>環境活動の牽引役となる人材の育成 など</li> </ul>                                              |           | 5         | 4        | 3      | 2            | 1         | 4         | 3       | 2                  | 1           | 3                    | 2             | 1                                   |  |
|      | 37                                                                                                                                                                                            | <b>身近にできる環境保全活動の推進</b>                                                                                                                                |           |           |          |        |              |           |           |         |                    |             |                      |               |                                     |  |
|      |                                                                                                                                                                                               | <ul style="list-style-type: none"> <li>省エネ実践行動やエコドライブなどの普及啓発</li> <li>「レジ袋削減」の推進 など</li> </ul>                                                        |           | 5         | 4        | 3      | 2            | 1         | 4         | 3       | 2                  | 1           | 3                    | 2             | 1                                   |  |
|      | 38                                                                                                                                                                                            | <b>暮らしにおける低炭素社会に向けた取組の推進</b>                                                                                                                          |           |           |          |        |              |           |           |         |                    |             |                      |               |                                     |  |
|      |                                                                                                                                                                                               | <ul style="list-style-type: none"> <li>一般住宅への太陽光発電システムや省エネ家電等の普及促進</li> <li>電気自動車などのエコカーへの転換促進</li> <li>公共交通機関の利用者の拡大</li> <li>自転車の利用促進 など</li> </ul> |           | 5         | 4        | 3      | 2            | 1         | 4         | 3       | 2                  | 1           | 3                    | 2             | 1                                   |  |
|      | 39                                                                                                                                                                                            | <b>環境にやさしいエネルギーの地産地消の挑戦</b>                                                                                                                           |           |           |          |        |              |           |           |         |                    |             |                      |               |                                     |  |
|      | <ul style="list-style-type: none"> <li>太陽光や小水力発電などの再生可能エネルギー利活用の促進 など</li> </ul>                                                                                                              |                                                                                                                                                       | 5         | 4         | 3        | 2      | 1            | 4         | 3         | 2       | 1                  | 3           | 2                    | 1             |                                     |  |
| 40   | <b>環境関連産業の振興による環境先進県とちぎづくり</b>                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                       |           |           |          |        |              |           |           |         |                    |             |                      |               |                                     |  |
|      | <ul style="list-style-type: none"> <li>環境対応型自動車に関する技術開発への支援</li> <li>環境関連企業誘致の推進</li> <li>二酸化炭素排出削減等に取り組む中小企業への支援など</li> </ul>                                                                |                                                                                                                                                       | 5         | 4         | 3        | 2      | 1            | 4         | 3         | 2       | 1                  | 3           | 2                    | 1             |                                     |  |
| 41   | <b>持続的発展が可能な循環型社会の形成促進</b>                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                       |           |           |          |        |              |           |           |         |                    |             |                      |               |                                     |  |
|      | <ul style="list-style-type: none"> <li>バイオマス利活用への支援</li> <li>森林施業と林業経営を支える人材育成への支援</li> <li>県産出材の県内及び首都圏への販売促進</li> <li>間伐材など県産出材の多段階利用の促進</li> <li>廃棄物の発生抑制、再使用、再生利用（3R）等の取組促進 など</li> </ul> |                                                                                                                                                       | 5         | 4         | 3        | 2      | 1            | 4         | 3         | 2       | 1                  | 3           | 2                    | 1             |                                     |  |
| 42   | <b>とちぎの豊かな自然環境の保全</b>                                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                       |           |           |          |        |              |           |           |         |                    |             |                      |               |                                     |  |
|      | <ul style="list-style-type: none"> <li>自然公園等や里地里山などの保全と適正な利用促進</li> <li>自然観察会や生き物調査などの自然とふれあう機会の提供</li> <li>広葉樹林化や間伐等による森林の公益的機能の増進など</li> </ul>                                              |                                                                                                                                                       | 5         | 4         | 3        | 2      | 1            | 4         | 3         | 2       | 1                  | 3           | 2                    | 1             |                                     |  |

|      |    | (1) “とちぎ” の現状評価                                                                                                                                                                                           | (2) 今後の行政の取組 |   |   |         | (3) 住民と行政の役割分担のあり方 |   |   |         | (4) 今後の市町村の役割 |        |           |           |          |
|------|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------|---|---|---------|--------------------|---|---|---------|---------------|--------|-----------|-----------|----------|
|      |    |                                                                                                                                                                                                           |              |   |   |         |                    |   |   |         |               | 充実している | 比較的充実している | どちらともいえない | やや不十分である |
| 分類   | 項目 | (1)の回答欄                                                                                                                                                                                                   |              |   |   | (2)の回答欄 |                    |   |   | (3)の回答欄 |               |        | (4)の回答欄   |           |          |
| 環境戦略 | 43 | <b>生物多様性の確保</b><br><ul style="list-style-type: none"> <li>・絶滅のおそれのある種の生息・生育地の自然環境保全地域への指定</li> <li>・自然公園等における生態系を維持・回復するための調査・取組の実施</li> <li>・野生鳥獣による農林業被害防止対策</li> <li>・捕獲の担い手である狩猟者の確保・育成 など</li> </ul> | 5            | 4 | 3 | 2       | 1                  | 4 | 3 | 2       | 1             | 3      | 2         | 1         |          |
|      | 44 | <b>災害に強い地域づくり</b><br><ul style="list-style-type: none"> <li>・防災拠点施設における再生可能エネルギー等の導入など災害時の電源確保</li> <li>・災害時の被害を軽減するための避難路、緊急輸送道路等の整備</li> <li>・洪水対策、土砂災害対策のための河川整備、砂防施設等の整備 など</li> </ul>                | 5            | 4 | 3 | 2       | 1                  | 4 | 3 | 2       | 1             | 3      | 2         | 1         |          |
|      | 45 | <b>原子力災害対策</b><br><ul style="list-style-type: none"> <li>・空間放射線量のモニタリング調査</li> <li>・健康影響に関するリスクコミュニケーション</li> <li>・県産農産物のモニタリング検査</li> <li>・風評被害対策 など</li> </ul>                                          | 5            | 4 | 3 | 2       | 1                  | 4 | 3 | 2       | 1             | 3      | 2         | 1         |          |
|      | 46 | <b>身近な社会資本と生活基盤の整備</b><br><ul style="list-style-type: none"> <li>・道路・河川の整備、道路施設等の長寿命化</li> <li>・下水道の整備や浄化槽の設置促進</li> <li>・高齢社会に対応したバリアフリー化の推進</li> <li>・高度道路交通システム（ITS）による交通事故や渋滞対策 など</li> </ul>         | 5            | 4 | 3 | 2       | 1                  | 4 | 3 | 2       | 1             | 3      | 2         | 1         |          |
|      | 47 | <b>雇用対策</b><br><ul style="list-style-type: none"> <li>・若者、障害者、高齢者等に対する就労支援</li> <li>・離職者等に対する再就職のための職業訓練の実施</li> <li>・雇用・就業機会の創出や人材育成 など</li> </ul>                                                       | 5            | 4 | 3 | 2       | 1                  | 4 | 3 | 2       | 1             | 3      | 2         | 1         |          |

問2 「人口減少問題」について、おたずねします。

本県の人口は、平成17年をピークにゆるやかな減少に転じており、今後、少子化の進行により人口減少のペースが徐々に速まると見込まれています。また、進学や就職等に伴う都市部への人口流出が、地方の人口減少に拍車をかけ、近い将来、地域コミュニティの維持が困難になる地域も出てくるとの推計も出されています。そのような状況を踏まえ、次の問いにお答えください。

問2-1 貴市町村の今後の人口動態について、どのように推移していくとお考えですか。貴市町村の特徴を踏まえて、下欄に記入してください。

|               |
|---------------|
| ① 人口の推移について   |
| ② 自然動態の推移について |
| ③ 社会動態の推移について |

問2-2 「人口減少問題」への今後の対策について、おたずねします。

|                                       |
|---------------------------------------|
| ① <u>少子化対策</u> として有効とお考えのものを記入してください。 |
|---------------------------------------|

【次のページに続く】

② 人口流出防止対策として有効とお考えのものを記入してください。

③ 対策を講じても人口減少に歯止めがかからない場合に生じる、行政運営上の課題を記入してください。

(「人口減少問題」に対するお考えを、御自由に記入してください。)

問3 貴市町村において、今後重点的に推進していく項目について、おたずねします。

貴市町村において、次の分野の中で、今後特に重点的に推進していくべきとお考えのものは何ですか。次の中から上位5位まで選び、回答欄に番号を記入してください。また、選んだ分野に関して、具体的内容や今後推進していくに当たり課題となること等がありましたら、記入してください。

- 1 子育て (育児と仕事の両立支援、待機児童解消、ひとり親家庭の支援 など)
- 2 教育 (基礎学力向上、体験教育の充実、特別支援教育の充実 など)
- 3 安心・健康 (医療、福祉、介護、健康長寿 など)
- 4 雇用・産業 (企業誘致、雇用創出、農林業振興、研究機関誘致 など)
- 5 環境・エネルギー (省エネ、低炭素社会、再生可能エネルギー、循環型社会 など)
- 6 観光 (歴史・文化遺産、グルメ、国際誘客、自然公園整備 など)
- 7 地域を支える人材確保 (就労支援、高齢者・女性活躍推進、NPO等との連携 など)
- 8 地域づくり (定住促進、地域間・世代間交流、住民協働 など)
- 9 自然環境 (貴重な自然等の保全、生物多様性、緑化活動 など)
- 10 社会資本整備 (防災・減災、生活交通、老朽化対策、長寿命化 など)
- 11 文化・スポーツ (伝統行事の保存・継承、文化芸術活動支援、スポーツ施設 など)
- 12 行財政改革 (財政健全化、地方分権改革、効率的な組織づくり など)

(回答欄)

|        | 番 号 | 具 体 的 内 容 、 そ の 他 課 題 な ど |
|--------|-----|---------------------------|
| 1<br>位 |     |                           |
| 2<br>位 |     |                           |
| 3<br>位 |     |                           |
| 4<br>位 |     |                           |
| 5<br>位 |     |                           |

問4 貴市町村における特色ある地域づくりについて、おたずねします。

貴市町村において、特色ある地域づくりの核として活かしていきたいとお考えのものは何ですか。次の中から3つまでを選び、回答欄に番号と具体的内容を記入してください。

- 1 国立公園等の貴重な自然環境
- 2 水辺・里山等の身近で豊かな自然環境
- 3 豊富な観光資源
- 4 道路網の発達や東京圏等からのアクセス
- 5 豊かな都市環境と高次都市機能の集積
- 6 活力ある商業・サービス業
- 7 製造業を中心とした工業や先端技術産業
- 8 伝統産業・地場産業
- 9 地域特性を活かした豊かな農林水産業
- 10 遺跡、史跡や郷土文化、民俗芸能等の歴史・文化資源
- 11 整備された文化・生涯学習・スポーツ施設における活発な活動
- 12 人と人とのつながりを活かした地域コミュニティ
- 13 多くの人から好まれる地域特有の食文化
- 14 その他（上記以外の新たな資源など）

（回答欄）

| 番 号 | 具 体 的 内 容 |
|-----|-----------|
|     |           |
|     |           |
|     |           |

問5 望ましい「“とちぎ”の姿」について、おたずねします。

これからの“とちぎ”がどのようなようであったらよいとお考えですか。次の中から3つまで選び、回答欄に番号を記入してください。

- 1 安心して子どもを生き育てていくことができるとちぎ
- 2 年齢や性別、障害の有無にかかわらず、みんなが安心して自立した生活が送れるとちぎ
- 3 生涯にわたって健康でいきいきと暮らせるとちぎ
- 4 地域の人々が助け合って生活するとちぎ
- 5 県外や海外と人、もの、情報などの活発な交流が行われるとちぎ
- 6 文化・芸術活動、スポーツなどが活発なとちぎ
- 7 産学官が連携して、様々な研究に取り組むとちぎ
- 8 ライフスタイルに合わせて、いろいろな働き方が選択できるとちぎ
- 9 とちぎの実力を最大限にPRし、県内外に魅力を発信できるとちぎ
- 10 新しい事業にどんどんチャレンジできる産業活動が活発なとちぎ
- 11 農林業が盛んで、多くの若者が農林業へ就職を希望するとちぎ
- 12 工業が盛んで、ものづくりが自慢できるとちぎ
- 13 買い物や娯楽サービスが楽しめるにぎわいのあるとちぎ
- 14 森林や川など身近な自然環境を守る取組が積極的に行われているとちぎ
- 15 自然環境が豊富で、やすらぎがあるとちぎ
- 16 歴史や文化、伝統を守り、受け継いでいるとちぎ
- 17 道路や公共交通機関などの都市基盤や、美術館や博物館などの社会基盤が整備されたとちぎ
- 18 防犯や防災対策を強化し、安心して暮らすことができるとちぎ

(回答欄)

|  |  |  |
|--|--|--|
|  |  |  |
|--|--|--|

(上記のほかに、大切にしたいとちぎの姿がありましたら、下欄に記入してください。)

|  |
|--|
|  |
|--|



